

平成24年度

事業
報告



THE ASAHI SHIMBUN SOCIAL WELFARE ORGANIZATION

朝日の社会福祉 2012

社会福祉法人 朝日新聞厚生文化事業団

はじめに

「共に生きる豊かな福祉社会」のために

東日本大震災から2年がたちました。復興に向けての歩みが続く一方で、今なお、30万人を超える被災された方々が避難生活をしています。朝日新聞社とともに呼びかけた東日本大震災救援募金には、2013年3月末現在で、総額36億円もの志が寄せられました。いかに早く、いかに実のある形で、必要とされる方々に届けるか。実務に当たりながら、被災者支援が、「息の長い仕事」であることを改めて痛感しています。

2012年度事業では、引き続き東日本大震災被災者救援・復興支援事業に力を注ぎました。両親を失った子どもたちへの「こども応援金」は、13年3月末までに、対象と見込んできた子どもの9割に当たる201人に総額4億8700万円を贈ることができました。震災で大きな被害を受けた岩手県陸前高田市米崎町には、13年2月、当事業団の震災救援事業に寄せられた寄付5000万円で、「朝日のあたる家」を建設しました。当事業団やNPO法人などの団体が、復興に向けた取り組みを支援していく拠点となるほか、地元の皆様による情報交換や、簡単なお茶会開催など、誰でも集えることができる場所として活用してもらうことを考えています。また、被災して不自由な生活を強いられている方々に、心豊かなひとときを過ごしていただこうと企画した「被災地ビジット」は、12年度も継続して実施。バイオリニストの千住真理子さんらが計35カ所を訪問しました。

当事業団は2013年の今年、創立85年を迎えました。これに合わせ、今後の進むべき道筋を見据え、中・長期的な展望を基にした「新3年計画2013-2015」を策定し、3月の理事会・評議員会で承認を得ました。「子ども」「障害のある人」「高齢者」を事業の3本柱とする基本方針のもと、定期預金資産を活用して、「高齢者在宅ケアモデル事業」「自閉症支援センターを設立する事業」「グリーフステーションを全国に普及促進する事業」の3つの特定目的事業に取りかかり、向こう4～5年を目途に東日本大震災救援事業と合わせて実施していきたいと考えています。

私たちは、これまで社会福祉事業の先駆的役割を果たしてきたと自負しておりますが、「新3年計画」を着実に実施することを通して、これからも時代の要請に応える事業を展開していきたいと思っております。今後も、ご支援・ご協力をよろしくお願い致します。

2013年5月

社会福祉法人 朝日新聞厚生文化事業団

目

次

はじめに	1
東日本大震災	5
こども応援金 5	
大切な人を失った子どもに寄り添う「グリーンサポート」 6	
グリーンキャンプ 8	
朝日のあたる家（岩手） 9	
障害当事者派遣プロジェクト 10	
被災地ビジット（宮城・岩手・福島 35カ所） 11	
東日本大震災報道写真展（東京） 14	
東日本大震災救援事業へのご寄付、12年度は1億1千万円 15	
子どもの福祉	16
児童養護施設・里親家庭の高校生進学応援金 16	
社会的養護の当事者グループ全国ネットワーク「こどもっと」 16	
ピア・キャンプの開催（静岡） 17	
「子どもシェルター」の講演会（札幌、和歌山、高知） 18	
第59回朝日夏季保育大学（長野） 19	
親子で楽しむクリスマスコンサート（東京） 21	
第29回福祉施設絵画展（名古屋） 21	
障害のある人の福祉	22
自閉症カンファレンスNIPPON～TEACCHモデルに学ぶ実践研究会（東京） 22	
メジボフ教授講演会「自閉症を正しく理解するということ」（長崎、盛岡、仙台、福島） 23	
J-C-N-E-T（ジョブコーチ・ネットワーク）会議（東京） 24	
第29回全国高校生の手話によるスピーチコンテスト（東京） 25	
高次脳機能障害についての講演会（宮城、静岡、広島、沖縄） 26	
なるほど！なっとく！！高次脳機能障害 ～さらなる理解を求めて（名古屋） 28	
朝日福祉ガイドブック「なるほど高次脳機能障害」 28	
講演会「あなたのうつ 私のおうつ となりのうつ」（大阪、東京） 29	
朝日福祉ガイドブック「みんなのおうつ」 29	
視力障害の大学生のための「聖明・朝日盲大学生奨学金」（東京） 30	
「心の輪を広げる体験作文」「障害者週間のポスター」（東京） 30	

第31回肢体不自由児・者の美術展（東京、福岡）	31
第41回聴美会展（名古屋）	31
第47回名古屋市障害者作品展示会	31
第50回心身障害問題を考える集い（名古屋）	32
第33回障害者歩くスキーの集い（札幌）	32
第33回朝日九州車いすバスケットボール選手権大会（大分）	32
第24回九州車いすツインバスケットボール選手権大会（福岡）	33
高齢者の福祉	34
高齢者への暴力防止プロジェクト助成	34
連続講座「人生の終い方～親の介護と自分の老後～」（東京、大阪）	35
「認知症とともに～家族が認知症になったら～」（東京、大阪、名古屋、福岡）	36
朝日高齢者福祉セミナー（名古屋）	37
高齢者施設訪問プログラム「ゆうゆうビジット」（全国17カ所）	38
福祉啓発・公衆衛生など	40
第8回自殺防止事業「自殺!? ちょっと待って!」（福岡）	40
いのちの電話などに福祉助成金（福岡）	40
東海グループホームスタッフ研修会（名古屋）	41
遺贈・遺言セミナー「老いじたく～あなたの財産を未来に」（東京、大阪、福岡）	41
第64回保健文化賞（東京）	42
アサヒベビー相談室（大阪、高槻、大津）	43
生活習慣病市民公開講座（北九州）	43
チャリティー事業	44
朝日チャリティー美術展（名古屋、大阪、東京）	44
第62回メサイア演奏会（東京）	45
第54回各派合同三曲演奏会（大阪）	46
第60回洋舞合同祭（尼崎）	46
協賛能（大阪）	47
第59回各流合同茶会（大阪）	47
第58回歳末朝日チャリティー茶会（名古屋）	48
第50回チャリティー大茶会（北九州）	48
杵勝会歳末チャリティー長唄演奏会（東京）	49
彩季会チャリティーバザー（東京）	49
上野学園第53回慈善演奏会（東京）	49
浦和学院高校吹奏楽部チャリティーコンサート（さいたま）	49
新3年計画 2013-2015	50

主な後援・協賛・協力事業一覧.....	52
チャリティー美術展に出展いただいた皆様.....	58
ご寄付をいただいた皆様.....	68
朝日福祉ガイド DVD・ビデオ・本のご案内.....	74
朝日新聞厚生文化事業団のあゆみ.....	76
2012年度収支計算書.....	78
理事・監事・評議員名簿.....	79
お問い合わせ・寄付の受け付け・職員名簿.....	80

東日本大震災

1万8千人余りの死者・行方不明者を出した2011年3月の東日本大震災。朝日新聞厚生文化事業団は12年度も引き続き、この大災害で特に過酷な状況に置かれている子ども、障害のある人、高齢者に焦点を当てた独自の被災者救援・復興支援事業に精力的に取り組みました。

主なものは、こども応援金、子どもグリーンサポートステーション、グリーンキャンプ、朝日のあたる家、障害当事者派遣プロジェクト、被災地ビジットなどの事業です。

こうした活動には、朝日新聞厚生文化事業団の震災救援事業へのご寄付と、東日本大震災救援募金（震災直後から12年3月末まで）のご寄付のうち使途について「朝日新聞厚生文化事業団に一任する」というご意思が確認できた分を充てさせていただいています。

こども応援金

当事業団主催

震災で両親を亡くした子ども（孤児）に「東日本大震災こども応援金」を届けています。金額は未就学児・小学生が1人当たり300万円、中学生が200万円、高校生相当年齢が150万円。「自由に使えるお金」として対象の子どもたちに直接、渡しています。

震災直後から私たちは、両親を亡くした子どもたちのことを考えていました。同時に全国のたくさんの方々から、ご寄付と一緒に届く「被災地の子どものために」という声に背中を押され、この応援金は動き始めました。経済的な不安を和らげ、子どもが夢をあきらめずに将来への希望を持てることに少しでも役立ちたいと、それぞれの子どもたちが18歳を迎えるまで安心して暮らせるようなお金を、すべての孤児に渡すのを目標にしました。また、子どもの財産として子ども自身の口座に直接、応援金を贈りたいと、各行政の窓口をはじめ関係各方面の団体や組織への取材、話し合いを重ね、準備を進めました。

特に個人情報保護法をはじめ、多くの障壁が立ちはだかる中、岩手、宮城、福島県の各県庁には何度も足を運び、担当の部署に協力の依頼をし、各県と仙台市のご協力を得ることができるようになりました。各児童相談所や学校などを通じ、子どもや保護者へのお知らせ、周知を図り、子ども、保護者からの申し込みを当事業団で直接受けています。

応援金は11年7月から贈呈を始め、13年3月末までに、対象と見込んできた220人の9割を超える201人に総額4億8700万円を贈りました。このうち12年度にお渡ししたのは33人、計7450万円です。

「被災した子どもたちのために」と寄付を寄せてくださる多くの方々の気持ちを、対象の子どもたち全員に届けることを目標に、13年度も受け付けを継続します。

こども応援金 贈呈者数の内訳

(2013年3月末現在 県名などは被災時)

	岩手	宮城	福島	合計
未就学児	8	8	3	19
小学生	34	45	10	89
中学生	24	21	2	47
高校生	16	26	4	46
合計	82	100	19	201

大切な人を失った子どもに寄り添う「グリーフサポート」

当事業団、NPO法人子どもグリーフサポートステーション主催

東日本大震災の被災地で子どものグリーフに向き合う

大切な人やものを失った人が、その悲しみや苦しみを自分なりに整理して事実を受け止め、自分らしく歩んでいく作業を「グリーフワーク」、その支援を「グリーフケア」と言います。

こうした視点から東日本大震災で大切な人を失った子どもに寄り添うために、NPO法人子どもグリーフサポートステーションとともに、仙台市青葉区の仙台駅前に「子どもグリーフサポートステーション」を12年9月に開設しました。



11月から活動を始め、ファシリテーターと好きな遊びをしたり、おしゃべりしたりするワンデイプログラムには13年3月末までに135人の子どもが参加しました=写真。

2012年11月～2013年3月ワンデイプログラムへの参加者

開催月	震災	震災関連	自死	事故	病死	その他	参加人数
11月	10	2	0	3	10	1	26
12月	13	0	0	4	9	0	26
1月	13	2	0	3	8	1	27
2月	16	0	0	3	9	0	28
3月	13	1	0	5	8	1	28
計	65	5	0	18	44	3	135

※その他…父病死・母自死1人

未就学児	小学生	中学生以上	保護者
9	14	3	12
8	14	4	14
8	16	3	14
9	16	3	12
9	16	3	13
43	76	16	65

東日本大震災こども応援金からグリーフサポートへ

当事業団は東日本大震災で両親を失った子どもに一人最大300万円を贈る「こども応援金」を実施し、多くの方々からのご寄付により、これまでに200人を超す子どもたちに渡すことができました。子どもや保護者にとって、経済的な負担の軽減はとても重要です。一方で、社会的にも子どもたちを孤立させてはいけないと、私たちは震災直後から、子どもたちを全面的に支えるための方策を模索していました。

糸口は東日本大震災中央子ども支援センターの外部アドバイザー、西田正弘さんとの出会いでした。精神面をはじめ、経済面、その他のあらゆる面で子どもを支援したいという双方の思いを被災地で実現するために、西田さんを主宰者として一緒に設立したのがNPO法人子どもグリーフサポートステーション (<http://www.cgss.jp/>) です。

「ステーション」でのプログラム

ファシリテーターの中から両親に似た人を選び、2人を並べて「そろった、そろった」と喜ぶ、両親を亡くした小学校高学年の女の子。「父親に似ているから」と雑誌の切り抜きをファイルし、亡き父とのエピソードを話す低学年の女の子……。

「子どもグリーフサポートステーション」のワンデイプログラムでは、子どもたちが亡くなった人のことを安心して振り返ったり、話したりできます。話を聴くのは専門の研修を積んだファシリテーターで、子どものペースに合わせて一緒に時間を過ごします。

父親を亡くした男子中学生は不登校気味でした。母親が電話とメールで「ステーション」に相談したのをきっかけに、母子でプログラムに参加するようになりました。

これまで周囲に話せなかった喪失感や悲しみを分かち合える。同じような経験をした人たちと共に過ごす。そうした体験が母子2人の表情を少しずつ和らげていきました。回数を重ねるうちに、男の子は将来の夢や学校のことを語り始め、「できるだけ登校してみようかな」と言うようになりました。男の子が本人のペースで歩み始めるのを私たちは応援しています。

子どもを総合的に支援するグリーフサポート

「話を聴いてくれる人がいる」「一緒に遊んでくれる人がいる」「同じような悲しみを持つ友だちがいる」。グリーフ（悲嘆）を抱えた子どもたちには、こうした居場所が必要です。保護者もまた同じです。

ステーションでは、遊びや学習支援を通して子どもとつながり合い、その声に耳を傾け、そして寄り添います。保護者の悲しみを分かち合うプログラムを行い、相談にも応じるなど、子どもを総合的に支える活動をします。子どものグリーフケアやグリーフサポートに関する講演会や支援者の養成にも今後、取り組んでいきます。

グリーフを背負った子どもたちに

この仙台の「子どもグリーフサポートステーション」を拠点にしながら、子どもの暮らす地域のなるべく近くに、「子どもが安心できる場所を作りたい」との考えから、岩手県、福島県にも活動を広げていきます。岩手では、当事業団がNPO法人福祉フォーラム・東北と共に陸前高田市に立ち上げた「朝日のあたる家」（9ページ参照）で、この活動を始める予定です。

またこのプログラムは、震災で親を亡くした子どもだけでなく、自死や離婚、虐待などで親や兄弟、親戚、友人との別れを経験し悲嘆を抱えた子どもたちも対象にします。深い喪失感とともに暮らす全国の子どもたちに、安心し、自分らしく人生を歩んでもらうために、私たちはこの活動に継続して取り組んでいきます。

*事務所や会場の費用、人件費など、NPO法人子どもグリーフサポートステーションの運営費は当事業団の東日本大震災救援事業のために寄せられた寄付によって賄われています。

グリーフキャンプ

日本キャンプ協会、日本YMCA同盟、当事業団主催

東日本大震災に遭った子どもたちのための「グリーフキャンプ」に、公益社団法人日本キャンプ協会、公益財団法人日本YMCA同盟とともに取り組んでいます。グリーフキャンプはグリーフケアを主眼においたキャンプのことです。

震災で両親を亡くした子どもたち10人が参加した第一弾の台湾キャンプ（12年3月25日から4泊5日）に続いて、12年度は9月15日から2泊3日、富士山のすそ野の朝霧高原にある静岡県立朝霧野外活動センターで、13年3月26日から4泊5日、瀬戸内海のYMCA余島野外活動センター（香川県）で実施しました。

参加はともに17人。子どもたちが自分の心を見つめる時間をしっかりと確保しつつ、その周りを楽しい時間で包み込みながら、共に過ごしました。

朝霧高原でのキャンプ＝写真上＝では、子どもたちが亡くなった人のことを丁寧に思い出すための試みに多くの時間が充てられました。

「親を亡くしたのは『自分一人じゃない』よ」「言葉にできない思いや、いろんな気持ちがあって自然だよ」「その気持ちを誰かに話してもいいんだよ」。そんなメッセージを伝えるために、さまざまな感情を表したイラストを使って今の気持ちを表現したり、幼いころに父親を自死で亡くしたリーダーの話の聴いたりしました。

余島でのキャンプではカヌーや釣り、磯遊びも楽しみ、津波で想像を絶する体験をした子どもたちが海の魅力を再発見する場になりました＝写真中・下＝。

キャンプに関わる人向けの研修会「グリーフケアとキャンプの接点」（日本キャンプ協会主催）も13年2月に仙台市の子どもグリーフサポートステーションと東京、神戸の3カ所で開かれ、同ステーション主宰の西田正弘さんが講師を務めました。

当事業団はグリーフキャンプなどを通じ、支援者の養成など、被災地の子どもたちと丁寧に向き合える活動を続けていきます。



朝日のあたる家（岩手）

当事業団、NPO法人 福祉フォーラム・東北主催

東日本大震災で大きな被害を受けた岩手県陸前高田市米崎町に「朝日のあたる家」を造りました
=写真上。木造平屋建て床面積約240平方メートル。大小4つのホールや和室、キッチンがあり、プロジェクターなども備えられています。



復興へ向けた取り組みを当事業団やNPO法人「福祉フォーラム・東北」（新田國夫会長）などの

団体がともに支援していく拠点にします。また、誰でも気軽に立ち寄り、日ごろの疲れをとったり、仲間と情報交換したりするスペースやミニコンサート、勉強会の場所としての活用も予定しています。

建設費は約5000万円で、朝日新聞厚生文化事業団の震災救援事業に寄せられた寄付が充てられました。運営は福祉フォーラム・東北が担い、当事業団も積極的に関わっていきます。

施設の名称は昇る太陽の光があたる場所にちなんでいます。早朝、日の出の時間に建物を見ると、まさに名前の通りの光景を目にすることができます。

13年2月17日の開所式=写真下=には地元の関係者らを含め約70人が集まり、戸羽太・陸前高田市長が「みんなが集える場所ができたことは市民の喜びです」とあいさつしました。

式では復興途中の三陸海岸とれたての牡蠣（かき）や昆布、特産の野菜の煮物やおもちなど、素朴で豪華な料理が、当日の運営を手伝ってくださった地元のみなさんの手によって振る舞われました。地元・地域の方々の期待がたくさん込められた、とても温かな会となりました。

イラストレーターの和田誠さんに寄贈していただいたグランドピアノもご本人の紹介で披露され、和田さんの友人のジャズピアニスト佐山雅弘さんによる演奏もありました。



当分の間はスタッフ3人が常駐し、気軽に立ち寄っていただく「お茶飲みスペース」として運営するほか、被災した子どもたちの「グリーフサポート」プログラムの実施（P6）や「認知症カフェ」など、地域の方々との交流の企画を進めていく予定です。

被災地では新たに認知症と診断される高齢者が相次いでいます。仮設住宅など新たな環境での生活を強いられ、部屋に閉じこもりがちになり、認知症の症状が悪化したり、顕在化したりしていると考えられています。

被災地や被災地以外の住民、医師、看護師、介護サービス従事者などが職種を超え、被災地を支援する「包括的ケア体制」が望まれており、福祉フォーラム・東北と当事業団は、「朝日のあたる家」を拠点として、現地に密着した、こうした在宅ケア事業を構築することを目指しています。

障害当事者派遣プロジェクト

東北関東大震災障害者救援本部、当事業団主催

宮古市、大船渡市、陸前高田市など岩手県内で不自由な生活を強いられている障害のある人のもとへ、県外の障害のある人が訪問し、生活の悩みを聴き、安心して暮らせるように支援する「障害当事者派遣プロジェクト」を、東北関東大震災障害者救援本部と当事業団が主催。2年目となった12年度は兵庫、大阪、京都、宮崎、沖縄で社会資源を活用しながら自立した生活をしている13人が、介助者とともに1週間ごとに交代で滞在しました。

障害のある人が地域で暮らすためのヘルパー派遣制度などは、岩手県の沿岸部ではもともと十分でなく、入所施設や家族介護などで閉じこもりがちな生活を送っていた人が多かったといわれています。このプロジェクトは、自立している障害のある人をロールモデルに、被災地の障害のある人たちが街づくりに参加し、自立して暮らすことを目指すものです。

12年度は宮古市から陸前高田までの150キロを障害のある人が歩きながら「復興計画」などにバリアフリーの視点を盛り込むように訴える「みちのくTRY」の準備＝写真上＝が活動の柱となりました。

「TRY」は、バス、鉄道などのバリアフリー化を訴えるために障害当事者が行進するもので、1986年に始まり、大阪・東京間、福岡・東京間など各地で行われ、韓国、台湾、モンゴルなどにも広まっている取り組みです。

当事者派遣プロジェクトでは、地域の障害のある人たちとともに、行政や地域の福祉施設、学校などを回り、障害のある人への「TRY」への参加の呼びかけやボランティアの募集、街頭募金などを行いました。8月19日から31日の「TRY」本番では、避難の妨げになる段差の確認や避難訓練などを行いながら、毎日30～40人が行進しました＝写真下＝。

内閣府の調査では、震災によって亡くなったか行方不明になった障害のある人の人数は、被災した沿岸自治体に住んでいた住民全体と比べて2倍に上ったことが分かっています。避難する際に様々なバリアがあったことがその原因でしょう。「TRY」では、期間中、釜石、大船渡、大槌、陸前高田の各市役所に、障害のある人が安心して暮らせる街づくりの要望書の提出もしました。

「障害者派遣プロジェクト」は国連ボランティア計画（UNV）が初めて発表した「世界ボランティア白書」や他メディアでも取り上げられるなど関心を集めました。

この2年間で、積極的に活動する被災地の障害のある人が増えています。今後、障害のある人も当たり前により地域で暮らすために、被災地での活動がさらに広まることが期待されています。



被災地ビジット（宮城・岩手・福島35カ所）

当事業団主催

東日本大震災のため、不自由で不安な生活を強いられている方々が少しでも心豊かなひとときを過ごせるように、「被災地ビジット」を12年度も実施。通常の「ゆうゆうビジット」のご協力者と一緒に、宮城県、岩手県、福島県の被災された方々のもとを訪れました。

●高砂部屋力士が網地島、田代島へ

5月21日、22日に高砂部屋の若手力士が宮城県石巻市を訪問しました。

石巻市の沖合には、高齢化率が約70%にもなる網地島（あじしま）と田代島があります。立地的に悪条件であるため、震災後の支援が届きにくい状況でした。高砂部屋の力士の来訪は、島の人たちが待ちに待った楽しいひとときになりました。網地島生活センターでは、集まった約40人の目の前で、



石巻出身の朝天舞ら力士4人とマネージャーの松田哲博さんが、相撲の技や相撲甚句を披露＝写真。最後に、高砂部屋特製のちゃんこ鍋を振る舞い、島民と交流を深めました。

●園舎流れた保育園で演奏

6月6日、7日にはバイオリニストの川島成道さんが宮城県気仙沼市を訪問しました。

6日に訪れた認可外保育園「キッズルームおひさま」では、園児や親、職員ら40人を前に「ユーモレスク」「ロンドンデリーの歌」など6曲を演奏しました。

「おひさま」の前身は、津波で園舎が流され、11年の春に閉園した南気仙沼幼稚園です。園の理事長が震災の犠牲になりましたが、園の職員らが遺志を引き継ぎ、11年5月から倉庫を借りて「おひさま」を運営してきました。

翌7日には指定生活介護事業所夢の森を訪ねました＝写真。



●返礼に兄作曲の保育園歌

9月には岩手県の宮古市、陸前高田市、大船渡市をバイオリニストの千住真理子さんとピアニストの丸山滋さんが訪れました。

12日には宮古市の商店街にある交流施設と津軽石中学校へ。津軽石中学校では「G線上のア

リア」など計7曲の演奏後、全校生徒ら約140人が「夢の世界を」を合唱。3年生の長谷川桃子さんが「演奏がとても心に響きました」とお礼を述べました。

13日には陸前高田市と大船渡市を訪ねました。11年度の「被災地ビジット」で、千住真理子さんが兄で作曲家の千住明さんと訪問したのをきっかけに、明さんが園歌「さかみちをのぼって」を作曲した大船渡保育園では、園児たちが「さかみちをのぼって」を合唱してくれました。

●「ありがとうの花」の合唱も

10月17日、18日には歌手のおおたか静流さんと音楽とマジックで幅広く活動する大友剛さんが宮城県石巻市へ。17日には牡鹿地区保育所と寄磯小学校、市総合福祉会館みなと荘を訪れ、牡鹿地区保育所=写真=では、おおたかさんの歌に合わせて次々と披露される大友さんのマジックに、子どもたちが歓声をあげました。園児たちは、お返しに「ありがとうの花」を合唱しました。



●福島訪問が実現、被災児に演奏

11月には福島への訪問がかない、14日、福島市内の学校や児童養護施設で千住真理子さんと丸山滋さんが演奏しました。

桜の聖母学院中学・高校では生徒や保護者ら約750人が会場となった講堂に集まり、千住さんと丸山さんは「G線上のアリア」や「浜辺の歌」など7曲を披露しました。

15日は南相馬市の小学校と中学校3カ所を訪れました。南相馬の小中学校では、原発事故や津波の被害の大きかった地区の学校の仮設校舎が、校庭に建てられています。鹿島小学校では、同じ敷地内の仮設校舎で勉強する真野小学校の児童も体育館に集まり、合わせて約300人の児童らを前に演奏しました=写真。



12年度は石巻市役所、石巻青年会議所、被災地障がい者センターみやこ、福祉フォーラム・東北など、現地で活動している皆さんにご協力をいただき、計35カ所を訪問しました。11年度からの通算の訪問先は53カ所になりました。

出演にご協力をいただいている皆さんの「支援を継続したい」というお気持ちを受け止め、13年度も引き続き被災地を訪問する予定です。

12年度の訪問先は次の通りです。

	訪問者(敬称略)	訪問日	地域	訪問先
1	高砂部屋	5月21日	宮城県石巻市	小規模介護老人保健施設 網小
2		5月21日	宮城県石巻市	網地島生活センター
3		5月22日	宮城県石巻市	田代島開発総合センター
4		5月22日	宮城県石巻市	特別養護老人ホームおしか清心苑
5		5月22日	宮城県石巻市	介護老人保健施設第二恵仁ホーム
6	川島成道	6月6日	宮城県気仙沼市	キッズルームおひさま
7		6月6日	宮城県気仙沼市	介護老人保健施設リバーサイド春圃
8		6月7日	宮城県気仙沼市	指定生活介護事業所夢の森
9	おおたか静流・大友剛	6月27日	岩手県陸前高田市	竹駒保育園
10		6月27日	岩手県陸前高田市	広田保育園
11		6月27日	岩手県陸前高田市	米崎保育園
12		6月28日	岩手県大船渡市	気仙光陵支援学校
14	千住真理子・丸山滋	7月27日	宮城県石巻市	仮設旭化成団地
15		7月27日	宮城県石巻市	特別養護老人ホーム花水木
16		7月27日	宮城県石巻市	特別養護老人ホーム仁風園
17		7月28日	宮城県石巻市	石巻市総合福祉会館みなと荘
19	千住真理子・丸山滋	9月12日	岩手県宮古市	宮古市末広町商店街交流施設りあす亭
20		9月12日	岩手県宮古市	津軽石中学校
21		9月13日	岩手県陸前高田市	横田基幹集落センター
22		9月13日	岩手県陸前高田市	慈恩寺
23		9月13日	岩手県大船渡市	大船渡病院
24	おおたか静流・大友剛	10月17日	宮城県石巻市	牡鹿地区保育所
25		10月17日	宮城県石巻市	寄磯小学校
26		10月17日	宮城県石巻市	石巻市総合福祉会館みなと荘
27		10月18日	宮城県石巻市	荻浜保育所
28		10月18日	宮城県石巻市	特別養護老人ホームおしか清心苑
29	千住真理子・丸山滋	11月14日	福島県福島市	桜の聖母学院中学校・高等学校
30		11月14日	福島県福島市	瀬上小学校
31		11月14日	福島県福島市	児童養護施設福島愛育園
32		11月15日	福島県南相馬市	八沢小学校
33		11月15日	福島県南相馬市	鹿島小学校
34		11月15日	福島県南相馬市	鹿島中学校
35		11月16日	福島県福島市	福島市音楽堂(聖光学院高等学校)

東日本大震災報道写真展（東京）

朝日新聞社、当事業団主催。三菱商事協賛

東日本大震災報道写真展を3月1日から13日まで、朝日新聞社との共同主催で東京都千代田区の有楽町朝日ギャラリーで開きました=写真、下の5枚は展示作品から。

3・11の東日本大震災から2年の節目に、朝日新聞社の記者が被災地を中心に撮影した写真約50点などを展示し、被災直後の各地の被害状況とともに、復興に歩む様子を紹介。一方で癒えることのない人々の心情と、なお続く福島第一原発事故の影響も切り取り、「あの日」からの2年を振り返りました。

被災から約1カ月半後の11年4月～5月と、1年後の12年3月に開催した震災報道写真展に続き3回目の開催で、期間中の来場者は約4300人。前2回と同様に、会場では当事業団による募金活動も実施し、東日本大震災救援事業への寄付約80万円が寄せられました。



1	2
	3
4	5

- 1：毎週金曜日を中心に、国会周辺で原発再稼働反対を訴えるデモが続く
- 2：仙台東部道路を境に、西側は稲が実るが、東側は津波の塩害のため耕作が行われていない
- 3：母と兄を亡くした5歳の少女が描いた絵。「はやくかえってきてね」のメッセージが添えられていた
- 4：満開を迎えた福島県富岡町夜の森地区の桜並木を歩く防護服姿の町職員
- 5：東北から5千キロ以上離れたアラスカ湾に漂流物が押し寄せる

東日本大震災救援事業へのご寄付、12年度は1億1千万円

12年度の朝日新聞厚生文化事業団の東日本大震災救援事業に寄せられたご寄付は1億1238万4052円に上りました。

また当事業団を通じた東日本大震災義援金（日本赤十字社への指定寄付）の12年度分は124万円で、東日本大震災救援募金（震災直後から12年3月末まで）も含めたご寄付の累計は13年3月末現在で約9万件、総額36億2693万6958円となりました。

年度別では10年度が17億1703万9856円、11年度が17億9627万3050円、12年度が1億1362万4052円です。

【ご参考】

●事業団一任のご寄付の使途

東日本大震災救援募金（12年3月末まで）は、11年7月から原則として朝日新聞厚生文化事業団独自の震災救援事業のためのご寄付に切り替えさせていただきました。東日本大震災救援募金のうち、使途について「朝日新聞厚生文化事業団に一任する」というご意思が確認できたご寄付と、当事業団の震災救援事業へのご寄付を合わせて、「こども応援金」「子どもグリーンステーション」「グリーンキャンプ」「朝日のあたる家」「障害当事者派遣プロジェクト」「被災地プロジェクト」など、当事業団独自の被災者救援事業に充てさせていただいています。

●お預かりしたご寄付の配分

救援募金のご寄付のうち、いわゆる「義援金」として寄託された分や、使途についてのご意思が確認できない分は「お預かりしたお金」として総額24億6991万9348円を12年10月までに配りました。内訳は以下の通りです。

- ①岩手県災害義援金募集委員会、宮城、福島両県災害対策本部に各2億円の計6億円（11年4月）
- ②宮城県（災害孤児・遺児支援基金）2億5千万円、岩手県（いわての学び希望基金）2億円、福島県5千万円の計5億円（11年7～8月、いずれも震災で親を亡くした孤児・遺児のための使途指定）
- ③日本赤十字社に4億6741万9348円（11年3～4月と7月、12年3月、4月、10月） ※このうち12年度分は341万9348円です
- ④宮城、岩手、福島、茨城の各県社会福祉協議会に各1億円の計4億円（11年3月）
- ⑤宮城、岩手、福島県の各共同募金会に被災した施設・団体への助成金として各1億円の計3億円（11年11月）
- ⑥災害ボランティアセンター運営費として被災地の市区町村社会福祉協議会70団体に計1億9千万円（11年5～8月）
- ⑦福島県内の社会福祉施設に放射線量測定器計250台を配るため同県社会福祉協議会に1億50万円（11年7月）

子 ど も の 福 祉

児童養護施設・里親家庭の高校生進学応援金

当事業団主催

2012年度もこの春に高校を卒業し、夢の実現に向けて進学する高校生を支援する「児童養護施設・里親家庭の高校生進学応援金」を実施しました。

この応援金は大学や専門学校の入学時に必要な入学金と施設設備費、支度金10万円（上限一人100万円）を支給するもので、当事業団創設80周年記念事業として始まり、今回が5回目。8月24日の締め切りまでに91人の応募がありました。9月28日に選考会が開かれ25人が内定。最終的に辞退者を除いた19人に応援金が贈られました。

また、贈呈を受けた高校生の集いを2013年3月20日に朝日新聞東京本社で開き、16人が参加しました。社内を見学した後、集いに出席。昨年に引き続き特別ゲストとして、社会的養護の当事者団体「なごやかサポートみらい」の代表の関戸敏夫さんをお招きし、高校生に励ましのエールを送っていただきました。

翌21日には全員で東京ディズニーシーへ出かけ、小グループに分かれてアトラクションを楽しみ、交流を深めました。

児童養護施設や里親家庭から自立する子どもは経済的な理由など様々な理由から進学をあきらめざるを得ないケースも多く、一般家庭の子どもたちに比べ、5分の1前後の極めて低い進学率となっています。今後も進学率を少しでも高め、多くの高校生に将来への希望をもってもらえるよう、この事業を進めていきます。

社会的養護の当事者グループ全国ネットワーク「こどもっと」

●全国ネットワークで情報交換

児童養護施設や里親家庭で暮らしたことがある人たちが中心になって活動するグループと朝日新聞厚生文化事業団が、社会的養護の当事者グループ全国ネットワーク「こどもっと」を2010年4月に結成。以後、月に一度程度の定例会議で情報交換をしながら具体的な活動について話し合っています。

13年2月2、3日には栃木県宇都宮市で研修会を開催しました。

初日は「一緒に考えようこれからの当事者活動」をテーマに、児童養護施設養徳園の園長で、ご自身も児童養護施設で暮らした経験のある福田雅章さんに講演していただきました。

福田園長は「当事者活動は児童養護施設などに対する社会の偏見を取り除くためのもの」と、その意義を整理。今後への期待、現状に対する課題なども語りました。

2日目は、自立援助ホーム星の家で、星俊彦ホーム長から自立援助ホームの現状などをうかがいました。

●社会的養護と当事者の声

虐待をはじめ何らかの事情で実の親と離れて暮らさなければならない子どものために、家庭に代わる養育の場として制度的に用意されているのが児童養護施設や乳児院、里親家庭などです。こうした制度を「社会的養護」と言い、約4万人の子どもがこの制度を利用しながら全国で暮らしています。

虐待などの不安定な生活環境に置かれていた子どもは、心や体の成長に遅れや、かたよりがあることが少なくありません。そのため、安心できる環境の中で周囲の人に大切にされながら、じっくりと養育を受けることが欠かせません。

しかし第2次大戦後に「戦災孤児の保護」のために整えられ、大きな見直しを経ずにきた社会的養護は、子どもたちに対し安心できる暮らしや、自分らしく社会で生きるための準備をする環境を整えることができていないのが実情です。制度そのものが子どもへの「社会的な虐待状態」と言われることすらあります。

例えば、施設で暮らす多くの子どもは高校卒業と同時に自立を迫られます。中学校卒業や高校中退と同時に施設を出る子どももいます。しかし、不安定な環境に育ち、頼れる親族も帰る場所もお金もない彼らの多くは、努力だけでは抜け出せない大変な困難を強いられます。

この社会的養護について、構造を含めての見直しが少しずつ始まりました。

あるべき社会的養護を実現するためには、そこで暮らす子どもや暮らしたことのある人たち「当事者」の声が制度に生かされなければなりません。各地で活動を始めた、社会的養護を受けたことのある人による当事者団体が「子どもの声」を聞き、力を合わせ、様々な立場の人の協力を得ながら、社会的養護の改革の核となることが期待されます。

ピア・キャンプの開催（静岡）

当事業団、社会的養護の当事者グループ全国ネットワーク「こどもっと」主催
日本キャンプ協会、静岡県キャンプ協会後援、原田積善会協賛

社会的養護の当事者グループ全国ネットワーク「こどもっと」とともに「ピア・キャンプ」を9月15日から17日まで静岡県立富士山麓山の村で開きました。

児童養護施設や里親家庭で暮らす高校生と施設で暮らしたことのある当事者スタッフら、合わせて約40人が参加。ラフティングや野外炊事、キャンプファイアーなどの活動とともにしました＝写真。

今年は、過去2回のキャンプの経験を踏まえ、班ごとにスタッフと高校生が話し合う「仲間や先輩と語ろう～未来に向けて」を実施。学校などでは話にくい生き立ちのこと、将来の不安など、それぞれのたくさんの想いを聞くには2時間では足りないほど「語ろう」の時間は充実したものになりました。



参加した高校生からは次のような感想が寄せられました。

- ・いろいろな話を聞けて、自分のことを話すことができ、気持ちが楽になった。語り合えたことが3日間の中で一番良かった。
- ・自分と同じように支援を受けている人達のいろんな話や考え方を聞いて、ものすごく有意義な時間を過ごせたと思う。自分も頑張ろうと思った。
- ・自分もピア・キャンプで知り合ったスタッフの人達みたいになりたいと思った。
- ・奨学金や他の施設の話聞いて、自分の環境を改めて見直すことができた。もっと話したかった。
- ・なんか、もう、話をわかってくれる人がいるだけで感謝です。

「子どもシェルター」の講演会（札幌、和歌山、高知）

当事業団など主催

家庭の中で虐待を受け、必要な支援を受けられず、孤立し、心身がぼろぼろに傷ついている子どもがいます。

こうした10代後半の子どもたちのSOSを受け止める避難場所が「子どもシェルター」です。

この「子どもシェルター」を札幌でNPO法人子どもシェルターレラピリカが、和歌山でNPO法人子どもセンターるーもが、2013年秋に開設します。また、高知ではこども支援ネットこうち（仮称）が子どもの居場所づくりを進めています。

当事業団は、シェルターを必要とする子どもの現状と「子どもシェルター」を多くの人に知ってもらうために、札幌と和歌山、高知でそれぞれの団体と一緒に講演会を行い、合わせて760人が参加しました。

●札幌：「子どもシェルターレラピリカ」と

「もうすぐ誕生！ 子どもシェルター～居場所のない子どもたちのために～」と題して、13年3月16日に札幌エルプラザで開催し、250人が参加。作家の落合恵子さんの講演と児童養護施設の施設長らによるパネルディスカッションを行いました＝写真。

パネルディスカッションでは「子どもが支配され従われる構造が社会の中にある」という落合恵子さんの投げかけを受け、子どもの気持ちや意見を尊重した安心できる居場所としてのシェルターの必要性が話し合われました。

（北海道弁護士会連合会、札幌弁護士会共催）



●和歌山：「子どもセンターるーも」と

「夜回り先生」として知られる水谷修さんの講演と、すでに神奈川で子どもシェルターを運営している高橋温弁護士や児童相談所の児童福祉司らによるパネル討論＝写真＝を和歌山大学経済学部講義棟で13年3月23日に実施し、260人が参加しました。



水谷さんは「子どもがいきいきと生きるためには認められることが大切。自身が否定され続け、自己肯定感を育むことができていないのが今の社会」と述べ、あるがままに子どもを受け入れることの重要性を話しました。

パネルディスカッションでは、困難な状況に置かれる子どもを支援するための制度が未整備であることが指摘され、シェルターの意義が確認されました。

児童福祉司の鈴木玲さんが「子どもの居場所を奪ってきたのは大人。子どもに居場所を返さなければ」と、子どもを支援するための姿勢を提言し、締めくくられました。

(和歌山県、和歌山市、和歌山県教育委員会、和歌山市教育委員会、和歌山弁護士会、和歌山県 BBS 連盟、和歌山県社会福祉士会、和歌山県臨床心理士会、子どもシェルター全国ネットワーク会議後援)

●高知：「こども支援ネットこうち（仮称）」と

高知では、日本子ども虐待防止学会の前夜企画として、「しあわせって何だろう～こどものために私たちができること～」のテーマで、高知県立県民文化ホール・グリーンホールで12月6日に開催し、250人が参加しました。

冒頭、法政大学の坂本光司教授が、会社などの組織が子どものために何ができるかを、会社経営の視点から話しました。

次いで、カリヨン子どもセンターの坪井節子理事長らによるパネルディスカッションが行われ、子どもと信頼関係を築き、話に耳を傾けることの大切さが語られました。

(高知弁護士会共催、子どもシェルター全国ネットワーク会議、日本子ども虐待防止学会第18回学術集会高知りょうま大会実行委員会、高知県教育委員会、高知市教育委員会後援)

第59回朝日夏季保育大学（長野）

当事業団主催。長野県、諏訪市、全国社会福祉協議会、長野県社会福祉協議会、長野朝日放送後援。大同生命厚生事業団協賛

保育従事者の技術と教養の向上のために始まり、59回目を迎えた朝日夏季保育大学を7月27、28日に長野県諏訪市の駅前市民会館で開き、保育士をはじめ、幼稚園の先生ら、「乳幼児の健やかな育ち」を願う約450人が参加しました。

オープニングは、科学ジャーナリストで飯田市かざこし子どもの森公園の元園長、後藤道夫さんによる実験と工作の実技講座でした。

紙と風船でサッカーボールを工作したり、子どもの感覚を理解するために反射神経を測定する実験をしたりと、参加者も一緒になって科学の魅力を体験しました＝写真。

初日の午後は、東日本大震災中央子ども支援センター外部アドバイザーの西田正弘さんが、子どものグリーフ（悲嘆）について、慶応大学医学部専任講師の渡辺久子さんが、乳幼児の心の発達について講演。

渡辺さんは「子どもと関わるうえで一番大事なことは、目の前にいる子どもから学ぶ姿勢」と説明し、子どもを尊重することの大切さを訴えました。



2日目は、食育研究家の坂本廣子さんの講演の後、発達障害をテーマにした、児童精神科医の村松陽子さんによる2部構成の講座を行いました。

1部では、「子どもの特性を知る」と題して、発達障害の子どもの「感じ方」「理解の仕方」「行動の仕方」などが解説されました。2部では、「目で見て理解することは得意」「細部に注目するのは得意」など、特性の「強み」の部分に着目しながら、一人ひとりに合わせた支援をすることの大切さが説かれました。

最後はデュオグループ、ケロポンズによる子どもと遊ぶための実技講座。歌や踊り、パネルシアター、絵本の朗読などを次々とケロポンズが披露し、参加者も一緒になって楽しみました。

テーマと講師、スケジュールは次の通り（敬称略）。

7-27 (土)		7-28 (日)	
10:00 10:30	開講式	9:15 10:45	「食べることは生きること」 ◆坂本廣子【食育研究家】
10:30 12:00	「不思議の魅力を子どもたちに」 ◆後藤道夫【科学ジャーナリスト】	11:00 12:30	STEP UP講座 「発達障害の子どもを正しく理解する」 ◆村松陽子【児童精神科医】 ①「子どもの特性を知る」
	昼食休憩		昼食休憩
13:00 14:30	「震災で大切な人を失った子ども」 ◆西田正弘【東日本大震災中央子ども支援センター外部アドバイザー】	13:30 15:00	②「子どもの強みを活かした支援」
14:45 16:15	「乳幼児の心の発達」 ◆渡辺久子【慶応大学医学部専任講師】	15:15 16:45	「ちよこつとあそび大作戦」 ◆ケロポンズ【デュオグループ】

親子で楽しむクリスマスコンサート（東京）

当事業団主催

恒例の「親子で楽しむクリスマスコンサート」を12月23日、東京都千代田区の有楽町朝日ホールで開催しました。

午後1時からの上演で、家族連れら約530人がクリスマス気分たっぷりのひと時を楽しみました。

今年は中川ひろたかさん（シンガー・ソング絵本ライター）率いるモダンギャグカルテット（MGQ）の岡淳さん、大友剛



さん、俵山昌之さん、江藤良人さんが出演。「にじ」「ともだちになるために」など、中川さんの歌をジャズにアレンジして披露しました。

「お月さまにカンパイ」「サムエ」「うさぎ野原のクリスマス」など全13曲の演奏のほか、アンコールでは「世界中のこどもたちが」が演奏されました。手品や絵本の朗読もあり、子どもも大人も一緒に楽しめるジャズコンサートとなりました。

第29回福祉施設絵画展（名古屋）

名古屋市児童養護連絡協議会、名古屋市知的障害者福祉施設連絡協議会主催、当事業団など後援

名古屋市児童養護連絡協議会、名古屋市知的障害者福祉施設連絡協議会の福祉施設に入所、通所する人の作品を展示する絵画展を7月下旬から8月下旬に市内の障害者スポーツセンターと篠島観光協会案内所で開きました。28施設から685点の応募があり、審査で特賞6点、入選42点、佳作60点が選ばれました。朝日新聞厚生文化事業団理事長賞は人や動物などをカラフルに描いた若杉作業所の後藤正章さんが受賞しました＝写真左下が後藤さんの作品。



障 害 の あ る 人 の 福 祉

自閉症カンファレンスNIPPON～TEACCHモデルに学ぶ実践研究会（東京）

自閉症カンファレンスNIPPON実行委員会、当事業団主催
厚生労働省、文部科学省、日本自閉症協会、全日本手をつなぐ育成会、日本知的障害者福祉協会後援

「自閉症カンファレンス NIPPON 2012」を8月25日、26日、東京都新宿区の早稲田大学で開催、全国から教育・福祉関係者、家族ら約1000人が参加しました＝写真。自閉症の人たちへの支援の会議としては国内最大級で、今回が11回目です。

自閉症の人たちへの支援プログラムとして根付いた日本の「TEACCH（ティーチ）プログラム」の実質的な実践の始まりは、1989年にプログラムの創始者、故エリック・ショプラー教授と3人のトレーナーを日本に招き、当事業団などが開いたトレーニングセミナーです。この考え方を柱に、自閉症の人への理解を深めようと集った実践者と有志が中心になって2002年から毎年開催してきたのがこのカンファレンスです。

今回はカンファレンス実行委員長佐々木正美・川崎医療福祉大学特任教授の講演で開会＝写真上。「構造化」の概念を英国のマイケル・ラター氏とともに世界で初めて提唱した豪州・モナッシュ大学のローレンス・バータック教授＝写真中＝が「構造化／発祥の地・イギリス」、米国・ノースカロライナ大学の元TEACCH部部長ゲーリー・メジボフ教授＝写真下＝が「構造化／支援の根幹・TEACCH」をテーマに講演。佐々木教授も加わって3人で「なぜ自閉症の人に構造化が必要なのか」を解説しました。

2日目は「日本のASD（自閉症スペクトラム）のmondai」の演題で、福島大学大学院教授の内山登紀夫さんら6人が自閉症支援の現状とこれからのあり方を語り合いました。午後はバータック教授の講演「自閉症とADHD」のあと、メジボフ教授が「TEACCHプログラム・コアバリュー 2012」と題し、自閉症支援をする人にとって最も大切なことを語り、締めくくりました。

また、3分科会合計15の日本国内の実践報告や、各地の活動を報告するポスターセッション、入門解説講座「基礎からの構造化」、「基礎からの評価と自立課題」のほか、大好評の最新DVD「自閉症の人が見ている世界」の上映、自閉症の人たちのコミュニケーションをサポートする機器の展示とデモンストレーション、医療機関を受診する際に役に立つサポートの紹介なども行われました。

佐々木教授を中心にした実行委員会と、延べ100人を超える若いボランティアスタッフによって開催されるカンファレンスは今回も2日間、滞りなく運営されました。「自閉症を正しく理解する」支援者の輪をさらに広げ、新たな未来を開いていけるよう向上を目指します。



メジボフ教授講演会「自閉症を正しく理解すること」(長崎、盛岡、仙台、福島)

当事業団など主催。厚生労働省、文部科学省など後援

「自閉症カンファレンス」のために来日したノースカロライナ大学のゲーリー・メジボフ教授の講演会を8月28日から9月2日にかけて、長崎、盛岡、仙台、福島の各市で開催。合わせて約1250人が参加し、「自閉症の支援で最も大切なこと」について耳を傾けました。

原因が特定できず、理解の難しい自閉症。教育現場、専門家や親にさえ正しく理解されていないことが多く、そのことがご本人たちの生活の上での困難をさらに増やし、複雑にしています。適切な支援をするために必要なのは「自閉症の人たちを正しく理解すること」です。いま世界で最も認められ、実践されている自閉症の人たちへの支援モデルであるTEACCHプログラムを今日の世界規格に育て上げたメジボフ教授は、「自閉症は脳の障害(damage)ではなくて脳の働き方の違い(difference)であり、その違いを正しく理解することが大切」と訴えました。

この講演会は04～08年度に熊本、長野、京都、青森、奈良、09年度は札幌と沖縄県豊見城、10年度は高松、11年度は福岡、宮崎の各市で開催し、自閉症の人たちへの支援に取り組んでいる地元の関係者に多大なご協力をいただきました。この催しをきっかけに、支援活動が地域で根を張り充実するように、今後も各地の関係者と協力しながら、活動を積み重ねていきます。

◇日程と会場

- ・ 8月28日 長崎市・長崎ブリックホール国際会議場
- ・ 8月30日 盛岡市民文化ホール
- ・ 9月 1日 福島市・福島学院大学千葉記念ホール
- ・ 9月 2日 仙台市・東北大学百周年記念会館

◇講演の概要

テーマ 「自閉症を正しく理解すること～自閉症の支援で最も大切なこと～」

講師 ゲーリー・メジボフ・ノースカロライナ大学TEACCH部元部長

内容 講演「自閉症の人たちの学習スタイル～正しく理解する」

講演「構造化された指導～自閉症の学習スタイルに合わせた支援」

講演「自閉症の支援で最も大切なこと～TEACCHプログラムのコア・バリュー」

参加費 3千円

(長崎会場は長崎県自閉症協会、NPO法人それいゆ、当事業団主催、厚生労働省、文部科学省、長崎県、長崎市、長崎県発達障害者支援センターしおさい後援。盛岡会場は岩手県自閉症協会、当事業団主催、厚生労働省、文部科学省、岩手県、岩手県教育委員会後援。福島会場は福島県自閉症協会、当事業団主催、厚生労働省、文部科学省、福島県、福島市、福島県教育委員会、福島市教育委員会、福島県手をつなぐ親の会、福島県知的障害施設協会、福島県医師会、福島県社会福祉協議会、福島市社会福祉協議会后援。仙台会場は宮城県自閉症協会、当事業団主催、厚生労働省、文部科学省、宮城県、仙台市、宮城県教育委員会、仙台市教育委員会、宮城県子ども総合センター、宮城県発達障害者支援センターえくぼ、仙台市発達相談支援センターアーチル後援)

J C-N E T (ジョブコーチ・ネットワーク) 会議 (東京)

当事業団、NPO法人J C-N E T (ジョブコーチ・ネットワーク) 主催

「ジョブコーチ」とは、障害のある人と企業の双方をサポートする役割を担う支援者のことです。そのネットワーク「J C-N E T (ジョブコーチ・ネットワーク)」は、当事業団の支援で2004年度に創設され、05年度にはNPO法人を取得し、厚生労働省指定の「職場適応援助者養成研修」などの事業を積極的に展開しています。当事業団は、ジョブコーチの正しい理解、普及を図り、障害のある人の就労を支援する人材や資源を育成するために、J C-N E Tとの共同主催で、3月9日、10日、「J C-N E T会議」を東京都多摩市の大妻女子大学多摩キャンパスで開催。就労支援の専門家ら約400人が参加し、「障害者雇用率2.0%時代」の就労支援のあり方などについて話し合いました。会議の概要は次の通りです（敬称略）。

【9日】キーンノート・スピーチ「いま、障害のある人の雇用について」小川浩（J C-N E T代表・大妻女子大学）▽シンポジウムⅠ「2.0%時代突入！ 障害者雇用率とどう向き合うか」庄司浩（キューピーあい）、嘉田龍人（ベネッセスタイルケア）、司会・志賀利一（国立のぞみの園）▽ワークショップⅠ①「教育からの就労支援」森脇勤（白河総合支援学校分校開設準備室分室）、木村宣孝（稲穂高等支援学校）、コーディネーター・山本仁（金沢大学附属特別支援学校）、助言者・秦政（障がい者就業・雇用支援センター）②「就労支援プロセスで考える医療との連携」森屋直樹（すみよし障がい者就業・生活支援センター）、細谷賢一（日野ハーモニー）、コーディネーター・千田若菜（ながやまメンタルクリニック）③「発達障害の人の就労支援のいま」柴田珠里（横浜市発達障害者支援センター）、井原佳代（澄心）、近藤秀雄（NTTデータだいち）、コーディネーター・西村浩二（広島県発達障害者支援センター）▽入門講座Ⅰ「ジョブコーチとは」大澤隆則（ぷろっぷ）、「アセスメントとジョブマッチング」小松邦明（高浜市障害者相談支援事業所）

【10日】実践発表分科会・現場からの実践報告①「地方における就労にむけての取り組み」高石徳香（障がい者就業・生活支援センターねっと Work ジョイ）、「ビルメンテナンス業における障害者雇用の取り組み」福田久美子（美交工業）、「精神障害者のジョブコーチ支援」竹澤美紅（マーズ）、「西鉄ウィルアクトの取り組み」楽満慶子（西鉄ウィルアクト）、「札幌市自立支援協議会就労部会の取り組み」重泉敏聖（就業・生活応援プラザとねっと）／進行・東良太郎（クロスジョブ神戸）▽現場からの実践報告②「ハートフルアクアの取り組み」小貝武司（ハートフルアクア）、「継続した就労に向けた特別支援学校の取り組み」野田将之（郡上特別支援学校）、「発達障害者の雇用管理の取り組み」佐藤麻子（トランスコスモス・アシスト）、「就労移行支援事業所でのワークサンプルの活用方法」若尾勝己（東松山障害者就労支援センター）、「自信を持たせる障害者雇用」森藤啓治郎（丸善運輸倉庫）／進行・堀江美里（WEL' S TOKYO）▽ワークショップⅡ「就労移行支援事業を考える」三田地昭典（電機神奈川福祉センター）、松本玲子（福岡ジョブサポート）、山口雄矢（夢工房福祉会ワーク未来工房）、吉本佳弘（多摩棕櫚亭）、コーディネーター・濱田和秀（クロスジョブ堺）▽入門講座Ⅱ「分かりやすく教える」稲葉健太郎（名古屋総合リハビリテーションセンター）、「フェイディングとフォローアップ」石井浩明（福岡市立心身障がい福祉センター）▽シンポジウムⅡ「ジョブコーチ制度の次の時代について考える」伊集院貴子（大阪障害者雇用支援ネットワーク）、酒井京子（全国就業支援ネットワーク）、鈴木修（くらしえん・しごとえん）、湯田正樹（レオパレススマイル）、司会・小川浩

第29回全国高校生の手話によるスピーチコンテスト（東京）

全日本ろうあ連盟、当事業団、朝日新聞社主催。厚生労働省、文部科学省、テレビ朝日福祉文化事業団、日本手話通訳士協会、全国聾学校長会後援。NEC協賛。東京都聴覚障害者連盟協力

「全国高校生の手話によるスピーチコンテスト」を開催しました。手話の普及とボランティア活動、福祉教育の推進を図るため1984年から始まったこの催しは、今回で29回目を迎えました。

8月25日に東京都千代田区の有楽町朝日ホールで行われた本選には、原稿と映像の審査で選ばれた高校生10人が舞台上に立ち、手話と音声と同時に使ったスピーチで日ごろの練習の成果を競いました。

開会式では、秋篠宮妃紀子さまが手話を交えたスピーチで、5月の世界ろうあ者卓球大会での選手たちの活躍や各地の自然災害に触れ、災害時での聴覚障害者への支援や、さまざまな障害がある人々に日頃から理解を深めることの大切さを語り、「積み重ねてきた練習の成果を十分に発揮し、自信を持って自分の考えを表現することを期待しています」と出場者を励まされました。

今年度は香川県・坂出第一高校2年の池田奈月子（なつこ）さんが1位に選ばれました。池田さんは「ともに生きる」をテーマに、手話とスピーチで「聴覚障害者とふれあう中で、健聴者との違いは文化のようなものだと感じました。手話通訳士として聴覚障害者と健聴者をつなぐ懸け橋になりたい」と語りました＝写真。

2位の滋賀県立八幡高校3年・大野奈緒さんは「手と手をつないで」という題で、地域社会を発展させていくためには人と人の相互理解が大切であるとスピーチ。3位の兵庫県播磨高校3年の木村愛恵さんは「心の懸け橋」と題して、音のある世界とない世界とをつなぐ看護師になりたいと夢を語りました。奨励賞は宮崎県立延岡青朋高等学校3年の工藤由香里さんと、東京都立大泉桜高等学校3年の伊藤悦子さん。入賞者には賞状とトロフィー、協賛のNECからノートパソコンやスマートブックなどの賞品が贈られました。また、参加者全員にNECから手話スピーチの録画DVDと記念品が贈られました。

特別プログラムでは、宇宙航空研究開発機構（JAXA）宇宙科学研究所開発員の長谷川晃子さんが「宇宙に憧れて」と題して手話で講演しました。生まれつき耳が聴こえない長谷川さんは、大学に入ってから覚えた手話で自分の意思を伝えられるようになったことや、5歳の頃から宇宙に興味を持ち、その気持ちを心に抱き続けて、宇宙にかかわる職に就けたことに触れ、「今に挑戦して、未来を拓（ひら）いていくことを心がけています」と語りました。

審査員は小椋英子・日本手話通訳士協会会長、君島淳二・厚生労働省障害保健福祉部企画課自立支援振興室長、宮本一郎・東京都聴覚障害者連盟理事長、久松三二・全日本ろうあ連盟事務局長、小出真一郎・全日本ろうあ連盟理事、各務滋・朝日新聞論説委員のみなさんに務めていただきました。



高次脳機能障害についての講演会（宮城、静岡、広島、沖縄）

当事業団主催。日本脳外傷友の会、大同生命厚生事業団など後援

交通事故や病気で脳を損傷した高次脳機能障害の人たちは、日常生活の中でさまざまな問題に直面しています。当事業団では、当事者とその家族、医療・福祉関係者らを対象に2009年度は「高次脳機能障害を理解する」、10年度は「高次脳機能障害のひとを支援する」、11年度は「高次脳機能障害がよくなるということ」の意味を考える講演会を実施してきました。12年度は地域の当事者や家族の会を支援する講演会「高次脳機能障害の当事者・家族を支援する」を宮城、沖縄、静岡の3カ所で、また11年度と同テーマの講演会「高次脳機能障害がよくなるということ」を広島で開催、合わせて約780人が参加しました。（参加費はいずれも1000円）

●講演会「高次脳機能障害の当事者・家族を支援する」〈宮城・沖縄・静岡〉

【宮城】7月1日に仙台市福祉プラザで、高次脳機能障害を理解するとともに、当事者とその家族をどのように支援すればよいのかをさぐる講演会を、NPO法人ほっぷの森との共同主催で開催、150人が参加しました。

第1部では、まず、国立成育医療研究センター発達評価センター長の橋本圭司さんが各症状とその対応について説明し、高次脳機能を回復させるには、姿勢など身体機能を整えることがまず大切と力説しました。

続いて橋本さんは、くも膜下出血を発症し、記憶障害と遂行機能の低下により不安を抱えている高次脳機能障害の男性と対談＝写真。

「受傷前のあなたもいいが、人とのコミュニケーションに工夫を重ねる今のあなたもいいと思う人が、きっといるはず」と励ましました。



第2部のシンポジウムでは、原田勝行・東北保健医療専門学校作業療法科主任をコーディネーターに、遠藤実・仙台厚生病院名誉院長、白木福次郎・ほっぷの森理事長、当事者家族が登壇。まだまだ見過ごされている障害のある人の存在を知ることや、住み慣れた地域で支援を継続して受けられる地域の体制を作ることの必要性が指摘されました。

また、この講演会を機に「宮城高次脳機能障害連絡協議会・どんまいネットみやぎ」が発足しました。当事者や家族がどこに支援を求めても、ネットワークを通じて必要な支援を受けることができるようにする取り組みが会場で紹介され、大きな期待が寄せられました。

沖縄、静岡会場での講演会の概要は次の通りです。

【沖縄】脳損傷友の会ゆい沖縄との共同主催で、10月14日に国立劇場おきなわ（浦添市）

で開催。参加者は200人。

◇講演・当事者との対談 橋本圭司・国立成育医療研究センター・発達評価センター長

◇シンポジウム 上田幸彦・沖縄国際大学総合文化学部教授、赤嶺洋司・平安病院心理療法係主任、平良淳子・沖縄リハビリテーションセンター病院精神保健福祉士、崎原妙子・独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構沖縄障害者職業センター・主任障害者職業カウンセラー、葛原明美・NPO法人ミラソル会センター長

【静岡】NPO法人高次脳機能障害サポートネットしずおかとの共同主催で、2月9日に静岡県男女共同参画センター（静岡市）で開催。参加者は250人。

◇講演・当事者との対談 橋本圭司・国立成育医療研究センター・発達評価センター長

◇シンポジウム 小川喜道・神奈川工科大学創造工学部人間福祉・健康科学コース教授、片桐伯真・聖隷三方原病院リハビリテーション科部長、建木良子・ワークセンター大きな木所長、坂口英夫・富士厚生会障害者生活支援センターくぬぎの里相談員

●講演会「高次脳機能障害がよくなるということ」〈広島〉

13年2月24日、広島市の広島YMCA国際文化ホールで、講演会「よくなるということ」（高次脳機能障害サポートネットひろしま共同主催）を開催、180人が参加しました。

脳が損傷を受けると完全に元に戻ることはないと言われています。講師の一人、小澤富士夫さんは仕事中にくも膜下出血で高次脳機能障害の当事者になり、米国で1年間治療・リハビリを受けました。その結果、渡米前と帰国後では能力的なデータにあまり差がないにもかかわらず、劇的に症状が改善しました。「よくなるということ」の意味を私たちはどのように理解をすればよいのか、を講演会で探りました。

第1部では、西広島リハビリテーション病院院長の岡本隆嗣さんが、「高次脳機能障害の理解」と題して障害の症状について説明。次に立神粧子さんが米国での治療・リハビリの概要を説明した後、夫の小澤富士夫さんが米国で学んだ手法を生かしながら日常生活をどのように送っているかを話してくれました。

第2部のシンポジウム

＝写真＝では、コーディネーターの岡本さんが小澤・立神夫妻に「生活上で互いのストレスはないか？」と質問し、立神さんは「腹が立つことがあったら、ぶつけなさいと米国で指導を受け、適度に発散しています」と述べ、小澤さんは「妻に対するよりも、自分のできないことに対してストレスを感じる」と答えました。



広島で発足当時から家族会を支え続けている、言語聴覚士で県立広島大学准教授の本多留美さんは「障害があることで、一番難しいのは意欲とコミュニケーション。『よくなる』ためには、自分が変わろうという意識が大切です」と述べました。

最後に、岡本さんは、神奈川リハビリテーション病院で診察したことのある経緯から、「小澤さんは記憶の検査では今でも強い低下を示している。しかし米国の治療・リハビリにより、障害によるさまざまな問題の対処方法を持っており、いきいきと暮らしている。ゆっくりとあせらず、目標を持って着実にリハビリをすることが大事だ」とまとめました。

なるほど！なっとく！！高次脳機能障害 ～さらなる理解を求めて（名古屋）

NPO法人高次脳機能障害者支援「笑い太鼓」主催。当事業団後援

高次脳機能障害の理解と支援を広げていく講座です。12年7月14日に名古屋市中区の朝日ホールで、神戸大学大学院保健学研究科の種村留美教授が「高次脳機能障害の理解～社会とつながりリハビリテーション～」の題で話しました。障害の特徴や認知症との違いのほか、各種の事例からリハビリの進め方を説明し、ネットワークづくりの大切さを説きました。355人が参加、家族や支援専門員、医療・福祉を学ぶ学生も集まりました＝写真。



朝日福祉ガイドブック「なるほど高次脳機能障害」

高次脳機能障害とは、脳の役割のうち、言葉や動作、物事理解や記憶などに関わる広範な機能に問題が生じる障害のことを言います。この障害は誰もが当事者になる可能性があり、その数は50万人以上とも言われています。

当事業団が13年3月末に発行した朝日福祉ガイドブック「なるほど高次脳機能障害～誰にもおきる見えない障害」は、「見えない障害」とも言われる高次脳機能障害を、その障害の理解に始まり、発症から診断、退院、リハビリテーション、社会参加まで、その人の人生にかかわる全体のことを網羅し、やさしく解説しています。

監修は、豊富な臨床経験をもつ国立成育医療研究センター・発達評価センター長の橋本圭司さん。B5判88ページ、定価1200円。



講演会「あなたのうつ 私のうつ となりのうつ」(大阪、東京)

当事業団主催。地域精神保健福祉機構、全国精神保健福祉会連合会後援

うつ病になってもその人らしく生活するために、家族や周りの人ができることを考え、支援のあり方を探るための講演会「あなたのうつ 私のうつ となりのうつ～みんなでうつを考えよう～」を9月8日に大阪市立中央区民センターで、9月29日に東京・浜離宮朝日ホールで開きました。精神科医で国立精神・神経医療研究センター認知行動療法センター長の大野裕さん=写真、東京会場=と、長く就労支援に携わっている精神保健福祉士の石井雅也さんが講演したあと、会場からの質問に2人で答えました。うつ病の当事者や家族、支援者を含め、大阪で約200人、東京で約300人が参加し、2人の話に聴き入りました。



大野さんは、うつ病の診断と治療法について講演し、難しく感じられている認知行動療法について分かりやすく解説しました。

石井さんは日常生活と就労の支援について相談事例を使いながら、①デイケアや地域活動支援センターのプログラムの利用②家族など周りの人との話し方③休職の際の経済的なやりくりの仕方④その後の就労についての考え方、などをアドバイス。最後に利用できる地域の支援と、支援する者の心構えにも触れていただき、これからの支援のあり方を考えるきっかけになりました。

朝日福祉ガイドブック「みんなのうつ」

うつ病への関心が高まっていますが、誤解や偏見も根強く残っています。何より大切なのは正しく理解することです。うつ病の「分かりにくさ」を整理し、不安や誤解をなくす入門書として、ガイドブック「みんなのうつ～うつ病かなと思ったら～」を作りました。①うつ病って何？②うつ病を理解しよう ③うつ病の治療 ④うつ病とともに――の4章。普段の落ち込みと違うのか。治るのか。家族はどう接すればよいのか。喪失体験をキーワードに発病のきっかけを説明、現在分かっていることを平易に解説しています。認知行動療法にも触れ、考え方や生き方を工夫し、再発を防ぎながらどう生活していくか、体験例を挙げました。監修は国立精神・神経医療研究センター認知行動療法センター長の大野裕さん。B5判104ページ、定価1000円。



視力障害の大学生のための「聖明・朝日盲大学生奨学金」(東京)

当事業団、聖明福祉協会主催

視力障害のある大学生を支援する「聖明・朝日盲大学生奨学金」の貸与式が7月7日、東京都内のホテルであり、第44期生の2人に目録が手渡され、門出を祝いました=写真。

第44期生に選ばれた岡元佑佳さんは教師になることが目標で、三川草平さんは大学院に進学して大学の教員になることが夢です。

貸与式では、本間昭雄・聖明福祉協会理事長が奨学生を励まし、続いて、朝日新聞厚生文化事業団の安達周事務局長が2人に目録を手渡しました。

近年は障害のある学生へ門戸を開く大学の数は増え、点字での受験が認められたり、障害者支援室が設けられたりしています。今後、さらにバリアフリー化が進むことが望まれます。

この奨学金は、国内初の視力障害学生を対象とした奨学金制度として1969年に創設、進学希望者の向学心を支えてきました。貸与者総数は196人となりました。歴代の貸与者の中には、弁護士や大学教授、市議会議員、ピアニストなど、さまざまな分野で活躍する人が少なくありません。



「心の輪を広げる体験作文」「障害者週間のポスター」(東京)

内閣府主催。当事業団ほか後援

誰もが地域や職場・学校などで共に支え合って暮らす「共生社会」の実現を目指して、障害のある人となない人との心のふれあい体験を綴った「心の輪を広げる体験作文」と、障害のある人に対する国民の理解を広めるための「障害者週間のポスター」が今年も募集されました。最優秀賞受賞者の表彰式が12月3日、東京・有楽町朝日ホールでの「障害者フォーラム2012」(アジア太平洋障害者の十年)最終年記念式典)で行われました。

最優秀賞(内閣総理大臣賞)を受賞した5人に賞状と副賞が贈られました。

受賞者は次のみなさんです(敬称略)。

- 【作文】小学生=茨城県下妻市立豊加美小学校6年 佐藤真希
 中学生=愛媛県西条市立東予東中学校2年 稲井大雅
 高校生・一般=熊本県立松橋支援学校高等部3年 柴田美優
- 【ポスター】小学生=岐阜県輪之内町立福東小学校3年 近藤薫
 中学生=さいたま市立柏陽中学校1年 佐藤光太郎

第31回肢体不自由児・者の美術展（東京、福岡）

日本肢体不自由児協会など主催。厚生労働省、文部科学省、当事業団など後援

肢体不自由児・者の生きがいつくりと、障害のある人に対する理解を深めることを目的に、「第31回肢体不自由児・者の美術展」が12月6日から9日まで東京芸術劇場（東京都豊島区西池袋）の5階ギャラリーで開催されました。全国の肢体不自由児・者から応募のあった合計907点の作品の中から選ばれた入賞作品92点（特賞24点、優秀賞32点、佳作賞36点）が展示されました。初日には入賞者の表彰式も行われました。特賞のうち絵画と書の計2点に朝日新聞厚生文化事業団賞を贈りました。同展は全国各地を巡回して実施され、13年2月25日から3月3日には福岡市中央区天神のアクロス福岡でも開かれました。

入賞者のうち、主な特賞は次の通りです（敬称略）。

- 【厚生労働大臣賞】 絵画＝前原美佐子（広島市西部障害者デイサービスセンター）
書＝河井善人（新潟市）
- 【文部科学大臣奨励賞】 書＝田中沙貴（新潟県立上越特別支援学校高等部3年）
コンピュータアート＝安井絢人（広島県立広島特別支援学校高等部2年）
- 【東京都知事賞】 絵画＝畠山雄也（東京都・筑波大学附属桐が丘特別支援学校高等部3年）
書＝永井俊匡（東京都・多摩療護園）
- 【朝日新聞厚生文化事業団賞】 絵画＝望月ジャスミ（滋賀県立甲良養護学校小学部5年）
書＝塩谷紀子（福井県立福井養護学校小学部4年）

第41回聴美会展（名古屋）

中部聴力障害者美術同好会主催。愛知県、名古屋市、当事業団など後援

聴覚に障害がある美術愛好者らが自主運営する美術展「聴美会展」が7月31日から8月5日まで、名古屋市中区の名古屋市民ギャラリーで開催されました。27人から絵画、彫刻、写真などの作品85点が集まりました。優秀作品に贈られる朝日新聞厚生文化事業団賞は、編み物洋服をつくった奥田すみ子さんが受賞しました。期間中、手話サークルの支援者や障害者施設の人らが訪れ、入場者数は1357人を数えました。

第47回名古屋市障害者作品展示会

名古屋市、名古屋市身体障害者福祉連合会主催。当事業団など後援

名古屋市障害者作品展示会が13年1月29日から2月3日まで、名古屋市瑞穂区の市博物館で開催されました。展示作品は5部門258点（書道35点、絵画73点、写真29点、手芸50点、工芸71点）にわたり、障害のある4歳から87歳までの人が出品しました。5部門の優秀作品には当事業団が「朝日賞」の楯と賞状を贈りました。期間中の6日間に家族や友人ら740人が訪れました。

第50回心身障害問題を考える集い（名古屋）

社会福祉法人あさみどりの会主催。当事業団後援

心身障害問題の今日的な課題を取り上げる集いが6月16日、名古屋市朝日ホールで開かれました。「発達障がいのある子どもとその家族の安定した暮らしを実現するために」の題で講演と対談があり、200人近くが聴きました。川崎医療福祉大学の諏訪利明准教授が、療育のポイントやライフサイクルからみた課題と、自立へ向けてどんな生活をさせたいかのイメージを持つ大切さを訴え、家族や支援者の心得を説きました。対談では子ども発達センターさわらび園の島崎徹也園長が加わり、早期療育など支援の役割を話し合いました。

第33回障害者歩くスキーの集い（札幌）

当事業団、朝日新聞北海道支社主催。三菱電機協賛

障害のある人もない人も一緒に歩くスキーをマイペースで楽しむ「第33回障害者歩くスキーの集い」を13年1月20日、札幌市南区の滝野すずらん丘陵公園で開催しました。

雪が降り、スキーを滑らせるコース上の溝が一部埋まってしまう天候でしたが、1キロ、3キロ、5キロ、7キロの4コースに分かれ、172人が参加し、伴走者に伴われたりしながら、それぞれのペースで元気にゴールを目指しました。

今回も多くのボランティアが、運営に加わり、大会を盛り上げました。

（写真は、伴走者とともに完走した全盲の女性や特注のストックを準備して参加した重症筋無力症の男性を取り上げた朝日新聞朝刊北海道版の記事）



第33回朝日九州車いすバスケットボール選手権大会（大分）

九州車椅子バスケットボール連盟、当事業団主催

第33回朝日九州車いすバスケットボール選手権大会が11月23、24日、大分県の別府市総合体育館（べっぷアリーナ）で開かれました＝写真次ページ。九州・沖縄から参加した14チームがトーナメント方式で戦った結果、「太陽の家スパーズ」（大分）が2年ぶりの優勝を飾り

ました。

昨年の大会で「太陽の家スパーズ」の7連覇を阻止して、優勝旗を初めて沖縄に持ち帰った「SEASIRS」が2連覇を成し遂げるか、「太陽の家スパーズ」が振り返るか、今大会では注目されました。

予想通り両チームが勝ち進みましたが、決勝では「太陽の家スパーズ」が「SEASIRS」に各

クォーターでリードを広げ、59対39で快勝しました。3位決定戦では「佐世保WBC」（長崎）が「HAGAKURE・Dangers」（佐賀）を64対18で下しました。

上位2チームは13年5月に東京都で開催の「内閣総理大臣杯争奪 第41回日本車椅子バスケットボール選手権大会」への出場権を獲得しました。



第24回九州車いすツインバスケットボール選手権大会（福岡）

九州車椅子バスケットボール連盟、九州車椅子ツインバスケットボール委員会主催、当事業団共催

第24回九州車いすツインバスケットボール選手権大会は11月15、16日、福岡市のアクション福岡で開かれ、10チームによる熱戦が繰り広げられました
=写真。

ツインバスケットボールはフリースローサークルの中にもう一つ低いゴールがあるのが特徴です。下肢だけでなく上肢にも障害がある人も参加でき、日本で考案されました。高低2つのゴールがあることで、障害の重い選手もシュートを打



つことができます。選手は障害の程度によって狙えるゴールが決められているなど、選手一人ひとりが障害の程度に応じて存在感を発揮でき、達成感を感じることができる競技です。

今年は台風の影響で、昨年の覇者「沖縄フェニックス」が急きよ、参加を辞退しました。太陽の家ブレイカーズ（大分）が決勝でMaug's（マウゴッツ、熊本）を68対47で破り、16回目の優勝を飾りました。3位決定戦は福岡勢同士の対決となり、準決勝でブレイカーズに1点差で敗れた博多パトラッシュが福岡BEATを79対30で破りました。

高 齢 者 の 福 祉

高齢者への暴力防止プロジェクト助成

当事業団主催。厚生労働省、テレビ朝日福祉文化事業団後援

地域で高齢者への暴力や虐待を防ぐ取り組みをしている団体を支援する「高齢者への暴力防止プロジェクト助成」事業を実施しました。この助成は、地域、家庭、施設で、高齢者が大切に扱われ、その人らしく安心して生活できる社会になることを願い、全国各地のさまざまな地域で企画された優れた取り組みを支援するもので、2010年度に創設され、11年度から助成を始め、今回が2回目。12年度に実施されるプロジェクトについて11年11月から募集を開始、12年1月17日までに43件の応募がありました。最終的に10団体への助成を決め、5月11日の朝日新聞朝刊生活面で発表しました=写真。助成総額は929万円。

助成を受けた10団体は以下の通りです。

権利擁護あおい森ねっと（青森県弘前市、三上富士子代表理事）、全国介護者支援協議会（東京都豊島区、上原喜光理事長）、日本高齢者虐待防止センター（東京都西東京市、田中荘司理事長）、千葉県社会福祉協議会小中台西地区部会（武市康子部会長）、日本高齢者虐待防止学会（横浜市、高崎絹子理事長）、認知症の人と家族の会愛知県支部（東海市、尾之内直美代表）、志摩の地域ケアを考える会（三重県志摩市、鈴木孝明会長）、さつき会（奈良県宇陀市、井野谷高子代表）、高齢社会をよくする女性の会・広島（広島市、葉真寺満里子代表）、ふくし劇団こくら南プチボ（北九州市、築別悦子座長）



さらに、3回目の募集を11月17日から始め、13年1月17日までに43件の応募がありました。助成を受ける団体10余り（総額約1000万円）を5月に決め、朝日新聞紙上で発表。本助成金は3回目で終了する予定です。

連続講座「人生の終い方～親の介護と自分の老後～」(東京、大阪)

当事業団主催

年齢を重ね、介護や死を身近に感じる世代を対象に、介護や看取りを通じ、親の介護と自分自身の老後の過ごし方や終末を考える連続講座を東京、大阪で開きました。

各回のテーマは「後悔しないための人生の設計図」「終末デザイン～在宅で最期をむかえるために」「人生の終(しま)いじたく」。講師は、「自分の死を考える集い」主宰で「大往生したけりゃ医療とかかわるな」著者の中村仁一さんをはじめ、緩和医療医の天津秀一さん、在宅医療を勧める医師や訪問介護の実践者のみなさんと、女優の中村メイコさん＝写真は大阪会場での対談。



60代、70代を中心に多くの方々が参加、各回とも講師の話に熱心に聴き入る姿が目立ちました。終了後のアンケートには「在宅医療のイメージがわいた」「死に対する考え方が変わった」「老いを自覚して、前向きに終いじたくをしようと思った」「たいへん良かった」「楽しかった」といった感想が多数寄せられました。各回のテーマと講師(敬称略)、来場者数は次の通りです。

東京会場

【第1回】「終末デザイン～在宅で最期をむかえるために」

9月23日(日) 東京都中央区・浜離宮朝日ホール(来場者111人)

《第1部》講演①「人生の終い方」(13:00～13:30)

講師＝全国在宅療養支援診療所連絡会会長 新田國夫

講演②「訪問看護の立場から～予防から看取りまで」(13:30～14:00)

講師＝白十字訪問看護ステーション統括所長、暮らしの保健室室長 秋山正子

《第2部》対談(14:15～15:15) ○新田國夫 ○秋山正子

【第2回】「後悔の少ない最期のために～知っておくべき終末期・死とのための緩和医療」

10月20日(土) 東京都中央区・浜離宮朝日ホール(来場者198人)

《第1部》講演「後悔の少ない最期のために～知っておくべき終末期・死とのための緩和医療」 (13:30～14:30)

講師＝東邦大学医療センター・大森病院副緩和ケアセンター長 天津秀一

《第2部》対談(14:45～15:45)

○天津秀一 ○朝日新聞医療サイト「アピタル」編集長 平子義紀

【第3回】「人生の終いじたく」

1 2月8日(土) 東京都中央区・浜離宮朝日ホール(来場者270人)

《第1部》講演「人生の終いじたく」(13:30~14:30)

講師=女優 中村メイコ

《第2部》対談(14:45~15:15) ○中村メイコ ○アエラ元編集長 一色清

大阪会場

【第1回】「終末デザイン~在宅で最期をむかえるために」

1 0月27日(土) 大阪市中央区 大阪産業創造館のイベントホール(来場者230人)

《第1部》講演「胃ろう、抗がん剤、延命治療いつやめますか? 『平穏死』10の条件」
(13:00~14:30)

講師=長尾クリニック院長 長尾和宏

《第2部》講演「訪問介護の経験から」

(14:45~15:45、質疑応答15:45~16:00)

講師=介護共育研究会代表、高齢者地域福祉連携施設アリス甲子園副施設長 石川立美子さん

【第2回】「人生の終いじたく」

1 1月25日(日) 大阪市中央区 エル・おおさかのエル・シアター(来場者546人)

《第1部》講演「人生の終いじたく」(13:30~14:30)

講師=女優 中村メイコ

《第2部》対談(14:45~15:15) ○中村メイコ ○アエラ元編集長 一色清

【第3回】「後悔しないための人生の設計図~『死を視野に入れて』かかわる、生きる~」

1 3年1月27日(日) 大阪市西区・大阪YMCA会館ホール(来場者352人)

※予定していた9月30日の回を台風のため、延期して開催しました

《第1部》講演(13:30~14:30)

講師=医師、老人ホーム「同和園」付属診療所長、「自分の死を考える集い」主宰 中村仁一

《第2部》対談(14:45~15:45)

○中村仁一 ○朝日新聞医療サイト「アピタル」編集長 平子義紀

「認知症とともに~家族が認知症になったら~」(東京、大阪、名古屋、福岡)

当事業団主催、認知症の人と家族の会後援

日本での患者数が300万人を超えるとされる認知症は、いつ自分や家族がかかってもおかしくない、身近な病となりました。しかし認知症に対する理解は十分でなく、認知症になると「何もわからなくなる」「家族は介護に全てを捧げなくてはならない」といった誤解も根深く残っています。そこで、認知症の正しい知識と本人への理解を深めるための講演会「認知症とともに~家族が認知症になったら~」を全国4カ所で開催しました。8月5日に大阪市西区の大阪YMCAホールを皮切りに、11月4日に名古屋市中区の朝日ホール、12月2日に福岡市博多区の朝日新聞福岡本社内会議室で開き、13年3月23日に東京・築地の浜離宮朝日ホールで締めくくりました。講演会には合計で約350人が参加しました。

全4回の講師を務めたのは大阪市旭区の松本診療所（ものわすれクリニック）院長の松本一生さん＝写真は大阪YMCAホール。

講演会前半の基調講演では、認知症になってもその人の心は生きており、介護者が穏やかな気持ちで接すると認知症の本人の症状も落ち着くことが多い。全力で介護に取り組んで疲弊せずに、自分の中に余裕を残した状態で介護に携わることが介護する側、される側のどちらにも良いと思うと話しました。後半の質疑応答では、認知症は遺伝するのか、といった今後の自分を案じての質問や、認知症以外の病を併発し入院しているが、その主治医が認知症を理解しているとは思えず不安だがどのようにしたらよいか、など切実な悩みが寄せられました。松本さんはそれぞれの質問に対し、経験に基づく具体的なアドバイスを行いました。



参加者からは「もっと早くにこの講演会を聞いていれば、もっと違う介護ができたかも知れない」「認知症の人の気持ちを慮ることの大切さがわかった」「具体的なアドバイスを受けられ、介護の現場でも活用できそう」という声が聞かれました。

参加者からは「もっと早くにこの講演会を聞いていれば、もっと違う介護ができたかも知れない」「認知症の人の気持ちを慮ることの大切さがわかった」「具体的なアドバイスを受けられ、介護の現場でも活用できそう」という声が聞かれました。

朝日高齢者福祉セミナー（名古屋）

愛知高齢者福祉研究会、当事業団主催

「高齢者を支える医療・福祉を考える—高齢者の終（つい）の住処（すみか）について」をテーマに、「朝日高齢者福祉セミナー」が6月10日、名古屋市中区の朝日ホールで開かれました。「終の住処」とは「終生すんでいるべきところ。または最後のすむ所」と言われていますが、内閣府の最近の調査では、3割近くが自宅以外の老人ホームなどを終の住処として希望しています。セミナーでは、人生の最後に居住する場所として自宅はもちろん、老人ホームなど高齢者入所施設も含めて「終の住処」としてどこがふさわしいのかを、参加した介護職員や家族、医療関係者、学生ら約160人が講師やパネリストと一緒に考えました。

中京大学総合政策学部教授で、日本居住福祉学会副会長の岡本祥浩さんが「社会と暮らしをつむぐ居住福祉」の演題で基調講演、住まいの役割と意義を説明しました。健康との関わりなどから住まいのあり様も変遷してきたとし、バリアフリーの高齢者住宅の増設や、住居費負担の不安を取り除く政策など、さまざまな課題を提起しました。



シンポジウムは「高齢者の終の住処を考える」をテーマ

に、パネリストがそれぞれ経験を語りました＝写真。特養ホームでの日々の生活、認知症に対応した共同介護のあり方、サービス付き高齢者向け住宅の内容、在宅での看取りの場合など、実際に取り組んでいる事例を紹介しました。

パネリストは、特別養護老人ホームせんねん村総合施設長の中澤明子さん、グループホーム大紀エンゼルヘルプ統括責任者の和田行男さん、社会福祉士で一般財団法人いこいの郷福祉会の原

田亘さん、在宅介護支援センター光の園介護支援専門員で愛知文教女子短期大学専攻科介護福祉専攻准教授の称宜佐統美さんの4人で、内山治夫・東京福祉大学名古屋キャンパス教授がコーディネーターを務めました。

高齢者施設訪問プログラム「ゆうゆうビジット」(全国17カ所)

当事業団主催

日ごろ外出の機会の少ない、高齢者向けの施設の入居者や利用者らを対象に、一流の音楽家や力士らが訪問し、質の高い楽しいひとときをお届けする「ゆうゆうビジット」。4年目となった12年度は、全国の特別養護老人ホームや介護老人保健施設など計17カ所を、6組の出演協力者に訪問していただきました。

1回目は5月30日。バイオリニストの千住真理子さんが東京都武蔵野市の特別養護老人ホーム吉祥寺ナーシングホームを訪れました。千住さんは入所者約40人に語りかけながら、「G線上のアリア」や「ユーモレスク」など8曲を演奏。そのほか、千住さんは福島県郡山市の特別養護老人ホーム2カ所を訪問しました。

福田進一さんは6月15日に大阪市の特別養護老人ホームサン・アクエリアを、13年2月10日に兵庫県伊丹市の特別養護老人ホームあそか苑を訪問。サン・アクエリアでは、福田さんの演奏に、施設を利用する高齢者ら約70人が楽しいひとときを過ごしました=写真上。福田さんは、それぞれの曲の解説を交えながら、クラシックギター曲の王道「アルハンブラの思い出」、「オーバーザレインボー」など9曲を演奏。アンコール曲「禁じられた遊び」の演奏が終わると、場内からはひととき大きな拍手が沸きました。



7月29日には佐賀市の特別養護老人ホーム桂寿苑を歌手のおおたか静流（しずる）さんと、音楽とマジックで幅広く活動している大友剛さんが訪問。おおたかさんが歌う「リンゴの歌メドレー」や沖縄の歌には自然に口元が緩み、口ずさむ人、踊り出す人もいました。大友さんの絵本マジックでは、絵本の内容が一瞬のうちに書き換わることに、驚きの歓声が上がりました。苑長の凌文子さんは「知っている歌が多かったので、みんな楽しんでくれました。歌うことで元気になってくれればと思っています」。

俳優の日色ともゑさん、湯浅隆さん（ポルトガルギター）と吉田剛士さん（マンドリン）のアコースティックユニット・マリオネットの皆さんが8月28日に山口県周南市のデイサービスセンターやまなみ荘を訪問=写真下。会場には入所者やデイサービス利用者ら75人ほどが集まり、日色さんの豊かな表情と声色による物



語「白いぼうし」の朗読に引き込まれていました。後半は朗読とギター、マンドリンのコラボで、「月の沙漠」や「ふるさと」などを披露。「遠隔地でもあり、ほとんどプロの演奏などに接する機会がない。今日を皆楽しみにしていました」と職員の一人は話していました。

バイオリニストの川畠成道さんは10月1日に岡山県笠岡市の養護老人ホーム敬愛園を、11月19日には岐阜県不破郡の特別養護老人ホームいぶき苑を訪問。入所者は生で聴くバイオリンの音色を堪能しました。

高砂部屋の若手力士が7月23日に名古屋市の特養老人ホーム緑生苑を、11月26日に福岡県筑紫郡の特養老人ホームねむのきを、13年1月28日には茨城県ひたちなか市の介護老人福祉施設北勝園、3月25日には大阪府貝塚市の特別養護老人ホーム水間ヶ丘を訪問。決まり手の披露では、激しい立合いと体のぶつかる弾ける音、力士が転がる迫力に、利用者はどよめきの声を発していました。

12年度的全訪問先は次の通りです。

10年2月に始まった「ゆうゆうビジット」は、通算で48回を実施。ほとんどが朝日新聞の地域面で紹介されました。

	訪問者(敬称略)	訪問日	地域	訪問先
1	千住真理子	5月30日	東京都武蔵野市	吉祥寺ナーシングホーム
2	福田進一	6月15日	大阪市生野区	介護老人福祉施設サン・アクエリア
3	川畠成道	7月12日	名古屋市中川区	特別養護老人ホーム高杉共愛の里
4	高砂部屋	7月23日	名古屋市緑区	特別養護老人ホーム緑生苑
5	千住真理子	7月26日	仙台市青葉区	特別養護老人ホーム洛風苑
6	おおたか・大友	7月29日	佐賀市	特別養護老人ホーム桂寿苑
7	日色・マリオネット	8月28日	山口県周南市	デイサービスセンターやまなみ荘
8	川畠成道	10月1日	岡山県笠岡市	養護老人ホーム敬愛園
9	日色・マリオネット	10月6日	大阪府高槻市	総合福祉施設和朗園
10	千住真理子	11月16日	福島県郡山市	特別養護老人ホームおおつき
11	千住真理子	11月16日	福島県郡山市	特別養護老人ホームうねめの里
12	川畠成道	11月19日	岐阜県垂井町	特別養護老人ホームいぶき苑
13	高砂部屋	11月26日	福岡県那珂川町	特別養護老人ホームねむのき
14	おおたか・大友	1月17日	山梨県甲斐市	特別養護老人ホームめぐみ荘
15	高砂部屋	1月28日	茨城県ひたちなか市	介護老人福祉施設北勝園
16	福田進一	2月10日	兵庫県伊丹市	特別養護老人ホームあそか苑
17	高砂部屋	3月25日	大阪府貝塚市	特別養護老人ホーム水間ヶ丘

福 祉 啓 発 ・ 公 衆 衛 生 ほ か

第8回自殺防止事業「自殺!? ちょっと待って!」—思いとどまってもらうために— (福岡)

福岡いのちの電話、当事業団主催。朝日新聞社、九州朝日放送、福岡県、福岡市後援
大同生命厚生事業団協賛

全国で1998年から2011年まで連続して3万人を超えた自殺者を減らそうと、公開講座「自殺!? ちょっと待って!」が10月20日、福岡市中央区の都久志会館で開かれました。約200人が参加し、自殺を思いとどまらせるための手だてについて耳を傾けました。

作家で高野山真言宗僧侶の家田荘子さんが「この世に生まれ、生きて、生かされて…」と題して講演。自分がいじめの対象になった体験談を話す中で、「悩みを他人に言えない苦しみ」を抱いていることを周囲の人が察知し、声かけのコミュニケーションがとれる挨拶から、話の糸口を見つけ出して欲しい、と呼びかけました。川寄弘詔・九州大学大学院医学研究院精神病態医学准教授と林幹男・福岡いのちの電話理事長を交えてのてい談=写真=では、子供たちから発せられるサインを見逃さず、家族のコミュニケーションを保ち、「誰かがついていてあげる」「話を聴いてあげる」ことが大切だ、と締めくくりました。



いのちの電話などに福祉助成金 (福岡)

当事業団では、福岡県内で地道な社会福祉活動を続け、継続的な支援が必要な団体を支援するための助成を続けています。助成金は運営費として活用できます。

ボランティア相談員が年中無休の24時間体制で電話相談に応じ、さまざまな事情から自殺を思うほど精神的危機に直面し、失いかけた生きる力の回復を手伝う努力をしている、福岡いのちの電話（福岡市）と北九州いのちの電話（北九州市）、さらに交通事故被害者の生活相談や慰霊祭、励ます会、遺児・遺族への援護活動などを行っている、福岡県交通遺児を支える会北九州総支部（北九州市）の3団体に各15万円を贈りました。贈呈式は13年3月12日に朝日新聞西部本社で行いました。=写真は3月13日朝日新聞朝刊福岡版。



東海グループホームスタッフ研修会（名古屋）

東海グループホームスタッフ研修会主催。当事業団後援

障害の種別を超えたネットワークづくりを目指している東海3県のグループホームは、12年度の研修で「距離のもち方」を年間テーマにして活動しました。研修は毎回、名古屋市中区の朝日ホールを会場にしています。

5月19日は近畿グループホームスタッフ研修会運営委員の中山恭子さんが「世話人110番」の視点からホームの課題や、世話人の不安・悩みなどを話しました。11月10日は「彼らの思いに応えられる支援者をめざして」をテーマに、札幌の支援センター所長を務める石元憲明さんが講演、どうすれば利用者の思いを知ることができるのかなどを一緒に学びました。

13年3月16日は「聴いて！ 私たちの声～知的障害者が本音で語る」をテーマに、大阪府立大学准教授の三田優子さんが「当事者が主役の時代がやってきた！」と題し講演。障害のある人は、よく話を聴いてくれる人や命令口調ではない人に親しみを感じている実態を紹介しました。参加した障害のある人が日々の生活を報告、独り暮らしの難しさを訴えました。

遺贈・遺言セミナー「おいじたく～あなたの財産を未来に」（東京、大阪、福岡）

当事業団主催

大切な財産を世の中のために役立てたいという希望に応える「遺贈・遺言セミナー」を東京、大阪、福岡の3会場で開催。合わせて145人が参加し、子どもがいない夫婦や単身者が他界した後、残された財産をトラブルなく、どう生かすかをテーマに遺贈や遺言の書き方について学びました。

10月29日には大阪市北区の大阪市中央公会堂・地下1階大会議室で＝写真上、また11月20日には東京都中央区の朝日新聞東京本社で開催。両会場とも大幅に定員を超える申し込みがあり、大阪では68人、東京では58人が参加。高齢者の財産管理や成年後見制度、相続問題にも詳しい東京弁護士会の中山二基子さんを講師に、トラブルが少ない相続、遺贈の方法について、豊富な事例をもとに、学びました。

東京会場では中山弁護士は、遺言をきちんとしておかなかったために、親族が大きなトラブルを抱えてしまうケースなどを紹介し、簡単でもいいので法的に整った形で自分の遺志を残すことの大切さを述べました＝写真下。

最後の質疑応答では、いつでも気軽に相談にのってもらえるホームロイヤーや相談料の一般的な価格、成年後見人や遺言執行者の役割など、さまざまな質問が寄せられ、関心の高さがうかがえました。



11月7日には北九州市立商工貿易会館5階会議室で開催＝写真、福岡市や宗像市からの参加も含め、19人が聴講しました。講師は遺贈・相続財産管理・成年後見問題に取り組んでいる石井将弁護士（福岡県弁護士会）。知っておくと役立つ遺言と相続の法律知識を民法の解釈と絡めながら、事例を引用して、分かりやすく説明されました。「相続は一生を映す鏡、人生の集大成の事業」で、トラブルを防ぐためにも遺言書を残すなどの対応が重要だという話もありました。セミナー終了後の個別の相談では、多くの参加者が直面している難題にアドバイスがありました。アンケートでは回答者全員が「役に立った」と答え、継続開催の要望も強くありました。

講演会は2013年度も開催する予定です。

セミナーでは小冊子『遺贈』遺産の寄付をお考えのみなさまへ（A5判、20ページ）を参加者に配布しました。これまでのセミナーで使った資料をもとに、遺贈の仕組みや遺言書がない場合のデメリットを説明しています。



第64回保健文化賞（東京）

第一生命保険株式会社主催。厚生労働省、当事業団など後援

保健衛生の向上や、向上に寄与した研究・発見をした団体、個人に贈られる第64回「保健文化賞」の贈呈式が11月21日、東京都港区のホテルで行われ、10団体と個人5人に賞金（団体各200万円、個人各100万円）と朝日新聞厚生文化事業団賞などが贈られました。

この賞は1949年に制定されて以来、この分野の民間の表彰事業として最も定評のあるものです。受賞団体・個人は次の通りです。（敬称略）

【団体】茨城県産婦人科医会、市川市医師会（千葉県）、スマイルクラブ（同）、エイズ予防財団（東京都）、骨形成不全症協会（同）、日本心身障害児協会島田療育センター（同）、日本リウマチ財団（同）、新潟県弥彦村、健康ますだ市21推進協議会（島根県）、熊本小児在宅ケア・人工呼吸療法研究会（熊本県）

【個人】歯科医・吉田圭治（福島県）、高崎健康福祉大教授・池田優子（群馬県）、日本自殺予防学会理事長・斎藤友紀雄（東京都）、愛知学院大教授・夏目長門（愛知県）、医師・小倉剛（大阪府）

アサヒベビー相談室（大阪、高槻、大津）

当事業団主催

病気や栄養相談、発達障害など、育児に悩む親のため、デパート内に開設している育児相談室で医師や歯科医師、栄養士などの専門家が無料で相談に乗っています。

1957年に全国で初めてデパート内に無料でベビー相談室を開設した近鉄百貨店阿倍野店（大阪市）は、「親子三代にわたって利用しています」という家族のほか、近隣の奈良県から相談に来る方もいます。大阪市立大学医学部附属病院小児科の先生や看護学部の先生方にご協力をいただいております、気軽に相談できる場として好評です。4月と9月には保育の専門家によるパネルシアターや手遊び、離乳食講習会など、親子で参加できるイベントも開催しました。

西武百貨店高槻店（高槻市。1974年開設）は毎週木曜日、小児科医が相談にあたり、西武百貨店大津店（大津市。2004年開設）は第1・3日曜日に専門相談員が子育ての先輩の立場からアドバイスしています。

各相談室の利用者数は次の通りです。

- ・近鉄阿倍野店 1,628人（1回平均12.2人）、ミニ講演会 162人
- ・西武高槻店 442人（1回平均約9人）
- ・西武大津店 65人（1回平均約2.8人）

生活習慣病市民公開講座（北九州）

平成紫川会主催。北九州市、当事業団共催

財団法人平成紫川会は、公益法人として急性期疾患の治療を中心とした高度医療を提供し、同時に地域医療の確保と質の向上を図るとともに、公衆衛生活動を実施しています。当事業団は、前年に引き続き平成紫川会、北九州市とともに、地域住民の福祉の向上に寄与することを目的に、最新の医療技術や健康情報を提供する「生活習慣病市民公開講座」を開催しました。

講座は6月の「大切な人が突然倒れた時、あなたは何かができますか？」でスタートし、12月の「健康寿命をのぼそう！」まで計4回で、健康に関する、身近なテーマを専門職の方から聴ける講座に延べ212人が参加し、熱心に耳を傾けていました。

【リバートーク市民公開講座】

- | | | |
|---------|----------------------------------|--------------|
| 6月 2日 | 「大切な人が突然倒れた時、あなたは何かができますか？」 | |
| | 小倉記念病院 中島 研・救急部主任部長 | (KMMビル 大会議室) |
| 9月 1日 | 「大切な人が突然倒れた時、あなたは何かができますか？」 | |
| | 同病院 中島 研・救急部主任部長 | (KMMビル 大会議室) |
| 10月 27日 | 「乳ガンを知ろう～乳がんの早期発見・早期治療するために～」 | |
| | 同病院 田中 香・乳がん看護認定看護師 | (KMMビル第4会議室) |
| 12月 1日 | 「健康寿命をのぼそう！～糖尿病にならないために、今できること～」 | |
| | 同病院 砂山 裕子・糖尿病看護認定看護師 | (KMMビル第4会議室) |

チャリティー事業

朝日チャリティー美術展（名古屋、大阪、東京）

当事業団、朝日新聞社主催

全国の美術家や各界著名人から寄贈された作品を販売し、収益を社会福祉事業に充てる「朝日チャリティー美術展」を名古屋、大阪、東京の3会場で開催しました。2012年度も文化勲章受章者や人間国宝を含む画家、工芸・彫塑（ちょうそ）家、書家、宗教家、茶道家、各界の著名人ら延べ約2800人の方々にご協力をいただき、販売した作品は日本画、洋画、工芸、彫塑、書、色紙など3800点に上りました。

第59回名古屋展は12月6日から8日まで、名古屋市中区栄の丸栄百貨店で開催しました。900人近い作家から1000点余りのご協力をいただき、入札と即売で展示・販売しました。

会場の丸栄8階大催事場は、前年と同じ場所でしたが、展示スペースの区画を増やすなど、寄贈作品をゆったり見てもらえるように工夫を凝らしました。

総選挙の期間とも重なった、あわただしい年の瀬の美術展となりましたが、入口前には開店前から長い行列ができ、開催を楽しみにしている愛好者が多いことを実感させられました。陶工芸は初日、日本画と洋画は2日目からの即売でしたが、両日とも、目当ての作家・作品には開店と同時に来場者が殺到しました＝写真上は二川和之さんの日本画「屋久島」（F6）。



86回目を迎えた大阪展は12月22日から24日まで、大阪・なんば高島屋で開催しました。約1000人の作家から約1300点をご寄贈いただき、入札と即売で販売しました＝写真下。

好評の「イラストレーター・絵本作家・漫画家」コーナーはもちろん、新しく「動物絵画・工芸」と「ガラス工芸」の両コーナーを入札会場に設け、多くの入場者の注目を集めました。キラキラと輝く美しいガラスの造形に見とれたり、愛らしい動物の

絵画にほほえんだり、思い思いに作品を楽しむ入場者の姿が見られました。

3日間の来場者数は昨年を上回り、5000人を超えました。

88回目の東京展は13年3月8日から11日まで東京都中央区の松屋銀座で開催し、入札と即売で約1500点を販売しました=写真。8、9日は日本画家、洋画家、10、11日は工芸家、著名人他の作品を販売。前期、後期ともに初日は、早朝から多くの方が列を作りました。



今回から新たにご協力くださった作家も多く、社会福祉の共感の輪が、今後さらに広まればと期待をしています。

Next Art 展 次世代のアートを担う若手作家の作品を推薦する Next Art 展を今年も朝日チャリティー美術展東京展と併催し、応募作194点から選ばれた31作品を展示、入札販売しました。制作作家と来場者が作品について語り合う姿が見られたり、先輩作家が激励に訪れたり、ファンと作家、作家同士の交流としても、同展の意義はますます高まっているといえます。

Next Art 展の売り上げは、作家のさらなる創作活動と当事業団の社会福祉事業に役立てます。

(チャリティー美術展に作品を出展していただいた方々のお名前は58~67ページに、Next Art 展の推薦作品の制作者は67ページに掲載しました)

第62回メサイア演奏会（東京）

当事業団、朝日新聞社主催。東京藝術大学音楽学部協力、JR東日本特別協賛

1951年から歌い継がれてきた「藝大メサイア」、第62回「メサイア・チャリティーコンサート」が12月21日、東京・上野の東京文化会館大ホールで開かれました=写真。大塚直哉さんの指揮で藝大フィルハーモニアと学生ら約200人がヘンデルのオラトリオ「メサイア」(救世主)の全曲を披露。古楽奏法の発想を採り入れた演奏や「ハレルヤコーラス」の大合唱で2200人の聴衆を魅了しました。



一流プロへの登竜門とも言われるソリストは、毎年9月の学内オーディションにより選考されます。今回は渡邊万里奈（ソプラノ）、秋本悠希（アルト）、黄木透（テノール）、山本悠尋（バス）の大学院生のみなさんが務めました。

近年クラシックコンサートはなかなかチケットが売れないと言われていますが、「藝大メサイア」のチケットは多くの長年のファンに支えられ、今回も12月早々に売り切れしました。

「メサイア」は、キリストの生涯と復活、栄光を題材にしたオラトリオ（聖譚曲）で、「社会福祉の目的以外に演奏を認めない」という作曲者ヘンデルの遺志をくみ、現在も世界中の多くのチャリティーコンサートで演奏されています。

本演奏会は、社会貢献の一環として協力、出演していただいている東京藝術大学音楽学部の教員、学生のみなさんの力によるものです。1997年からは音楽学部だけでなく、美術学部の先生方のご協力も得て、ポスターやプログラムを制作しており、今回も前年に引き続き東京藝術大学大学院の教授である簀内佐斗司さんにご協力いただきました。

第54回各派合同三曲演奏会（大阪）

当事業団主催

琴、三絃、尺八の世界で活躍する各派社中が競演する邦楽の演奏会を、11月23日、大阪府中央区のNHK大阪ホールで開催しました＝写真。



今回は16社中が参加し、約千人の観客が、優雅な和の音色に浸りました。出演社中と曲目は次の通り（出演順、敬称略）。

須山知行・中島警子社中「春の海」▽雅声会「長浜のにぎわい」▽菊塚春秋会「松の栄」▽新都山流大阪府支部「本曲新生」▽中扇喜琇鳳社中「秋の言葉」▽博籥民恵社中「四季の夕べ」▽酒井典彦社中「祝典協奏曲」▽菊武潔社中「雲雀の曲」▽菊扇弘子と琴栄会「龍宮の城へ」▽菊井箏楽社「うてや鼓」▽遊琴会「大和川」▽箏曲栄琴会「最中の月」▽菊田歌雄社中「秋の声」▽八千代会「嵯峨の秋」▽箏曲和光会・琴古流玉川社「五十の玉川」▽都山流大阪府支部「本曲平和の山河」

第60回洋舞合同祭（尼崎）

当事業団主催

朝日新聞チャリティー「洋舞合同祭」を12月25、26日、兵庫県尼崎市のアルカイクホールで開催しました。この合同祭は、戦後間もない1946年、歳末助け合いを目的に「関西舞踊家

集団公演」として始まりました。関西舞界の皆さんのご協力により、モダンダンスやクラシックバレエの華やかな舞いが繰り広げられました。今回は11団体（出演者総数646人）にご出演いただきました。

また、当事業団は、第1回から60年連続で出演いただいた江口乙矢・須美子・満典舞踊研究所に、表彰状と記念品を贈呈しました＝写真上。



出演団体は次の通り（出演順）。

【25日】

（児童の部）大阪バレエアカデミー、法村友井バレエ学校＝写真下、江川バレエスクール

（大人の部）本田道子バレエ団・バレエスクール、大阪バレエアカデミー、法村友井ジュニアバレエ団、江川バレエスクール

【26日】

（児童の部）宝塚コドモアテネ、江口乙矢・須美子・満典舞踊研究所、波多野澄子バレエ研究所、野辺恵バレエスタジオ



（大人の部）波多野澄子バレエ研究所、田村弘子バレエ研究所、スズキ・バレエアート・スタジオ、貝谷バレエ団関西研究所

協賛能（大阪）

能楽協会大阪支部、当事業団主催

「歳末助け合い」の協賛能を12月23日、大阪市中央区の大槻能楽堂で開催しました。関西で活躍する観世、宝生、金剛、金春の四流と狂言の大蔵流が出演。歳末恒例の能舞台上、今回は能「巴」「羽衣」「春日龍神」に加え、狂言「太刀奪」が演じられました。午前と午後の2回公演でしたが、いずれも能楽堂の前には開演待ちの列ができ、関心の高さをうかがわせました。後日、収益金50万3014円の寄付を受けました。

第59回各流合同茶会（大阪）

当事業団主催

京阪神で活躍する茶道宗匠の協力を得て、大阪美術倶楽部（大阪市中央区今橋）での各流合同茶会を今年度も13年3月9日と10日の2日間、開催しました。

各日、6流派のお茶席が楽しめる人気の催しで、初日は好天にも恵まれ早朝から大勢のお客

様が来場、お茶席によっては午前中に午後の席の予約が埋まるほどの賑わいで、両日で延べ5千人が、和やかな雰囲気の中でお茶を味わいました＝写真。

懸釜担当の宗匠は以下の通り（敬称略・順不同）。

【9日】表千家＝生形貴重▽裏千家＝中尾宗勢▽武者小路千家＝芳野宗春▽藪内流＝随竹会▽宗徧流＝宗徧流大阪支部▽松風清社＝泉谷亘風

【10日】表千家＝表千家同門会大阪支部▽裏千家＝矢野宗菁▽武者小路千家＝三宅真翁▽松尾流＝上西宗慶▽庸軒流＝柿本梅軒▽一茶庵＝佃一輝

《協賛宗匠》表千家＝木村雅基、森泰輔▽裏千家＝杉本宗璋、杉本宗鴻、村司宗紫▽武者小路千家＝木津宗詮、佐伯江南斎▽藪内流＝藪内流大阪支部五葉会▽古石州流＝本庄扇宗▽遠州流茶道＝筍新会▽花月菴流＝花月菴流大阪支部▽習軒流＝坂田柏苑



第58回歳末朝日チャリティー茶会（名古屋）

当事業団主催。名古屋美術倶楽部協賛

恒例の歳末朝日チャリティー茶会が地元8流派の家元、社中の協力で、12月9日に名古屋市中区栄の名古屋美術倶楽部で開かれました＝写真。

第一席（残月の間）と第二席（葵の間）の茶室で、各流派が交代でお手前を披露しました。茶券1枚で2席分を味わうことができ、約千人が茶の湯を楽しみました。知り合い同士で誘い合って訪れた茶席ファンが多く、年の瀬の慌ただしさが伝わる中、女性の和服姿などが茶室に華やかさを添えていました。

＜協力宗匠＞（敬称略）

第一席 [表千家]＝谷口宗清、柴田紹和、棚橋昭雄 [志野流]＝蜂谷宗玄、綱島章、蜂谷貞朋
[裏千家]＝庄司宗文、中村宗厚 [遠州流]＝丸山宗翠
第二席 [久田流]＝加藤久道 [宗徧流]＝寺尾宗康 [尾州久田流]＝下村瑞晃
[松尾流]＝松尾宗典、尾関宗般



第50回チャリティー大茶会（北九州）

茶道裏千家淡交会北九州支部主催。当事業団など後援

第50回チャリティー大茶会が9月1日、2日に北九州市小倉北区の小倉井筒屋で開かれました。前年に引き続き、東日本大震災の被災者支援も訴えた大茶会では、お茶の菓子には震災被災地の和菓子が添えられました。女性客を中心に大勢が訪れ、平穏なひとときを楽しんでいました。2日間

で1000人を超える方が来場しました。後日、同支部の増井宗榮、奥園宋民副幹事長から収益金の一部21万3057円が当事業団に寄せられました。

杵勝会歳末チャリティー長唄演奏会（東京）

財団法人杵勝会主催。当事業団後援

長唄演奏家の集まり「杵勝会」恒例の「歳末チャリティー長唄演奏会」が12月22日、東京都千代田区の有楽町朝日ホールで開かれました。演奏会には八代目家元の杵屋勝三郎さん、理事長の杵屋勝国さんをはじめ、会員ら約130人が出演。「連獅子」「老松」「四季の山姥」「郭丹前」など14曲を披露しました。後日、10万円が当事業団へ寄付されました。

彩季会チャリティーバザー（東京）

彩季会主催。当事業団後援

皮革工芸品の研究団体「彩季会」（八尾緑代表）による恒例のチャリティーバザーが11月30日と12月1日に、東京都杉並区浜田山の彩季会皮革工芸研究所で開かれました。会場では、会員の手作りの小物やアクセサリ、バッグなどが多数展示即売され、来場者でにぎわいました。バザーの収益が今年も当事業団に寄託されました。

上野学園第53回慈善演奏会（東京）

上野学園主催。当事業団後援

上野学園主催による恒例の慈善演奏会が12月17日、東京都台東区東上野の石橋メモリアルホールで開かれました。「ソプラノの名花、佐藤美枝子の愛する名曲」をテーマに、同大学教授でソプラノ歌手の佐藤美枝子さんがジョルダニ作曲の「カロ・ミオ・ベン」（いとしい私の恋人）ほかを歌い、ピアノ伴奏を吉田由美さんが務めました。演奏会の収益22万4440円が当事業団に寄付されました。

浦和学院高校吹奏楽部チャリティーコンサート（さいたま）

浦和学院高校吹奏楽部主催。当事業団後援

浦和学院高校吹奏楽部の第8回チャリティーコンサートが13年1月6日、さいたま市民会館おみやで開かれました。日本の伝統民謡からクラシック、ポップスまで幅広いジャンルを演奏、ゲストの「琉球國祭り太鼓」のメンバーによる舞踊も披露されました。1月23日には同校の吹奏楽部員が朝日新聞さいたま総局を訪れ、コンサートで集まった10万4881円を当事業団の東日本大震災救援事業に寄付していただきました。

新 3 年 計 画

新3年計画 2013-2015

朝日新聞厚生文化事業団は「新3年計画2013-2015」を作り、13年3月28日の理事会・評議員会で承認されました。

「新3年計画」は、2008年10月に定めたガイドライン「朝日新聞厚生文化事業団の改革と今後の運営」（以下「2008計画」）を改めて総括したうえ、13年に創立85年を迎えた事業団が歩む新しい道筋を示そうと、中長期的な視野も踏まえてまとめたものです。

また、定期預金資産についての新規事業計画による活用や資金運用の基本方針も織り込むこととし、当事業団の理事らで構成する財務委員会の意見も仰いで検討しました。

新3年計画のうち、事業、資産の運用の概要は次の通りです。

事 業

(1) 3本柱の継続

「2008計画」で重点事業とした「障害のある人」「子ども」「高齢者」の事業3本柱は、朝日新聞厚生文化事業団の独自性を示すものとして評価を受け、事業の態勢も整いつつある。新たな3年計画においても、この3本柱を重点事業として踏襲していく。それぞれに、東日本大震災関連の救援事業も取り込んで、今後も他のメディア事業団にはない独自性を発揮していく。

(2) 定期預金資産を活用して新規事業計画

事業団は現在、約20億円の定期預金資産を保有している（基本財産3億円を含まず、東日本大震災指定寄付5億円を含む）。

この定期預金資産を活用した積立資金を充て、3つの特定目的事業に取りかかり、継続中の東日本大震災救援事業とともに実施することとする。創立85周年記念事業を含んで、向こう4-5年を目途に実施していきたい。積立資金の合計額は約13億円とする。

①自閉症支援センターを設立するための事業

積立資金3億円

当事業団の自閉症支援事業は、TEACCHプログラムの紹介、普及を中心に25年を超える実績を持ち、福祉や教育現場に大きな影響を与えてきた。これまでに培った実績と人的資源のネットワークを生かし、自閉症の人への支援を前進させるために「自閉症支援センター（仮）」を創設するプロジェクトをスタートさせる。2013年度は準備や調査に充て、14年度に準備室開設、15年度の本格スタートを目指す。

②グリーンステーションを全国に普及促進する事業

積立資金3億円

東日本大震災に遭った子どものグリーフケアのために学習や生活支援を行う事業を2012年9月に仙台でスタートさせた。この活動の拠点を今後、岩手（陸前高田）と福島（いわき市）にも広げていく予定だが、震災だけでなく交通事故や自殺、病気、あるいは増加する虐待や離婚などによって「親を失った子ども」（社会的養護）へのケアができる機関として全国に拡大することを目指すプロジェクトを推進する。

③高齢者在宅ケアモデル事業

積立資金2億円

人生の最期を迎えるときに、住み慣れた自宅やまち、地域で支援を受けながら生活を送るために何が必要かを具体的にし、在宅（地域）介護の全国モデルとなる事業を実践する。2013年度は事前検討会議、準備室開設にあて、14年度から実施のための事業立案を行う。センター機能を持った在宅看護・介護の拠点を開設し、ユニークな活動を展開することを目指す。

④東日本大震災救援事業

積立資金5億円

東日本大震災救援で当事業団に寄せられた指定寄付金を積立資金として、事業団が独自に行う同震災救援事業の事業費として活用する。②の事業でも、同震災に関連する部分はここから支出する。救援事業は今後3年間にとどまらない。どの事業にも息の長さが求められることを想定して対応していく。

財産の運用

定期預金資産約20億円のうち、「2. 事業」で積立資金として活用するとした計13億円を除く7億円は運用財産として、安定的に運用し、利子収入を事業に活用する。

効率的で安全な運用を図るために、新たに資産運用規程を策定した上で、国債、公債、社債などの安全、安定的な運用方法（投資有価証券の購入）を選択する。

この7億円については、1本にまとめて運用するのではなく、緊急の事態発生時にも臨機応変に支出対応できるよう、分割して運用することとする。財務委員会では、運用財産の活用方法として、突発的に発生する次の災害に即応できるような「災害対策準備積立資金」の設置案もあったが、使用が災害に限定されてしまうため、より広範に即応できるよう、限定をつけずに運用財産とする。

主な後援・協賛・協力事業一覧

日程	催事		主催者	会場
本部事務所（東京）				
3/25～8/26	第6回全東京ろう社会人軟式野球TDリーグ大会	後援	全東京ろう社会人軟式野球連盟	新荒川大橋球場 (東京・北区) ほか
4/9	東日本大震災被災地復興支援「ニューヨーク合唱フェスティバル」	後援	文化芸能国際交流機構	カーネギーホール (米国ニューヨーク市)
4/26～5/2	夢編み倶楽部ハンドメイドニット展	後援	夢編み倶楽部	東京・東急百貨店東横店
4/28・29	第17回ウオーキングフェスタ東京	後援	日本ウオーキング協会、朝日新聞社、小金井市ほか	都立小金井公園など多摩・武蔵野地域
5/2～4	第40回記念日本車椅子バスケットボール選手権大会	後援	日本車椅子バスケットボール連盟、日本障害者スポーツ協会	東京体育館
6/2・3	第28回DP I 日本会議全国集会 in さいたま	後援	DP I 日本会議ほか	さいたま市浦和コミュニティセンター
6/15	日本聾話学校チャリティー映画会	後援	日本聾話学校	東京・日比谷公会堂
6/30・7/1	第41回関東ろう者体育大会	後援	関東ろう連盟	東京都大井埠頭中央海浜公園
7/13・14	第61回関東聾学校陸上競技大会	後援	関東聾学校体育連盟	横浜市三ツ沢公園陸上競技場
7/14・15	日本自閉症協会第22回全国大会	後援	日本自閉症協会	札幌市・かでの27
7/17～22	第27回療育音楽指導者養成研修会	後援	東京ミュージック・ボランティア協会	東京・新宿、小平市ほか
7/25～27	第61回関東聾学校バレーボール大会	後援	関東聾学校体育連盟	宇都宮市体育館
8/9～12、16～19、24～26 ほか	朝日キャンプ	後援	NPO 法人朝日キャンプ	群馬県片品村武尊牧場 キャンプ場ほか
8/22～24	第63回全日本少年野球大会	後援	厚生労働省、全日本少年野球連盟、全国児童自立支援施設協議会、栃木県	栃木県総合運動公園 ほか
8/26	夏の交通遺児家庭を励ます会	後援	交通遺児等を支援する会	静岡県富士宮市・松下牧場 ほか
9/1	第16回電動車椅子サッカー関東大会	後援	関東ブロック電動車椅子サッカー協会、八千代市サッカー協会	千葉県八千代市立市民体育館
9/6	第49回東京都老人クラブ芸能大会	後援	東京都老人クラブ連合会	文京シビックホール
9/9	第25回全国障害者将棋大会	後援	全国障害者将棋大会実行委員会	北とぴあ(東京・北区)
9/20	第42回朗読録音奉仕者感謝の集い	後援	鉄道弘済会、日本盲人福祉委員会	東京・弘済会館
9/26	日本点字図書館・秋のチャリティー映画会	後援	日本点字図書館	なかのZERO(東京)
9/26～28	第39回国際福祉機器展 H. C. R. 2012	協賛	全国社会福祉協議会、保健福祉広報協会	東京ビッグサイト
9/29	チャリティーコンサート「愛のサウンドフェスティバル」	後援	東京光の家	東京・日野市民会館大ホール

日程	催事		主催者	会場
9/30	シンポジウム「国際的に広がる性売買被害」	後援	ポルノ被害と性暴力を考える会	東京・大妻女子大学千代田キャンパス
10/27	第33回全国歯科保健大会	後援	厚生労働省、青森県、青森市、日本歯科医師会、青森県歯科医師会	青森市文化会館
10/27	第43回愛隣会チャリティバザー	後援	愛隣会	愛隣会（東京・目黒区）
10/28・29	第38回みんなの音楽会	後援	東京ミュージック・ボランティア協会	浴風会大ホール（東京・杉並区）
10/30	交通遺児等を支援する会第9回チャリティバザー	後援	交通遺児等を支援する会	エステック情報ビル前広場（東京・西新宿）
11/1～3	サイトワールド2012	後援	日本盲人福祉委員会	東京・すみだ産業会館
11/2～4	第35回日本スリーデーマーチ	後援	日本ウオーキング協会、埼玉県、東松山市、朝日新聞社ほか	埼玉県東松山市などの比企丘陵一帯
11/10	第9回本間一夫文化賞	後援	日本点字図書館	ビッグボックス（東京・高田馬場）
11/11	第59回東京都聴覚障害者大会	後援	東京都聴覚障害者連盟	大田区民ホール
11/16	平成24年度全国社会福祉大会	協賛	厚生労働省、全国社会福祉協議会、中央共同募金会	東京・日比谷公会堂
11/17・18	第16回全国聴覚言語障害者福祉研究交流集会	後援	大阪聴覚障害者福祉会、東京聴覚障害者福祉事業協会、全国ろう重複児・者家族連絡会ほか	東京・国立オリンピック記念青少年総合センター
11/20	第24回国民の健康会議	協賛	全国公私病院連盟	ヤクルトホール（東京・港区）
11/21・22	第5回全国精神保健福祉家族大会～みんなねっと茨城大会	後援	全国精神保健福祉会連合会、茨城県精神保健福祉会連合会	つくば国際会議場
11/25	本間一夫記念チャリティコンサート「高橋悠治+古澤巖」	後援	日本点字図書館	東京文化会館
11/29～12/5	夢編み倶楽部ハンドメイドニット展	後援	夢編み倶楽部	東急百貨店東横店
12月	交通遺児等を支援する会越年助成金	後援	交通遺児等を支援する会	
12/3～7	第50回弘済学園・わたしたちが創る展	後援	鉄道弘済会、東京都社会福祉協議会	JR東京駅丸の内北口地下動輪の広場
12/18	第61回東京都社会福祉大会	協賛	東京都、東京都社会福祉協議会、東京都共同募金会	東京都庁第一本庁舎大会議場
12/20～25	自立援助ホーム「憩いの家」資金バザー	後援	青少年と共に歩む会	日本橋高島屋
13年3/2	メンタルヘルスの集い（第27回日本精神保健会議）	後援	日本精神衛生会	東京・有楽町朝日ホール
3/2	第42回耳の日記念文化祭	後援	東京都聴覚障害者連盟	東京都障害者福祉会館ほか
3/3ほか	第58回「耳の日」記念行事	後援	日本耳鼻咽喉科学会	有楽町朝日スクエアほか
3/24	子育てネット交流会	後援	生活支援きょうどう舎ほか	仙台市戦災復興記念館

日程	催事		主催者	会場
大阪事務所				
通年	第48期電話相談ボランティア養成講座	後援	関西いのちの電話	大阪府立羽衣青少年センターほか
通年	家庭看護の相談と実習教室、短期集中家庭看護実習教室	後援	大同生命厚生文化事業団	大同生命大阪本社ビル
4月～10月	大同生命厚生事業団助成 (地域保健福祉研究、ボランティア活動)	後援	大同生命厚生文化事業団	
4/14	第30回日本ライトハウスチャリティコンサート	後援	日本ライトハウス	ザ・シンフォニーホール (大阪市北区)
4/19～21	第18回総合福祉展「バリアフリー2012」	後援	大阪府社会福祉協議会ほか	インテックス大阪
5/25	「若さの栄養学」春の講演会	後援	若さの栄養学協会	大阪産業創造館
5/27	日本リウマチ友の会第52回全国大会	後援	日本リウマチ友の会	JRホテルクレメント 高松
5/27	第19回共生・共走リレーマラソン	後援	同マラソン実行委員会	花博記念公園鶴見緑地
6/2・3	第7回堺国際ツデーマーチ	後援	堺市、日本ウォーキング協会、朝日新聞社ほか	堺市大仙公園一帯
6/2	「共に生きる16」コンサート	後援	共に生きるコンサート実行委員会	箕面市立メイプルホール大ホール
6/6～10	第27回全国聴覚障害者写真コンテスト	後援	全日本ろうあ連盟	京都市勧業館みやこめッセ
6/17	第19回マインドエアロピクス	後援	マインドエアロピクス実行委員会	大阪市長居障がい者スポーツセンター体育室
7/1～9/30	2012 ボランティア・市民活動体験	後援	大阪市社会福祉協議会、大阪市ボランティア情報センター	大阪市内ほか
7/2・9	第62回近畿児童自立支援施設野球大会	後援	近畿児童福祉施設協議会、大阪市	高槻市萩谷総合公園野球場ほか
7/14	第9回日本高齢者虐待防止学会神戸大会	後援	日本高齢者虐待防止学会	甲南女子大学
7/14	福祉の就職総合フェア 2012 in OSAKA	後援	大阪府、大阪府社会福祉協議会ほか	インテックス大阪2号館
7/14～16、28・29	2012年度障害児育成教育指導者養成夏期連続講座	後援	子どもの城協会	公文教育会館 (大阪市淀川区)
7/21	第18回すいた共生・平和のつどい	後援	同つどい実行委員会	吹田市文化会館
7/24～29	第33回子どもたちの讃歌展	後援	大阪特別支援教育諸学校造形教育研究会ほか	大阪府立江之子島文化芸術創造センター
8/8～13	第29回土と水と緑の学校	後援	アジア協会アジア友の会	和歌山県新宮市高田公民館ほか
8/18～20	自閉症の子どものキャンプ	後援	大阪府青少年活動財団、関西テレビ青少年育成事業団、NPO法人アサヒキャンプ	吉野宮滝野外学校 (奈良県吉野町)
8/24～26	吃音親子サマーキャンプ	後援	日本吃音臨床研究会	彦根市荒神山少年自然の家(滋賀県)

日程	催事		主催者	会場
9/9	第53回大阪知的障がい者福祉大会	後援	大阪手をつなぐ育成会ほか	藤井寺市立市民総合会館
9/29・30	きょうされん第35回全国大会 in ふくい	後援	きょうされん	フェニックス・プラザ (福井市)、福井大学文京キャンパス
9/30	第40回全大阪ろうあ者文化祭	後援	大阪聴力障害者協会、大阪市聴言障害者協会	大阪市長居障がい者スポーツセンター
10/5~7	第37回全日本ろう社会人軟式野球選手権大会	後援	全日本ろう社会人軟式野球連盟	大阪府吹田市・万博記念公園スポーツ広場ほか
10/6	福祉の就職フェア AUTUMN in OSAKA	後援	大阪府、大阪府社会福祉協議会ほか	大阪マーチャンズ・マート(OMMビル)
10/8	大阪YMCA第18回チャリティーラン2012	後援	大阪YMCA、ワイズメンクラブ 国際協会西日本区ほか	大阪城公園
10/12~16	全国ナイスハートバザール INおおさか	後援	大阪授産事業振興センターほか	イオンモール鶴見緑地
10/20	シンポジウム「虐待防止と地域の子ども支援」	後援	西淀川子どもセンター	西淀川区民ホール
10/21	ファインエリアフェスティバル2012	後援	同フェスティバル実行委員会	大阪府立障がい者交流促進センターほか
10/27・28	第31回スポーツフェスタ2012大阪	後援	大阪知的障がい者スポーツ協会	大阪市長居陸上競技場ほか
11/6	第13回大阪救護施設合同文化事業	後援	大阪救護施設合同文化事業運営委員会	太閤園
11/9・10	平成24年度医療社会事業従事者講習会	後援	大阪医療ソーシャルワーカー協会	大阪府社会福祉会館
11/10・11	第48回肢体不自由児者を支援するチャリティーバザー	後援	大阪府肢体不自由児者父母の会連合会ほか	買物公園(八尾市山城町)
11/11	第36回福祉まつり	後援	同まつり実行委員会	関目学園(大阪市城東区)と周辺
11/11	岩本綾 公開講演会「みんな 同じ人間 同じ命」	後援	JDS日本ダウン症協会奈良北支部	奈良市西部会館市民ホール
11/17	こころの子育てインターねっと関西第24回フォーラム	後援	こころの子育てインターねっと関西、大阪人間科学大学大学院ほか	大阪人間科学大学庄屋学舎
11/21	平成24年度大阪府社会福祉大会	後援	大阪府社会福祉協議会	大阪国際交流センター
11/30	「若さの栄養学」秋の講演会	後援	若さの栄養学協会	大阪産業創造館
12/5~8	第19回ノーマライゼーション絵画・創作展	後援	ノーマライゼーションクラブ	大阪市立総合生涯学習センター
12/5~9	第36回チャリティー画展	後援	日曜画家協会	大阪市中央公会堂
12/9	講演「『災害』とこころの健康」	後援	精神障害と社会を考える啓発の会	尼崎市総合文化センター
12/13	第62回施設従事者激励会	後援	大阪民間社会福祉事業従事者共済会	大阪新歌舞伎座

日程	催事		主催者	会場
13年1/16~22	第30回ふれあいの街・チャリティーバザール	後援	大阪府社会福祉協議会成人施設部会・セルフ部会ほか	高島屋堺店
1/20	第33回みんなでつくるコンサート	後援	同コンサート実行委員会	西宮市プレラホール
1/24~29	第32回障がいのある子どもに学ぶ図工展	後援	大阪市小学校教育研究会特別支援教育部、大阪市小学校特別支援教育担任者会	大阪市長居障がい者スポーツセンター
2/2、11、23	福祉の就職フェア WINTER in OSAKA	後援	大阪府、大阪府社会福祉協議会ほか	大阪市立北区民センターなど3カ所
2/3	平成24年度認知症講演会	後援	大阪認知症研究会	千里ライフサイエンスセンター
2/13	第51回衛生教育大阪大会 第55回公衆衛生大阪大会	後援	大阪府、大阪公衆衛生協会ほか	大阪府病院年金会館
2/24	府民のつどい「大きく変わる難病対策の全体像」	後援	大阪府、大阪難病支援センター、大阪難病連	エル・おおさか
3/13~16	第28回肢体不自由児者の作品展	後援	大阪府肢体不自由者協会ほか	大阪市・ドーンセンター
西 部 事 務 所				
通年	西日本カラオケ連合協議会のチャリティー発表会（4回）	後援	西日本カラオケ連合	北九州市内の生涯学習センターほか
12年5/26	第30回北九州精神障害者家族会連合会総会	後援	北九州精神障害者家族会連合会	ウエルとばた
5/27	第50回北九州市障害者スポーツ大会	後援	北九州市障害者スポーツ協会ほか	本城陸上競技場など
5/29~6/3 6/20~25	第47回西部伝統工芸展	協力	日本工芸会ほか	福岡三越 熊本鶴屋百貨店
7/14~17	第33回脳性マヒ児のための母親研修キャンプ	後援	福岡あゆみの会	やすらぎ荘
8/10~12	第57回在宅肢体不自由児海の療育キャンプ	共催	福岡県肢体不自由児協会ほか	福岡県立少年自然の家「玄海の家」
10/14	平成24年度ふれあい体育祭	協力	北九州市母子寡婦福祉会ほか	北九州市総合体育館
10/14・28	第49回福岡県ろうあ者体育大会	後援	福岡県聴覚障害者協会	北九州市障害者スポーツセンターほか
11/10~12/10	第60回手足の不自由な子どもを育てる運動	後援	福岡県肢体不自由児協会ほか	福岡市など福岡県内主要都市
11/23~25	第12回全国障害者芸術・文化祭さが大会	後援	厚生労働省、佐賀県、佐賀市	佐賀市文化会館、佐賀県総合体育館ほか
12/2	第15回北九州市手話フェスティバル	後援	北九州市聴覚障害者協会ほか	北九州市八幡市民会館
13年3/10	第3回全九州ろう社会人軟式野球大会	後援	全九州ろう社会人軟式野球連盟	福岡県糸島市曲がり田公園野球場

日程	催 事		主 催 者	会 場
名古屋事務所				
12年4月～ 10月	第64回赤い羽根協賛児童生徒作品 コンクール	後援	愛知県共同募金会ほか	愛知県庁本庁舎ほか
4/15	第32回愛知県聴覚障害者体育大会	後援	愛知県聴覚障害者協会	小牧勤労センター体育 館ほか
4/28～ 5/27	平成24年度愛知県障害者スポーツ 大会	後援	愛知県、愛知県社会福祉協議会	名古屋・星ヶ丘ボウル ほか
5/6～ 11/25	第9回名古屋市障害者スポーツ大会	後援	名古屋市ほか	瑞穂公園陸上競技場 ほか
5/25～27	第15回国際福祉健康産業展 ～ウェルフェア2012～	後援	名古屋国際見本市委員会	ポートメッセなごや
7/1	第29回愛知県聴覚障害者大会	後援	愛知県聴覚障害者協会	愛西市佐織公民館
8/7～17ほか	2012年度アサヒキャンプ名古屋	後援	NPO法人アサヒキャンプ名古屋	岐阜県中津川市・乙女溪 谷キャンプ場ほか
8/11～16	第29回岐阜心理リハビリテーション 療育キャンプ	後援	岐阜心理リハビリテーション 部会ほか	アイブラザー宮
8/17～22	第40回愛知心理療育キャンプ	後援	愛知心理療育親の会	ホテル ボンセジュール (蒲郡市)
8/17～23	第27回中部ブロック動作法セミナー	後援	三重県心理リハビリテーション 連合会	鈴鹿青少年センター
9/10～ 12/10	第60回手足の不自由な子どもを育て る運動	後援	愛知県肢体不自由児協会	愛知県青い鳥医療福祉 センター
9/15	第99回愛知県障害児療育談話会	後援	愛知県障害児療育談話会連絡 協議会	朝日ホール(朝日新聞 名古屋本社)
9/16	第5回全国柔道事故被害者の会シン ポジウム	後援	全国柔道事故被害者の会	愛知県産業労働センタ ー ウィンクあいち
9/30	第36回 '12 愛のフェスティバル	後援	名古屋手をつなぐ育成会	名古屋手をつなぐ育成 会福祉会館ひろば
10/6	生き生き長寿フェア2012 「はつらつ健康プラザ」	後援	愛知県社会福祉協議会ほか	あいち健康の森公園 (大府市、東浦町)
10/24	第60回愛知県社会福祉大会	後援	愛知県社会福祉協議会ほか	愛知県体育館
10/28	第57回名古屋市身体障害者福祉大会	後援	名古屋市身体障害者福祉連合会	名古屋市公会堂大ホー ル
11/3	脳外傷リハビリテーション講習会	後援	同講習会実行委員会	東建ホール丸の内 (名古屋市)
11/10	第40回医療講演会	共催	三重県重症心身障害児(者)を 守る会	伊勢シティホテル
12/2	第52回愛知県身体障害者福祉大会	後援	愛知県身体障害者福祉団体連合 会ほか	一宮市民会館
13年2/17・ 23	平成24年度知的障害者支援者養成 講座	後援	名古屋手をつなぐ育成会	名古屋手をつなぐ育成 会福祉会館ほか
3/3	第31回耳の日記念聴覚障害者と県民 のつどい	後援	愛知県聴覚障害者協会ほか	幸田町民会館

チャリティー美術展に出展いただいた皆様

(50音順、敬称は略させていただきました)

【日本画】

(あ行)

相嶋崇人	相羽ユキ	青山博之	赤井春水	赤沢嘉則	秋本幸一	浅島裕志	小豆島良耳
阿部一雅	荒井孝	新井陽子	有賀明文	安藤徹	池田夏乎	石踊紘一	石崎昭三
石田幸誠	伊勢巧	板垣青仁	市川保道	市野鷹生	市野晴美	市橋豊美	井手康人
伊藤獨	伊藤正男	犬飼白龍	井上耐子	井上北斗	猪熊佳子	今井武久	岩崎美代子
岩田三枝	岩波昭彦	岩本峯齊	植田清子	上村淳之	鵜飼千佐子	臼井治	内田広己
烏頭尾精	梅岡徳子	梅原幸雄	江川敦志	江川照美	江口佳寿子	蝦名芳枝	遠藤隆稔
大嶋英子	大竹紫水	大月紅石	大野廣子	大森運夫	大矢時保	大矢十四彦	大矢紀
大矢眞弓	岡田郁子	岡田繁憲	岡信孝	岡本彩湖	小川国亜起	小倉理山	押元一敏
落合初美	小山硬	折式田生子					

(か行)

檉下稔	春日あけみ	片山宏	加知満	勝田幸男	加藤恵	加藤哲男	加藤美恵子
加藤佳子	兼島聖司	鎌田紀子	上岡奈苗	河合重政	川崎マリ子	河嶋淳司	川島睦郎
川嶋渉	河津胖子	川辺隆啓	河村沙希	河本正	川本淑子	神林久子	菊川三織子
菊池治子	岸野圭作	木村光宏	金原保則	久芳道信	久保吉郎	久保孝久	久保嶺爾
倉田富美	倉地千枝子	栗原幸彦	黒澤正治	小泉智英	郷倉和子	香西坦子	香野ルミ子
国府克	小島光径	後藤順一	後藤紳也	後藤純男	後藤芳世	小林済	小林裕子
小林正直	小林六博	近藤ミヤ					

(さ行)

齋藤陽	斉藤和	斎藤宗	坂元洋介	佐久間顕一	佐々木経二	佐々木裕而	笹本正明
佐竹雲遊	佐藤晨	佐藤継雄	佐藤啓美	里見穎伸	澤山輝彦	重岡良子	品川成明
篠崎美保子	清水史郎	清水信行	下川辰彦	霜鳥忍	白井久義	杉谷彩光	鈴木紀和子
鈴木竹柏	鈴木至夫	鈴木美津子	千住博	染谷聡之	楚里清		

(た行)

高岡秀造	高木白雲	高木元子	高越甚	高野純子	高橋新三郎	高畑郁子	瀧沢巨森
田口愛子	武市斉孝	武田州左	田島奈須美	多治見早苗	田代邦子	伊達良	田中重造
田中瑞芳	田中基美	谷井恵紅	谷口薫香	田宮栄子	田村仁美	千村俊二	月居和子
辻村和美	土長けい	土屋雅裕	筒井耀也美	角田範子	道家珍彦	戸田みどり	殿南直也
富元秀俊	鳥垣英子	鳥山武弘					

(な行)

中岡友子	長崎莫人	中澤静	中島潔	中島千波	永田実子	中谷温男	中庭隆晴
中野貴雄	仲林敏次	中村宗弘	永森一郎	那波多目功一		成田環	仁木寿美子
西野陽一	西村勝廣	西村光人	西山英子	西脇繁華	沼本三郎	野原真澄	

(は行)

長谷川郁子	服部誠子	浜上俊和
浜田泰介	林孝彦	林田啓江
林芳辰	林美枝子	原武子
原田巧	稗田一穂	日置宏輔
日景博	日比野光雄	平岩洋彦
平尾秀明	平松礼二	廣岡通正
福井時子	福王寺一彦	藤井康夫
藤原志保	藤原祐寛	二川和之
紅山幸水	堀川えい子	堀越保二
本間正英		

(ま行)

馬瀬里子	町田泰宣	松生歩
松尾敏男	松崎良太	松下勝正
松下宣廉	松下園江	松原秀伸
松室加世子	松本進	松本高明
松本勝	松本実	真野尚文

三浦絵衣子	三上俊樹	三沢英伍	水江東穹	水谷勝子	水野収	三谷青子	三宅和光
宮崎観峰	宮本脩子	宮本和胡	村井玉峰	村田晴彦	村田林藏	森英明	

(や行)

矢澤貞子	安川眞慈	谷中武彦	柳績	柳沢正人	山口溪華	山口義明	山下まゆみ
山平貞信	山本恭子	山本静香	山本真一	山本真也	山本兆揚	吉岡三樹子	吉田祥子
吉田多最	吉村誠司	依田有立					

(わ行)

和田洸珀	和田利造	渡辺章雄	渡邊幸子	渡辺富栄	渡邊美喜
------	------	------	------	------	------

【洋画】

(あ行)

饗庭昌貞	青江健二	青木今陽	阿久津正志	浅井清貴	浅井義弘	麻田博子	遊馬賢一
東弘孝	安達康夫	渥美静子	阿部信行	阿部晴美	安部英夫	天津恵	天野吉則
荒井孝	有田守成	安藤公一	飯田道嗣	家田聖子	五百住乙人	猪飼淳	池田くみ子
池田清明	池田洋子	恵俊彦	井阪仁	石川世始子	石川ヨシ子	石倉豊	石阪春生
石澤久夫	石田聖子	石根三千代	石野紀美子	石野容三	石橋武夫	石原章吾	石原ミチオ
泉和博	磯部徹男	板垣千鶴子	板倉美智子	伊丹重男	市川光雄	市村一	井手典子
伊藤和義	伊藤清和	伊藤順子	伊藤純子	伊藤昭蔵	伊藤隆	伊藤秀男	伊東博子
伊藤弘之	伊藤文男	伊藤万几子	井藤雅博	伊藤康夫	稲垣考二	稲垣龍雄	
稲田ハル (故人)		井上圭史	井上憲一	井上利哉	井口由多可	伊庭新太郎	今永安雄
今村昭寛	今村价男	入江観	岩崎雄造	岩田視司	岩田知幸	岩谷康世	岩渕晃三



岩本かづえ イ・ワヤン・シーラ
 上木伸之 上嶋スミコ 上尚司
 上田ますみ 上野憲一 上野千代子
 上野理男 上橋薫 臼井恵之輔
 碓井たか子 宇田喜久子 宇野孝之
 宇野義行 生方純一 梅村徹
 浦川彰子 栄永大治良 江上寿夫
 江添栄一郎 榎本多恵子 江本繪門
 江本佳寿子 遠藤晴夫 王前一馬
 大石つね子 大岡立 大川浩市
 大口邦子 大熊峻 大島幸夫
 大谷哲生 大津英敏 大附晋
 大西生余子 大西弘之 大見巧
 大森良三 大山富夫 岡貞徳
 岡田圭介 緒方洪章 岡千秋



岡宏 岡村敦子 岡本正尹
 沖田廉平 沖中勝則 奥田喜一
 小澤一正 尾澤達也 小沢眞弓
 小野仁良 小原キク 尾松直

小川清子 小川幸紅 小川周二 雄川ちづ子
 奥村聰臣 尾崎功 尾崎重春 尾崎ゆき子 納健
 小田島えい子 織田義郎 越智節昇 乙丸哲延
 面矢元子 折本美祢子

(か行)

加古千恵子 笠井誠一 春日井正 片山弘明 勝呂隆光 加藤助八 加藤千太郎 加藤大博
 加藤トオル 加藤信子 加藤茂外次 加藤吉春 金井順子 壁下孝 上所幹彦
 辛島一誓 (故人) 川井一義 河井達海 (故人) 川口輝夫 河西昭治 河野宗之蒸
 川原比瑛子 川雅吉 河村斗世子 河村雅文 木浦寛治 菊池郁子 菊地洋二 喜澤のり子
 岸田淳平 岸田夏子 岸野昭 北口嘉亮 木谷利江 北野隆祥 北見隆 北村美枝
 橋田政明 木寺淳二 鬼頭恭子 城戸幸子 城戸義郎 木下實之 樹林雅生 木俣滋彦
 木村信之 木村正志 木村優博 木脇康一 日下直樹 草壁隆 草野直己 久世瑠璃
 久保田政子 倉田和夫 倉田政子 倉持正 栗田政勝 黒木郁朝 黒木邦彦 黒木トシ子
 黒木雅彦 黒沢信男 黒田秀方 黒田富紀子 黒田勝 黒田保臣 黒柳弘行 桑島春彦
 小池かよ 小泉元生 小泉守邦 甲谷武 河本和子 小阪謙造 小阪弘子 五島まさを
 小杉小二郎 小瀬垣宏郎 後藤昭夫 小早川協右 小林千枝 小林八重子 小林裕児 小柳晟
 小柳幸代 小山オサム 小山成 近藤昭彦 近藤幸

(さ行)

斎藤吾朗 斎藤孝弘 斎藤千川子 斎藤由比 佐伯浩 酒井英利 坂谷和夫 坂中功一郎
 坂本よしこ 櫻井孝美 桜井陽彦 佐光亜紀子 佐々木馨 佐崎紘一 佐々木貞夫 佐々木澄江
 佐々木友幸 佐々謙二 佐藤一成 佐藤勝信 佐藤潤 佐藤忠彦 佐藤富美子 佐藤義光
 佐野千津子 佐野比呂志 佐伯喜三郎 猿渡士郎 澤辺茂男 塩川佑子 志賀源吾 四方道夫

七里和子	芝田キク	柴田美智子	芝芳雄	嶋谷卓之	嶋谷美鈴	島田安雄	嶋津俊則
清水亟悞	清水鉄彌	清水佳子	下園由莉	白川順子	白坂介明	白鳥三郎	白山扶士子
新宅光男	水藤澄子	菅原洸人	杉浦充	杉田明維子	杉村美文 (故人)		杉本澄男
杉山英子	鈴江章郎	鈴木勝之	鈴木貞子	鈴木田俊二	鈴木奈緒	鈴木延雄	鈴木福男
鷺見康夫	瀬尾一嘉	関口貴美	関拓司	瀬下ゆり子	世利徹郎	相馬貞夫	園山幹生
祖父江弘幸							

(た行)

大門正忠	田浦信勝	高木政彦	高野元孝	高橋一善	高松政子	多賀谷無人	高山晃
田川知子	滝沢直次	滝滋	瀧田依子	宅田忠正	田口正子	田口貴久	竹内喜久江
竹内重行	竹内靖夫	竹内雍子	竹生節男	竹下功	竹中稔量	竹原邦樹	田澤茂
多田すみえ	多田晴義	たちようこ	辰将成	館内美智子	楯岡和子	田中敏夫	田中ひとえ
田中仁士	田中良	田辺新吾	谷川泰宏	谷口和正	谷田穎郎	谷本暁雄	田伏勉
タマカワ千恵		玉谷明美	玉谷優	田村正幸	知念正文	千原稔	中條健史
塚田清	塚原ヨリ子	塚本英一	塚本吉廣	津川純子	築地進	津田勝利	堤慶
椿野浩二	鶴房健蔵	鶴見雅夫	鶴山好一	出口修	出村幸代	寺井徹	寺沢順子
寺西進三郎	土井邦晃	遠山源吾	戸狩公久	戸高明義	外処旭	富澤尚美	

(な行)

長井功	中井一誠	中井史郎	長井宏之	長川清悦	長澤すみ江	長澤卓重	
ナカジマカツ		中島大三	中島千恵	中島裕司	中嶋美瑛子	中田順	中谷健三
長富博子	中西文彦	中西良招	中根寛	中野治朗	長濱伶子	中村郁夫	中村英
中村一人	中村啓子	中村晃子	中村光幸	中村百合	中山忠彦	中吉照雄	生井京子
檜崎重視	難波忍	仁木雅子	西井義晃	西澤知江子	西田藤三郎	西野一郎	西村純子
西村壽郎	西山徹	新田ゆき子	抜井亀良	塗師祥一郎	沼尾雅代	根萩斎門	
野久保由美子		野田富三郎	野村亜紀子	乃村豊和			

(は行)

萩原栄文	橋本忠夫	長谷岩友	長谷川和子	長谷川仵	浜口美和	濱田進	濱田弘康
濱哲郎	濱本恵一	早川勝	林孝三	林茂樹	原田たかし	原田嘉徳	半澤満
日賀野兼一	樋口貞男	平岩郁郎	平尾倫子	平川富貴子	平野昭子	廣岡清武	広瀬範
広田和典	深川和久	深津静男	福岡幸子	福田陽子	福永紀子	福原満江	福満よさ美
藤井勉	藤浪成喜	藤村サツ子	藤本正男	藤森悠二	藤原慶子	布施久美子	船本清司
ブライアン・ウィリアムズ			別府忠雄	帆足ゆり	保ヶ淵静彦	星功	細川進
細谷久美子	堀井克代	堀尾一郎	堀太郎 (故人)		堀博喜	本多しず子	本間千恵子

(ま行)

前川雅幸	前島隆宇	槇利光	牧野美代子	巻山昌宏	正木茂	柁木高	真砂貞二
マサルW	松井茂樹	松井三希央	松浦正博	松浦安弘	松樹路人	松沢茂雄	松田貴美子
松永罇子	松永知久	松原政祐	松村和紀	松室重親	間中敏子	馬淵鈴美	丸山勝三
三浦敏和	三浦勉	三木義尚	三塩清巳	水野伊津子	水野輝子	水野一	水野尚

溝渕泰史	源尊磨	三柘明子	三宅四郎	宮崎進	宮下由夫	宮田翁輔	宮平勉
宮本玄雲	宮本裕之	宮山博司	三好準治	三輪吉三郎	村井成好	村井洋子	村岡顕美
村瀬京平	村田伊佐夫	村山陽	毛利弘子	望月美江	森勇	森茂子	森下一夫
森下ヒロ子	森田眞	森田幸宏	森長武雄	森文男	森本計一	森本有一	

(や行)

八木時子	安井正子	安居素子	安富信也	安福葉子	柳瀬俊泰	矢野喜久男	矢萩武三志
八尋隆徳	藪野健	矢部聡	山尾才	山岸用之介	山口剛生	山口静治	山口隆夫
山口美佐子	山下恒子	山下毅	山田正二	山田典男	山田嘉彦	山手正彦	山寺重子
山之内弘	山羽斌士	山本亞稀	やまもと悦子		山本悦子	山本虎雄	山本文彦
横井三郎	横山申生	横山了平	吉井爽子	吉岡耕二	吉城弘	吉田伊佐	吉田清光
吉田淳一	吉田敏男	吉田緑	吉野清	吉松八重樹	吉村美令由	米田整弘	余村展

(わ行)

わたせせいぞう		渡辺明	渡辺一夫	渡辺卓美	渡辺とめ	渡辺正夫	渡邊妙法
渡辺良一	和田行雄	渡紀美子					

【工芸】

(あ行)

相羽鴻一郎	青木九仁博	青木拳	栗生屋東洸	青山鉄郎	赤毛敏男	秋野宏和	浅蔵五十吉
浅原千代治	足利直子	東正之	与勇輝	安達章	安達雅一	新歓嗣	雨宮弥太郎
荒井さつき	荒川達	荒木広	嵐一夫	有松進	有本空玄	安藤和久	安藤光一
安藤敏彦	安藤則義	安藤博允	池島玲子	池田珪子	石井視子	石田征希	石野泰造
石橋裕史	石山静男	伊豆蔵幸治	伊勢崎淳	伊勢崎創	磯谷晴弘	磯部晃	市川博一
市川正美	市野悦夫	市野元祥	市野元和	市野哲次	市野年成	市野英一	市野雅彦
市野正大	市野勝	糸井康博	伊藤敦子	伊藤憲一	伊藤優	伊東祐一	伊藤良典
伊藤渡	稲垣太津男	稲垣幹夫	稲嶺盛吉	稲荷作	井上浩一	井上萬二	井上康德
井上楊彩	今泉今右衛門		今井紀昭	今井政之	今西方哉	今村博	伊村徳子
井村まゆみ	岩井香楠子	岩瀬健一	イワタルリ	岩本孝志	上田菊明	上田寿方	上田哲也
鶉飼真知子	宇田川溪山	宇田川玄翁	(故人)	内堀敏房	内村幹雄	内村由紀	内山政義
浦上光弘	うら林あきお		永楽善五郎	江口康成	大泉讚	大上巧	大河内泰弘
大川正洋	大倉貞義	大倉真汝	大塩玉泉	大塩昭山	大塩正義	大嶋久興	大須賀選
大角幸枝	太田和明	大谷昌拵	太田貢	太田良二	大槻昌子	大野晃幹	大野耕太郎
大野昭和斎	大野誠二	大橋聡子	大場匠	大樋勘兵衛	大樋朔芳	大樋長左衛門	
大樋年雄	大平和正	大平孝昭	岡澤伸之	岡田崇人	緒方修一	岡田親彦	岡田春海
岡田裕	岡本篤	岡本信也	岡本白水	岡本碧山	(故人)	小川真之助	
小川長楽	小川二楽	荻内善晴	荻原毅久	荻原守彦	奥田浩堂	奥村公規	奥村繁豊
奥山峰石	小倉健	小椋範彦	桶谷洋	尾西楽斎	小畑裕司	尾張裕峯	

(か行)

加賀瑞山	角谷英明	各見飛出記	隠崎隆一	加古勝己	鹿児島成恵	鹿島和生	梶原茂正
------	------	-------	------	------	-------	------	------

片岡宏幹	片山雅博	勝尾青龍洞	勝尾龍彦	勝田文博	勝田保子	桂寛	加藤永司
加藤錦雄	加藤錦三	加藤溪山	加藤孝造	加藤幸兵衛	加藤作助	加藤尊也	加藤唐三郎
加藤土史路	加藤土代久	加藤允	加藤美土里	加藤佑	加藤陽児	加藤嘉明	加藤廉平
金森伸郎	可児一広	金子信彦	金子認	金重晃介	金重利右衛門		加納義光
樺澤健治	鎌田幸二	神谷英介	亀井幸一	亀井勝	加守田太郎	川井明子	川井明美
河井喜代子	河合竹彦	河井透	河井敏孝	川合正樹	河上恭一郎	川上清美	川上力三
川北浩彦	川北良造	河口純一	川口保規	川崎鳳嶽	河島伝十郎	河内國平	川手敏雄
河端一海	川端近左	川端文男	川原和夫	川淵直樹	神崎継春	神崎正英	神戸保明
神戸義憲	菊池昭	菊池挙子	岸本久泉	北大路泰嗣	北岡秀雄	北口夢石	北野勝彦
北村和義	北村堅治	北村英昭	吉向孝造 (九世松月)		吉向琮斎 (八世松月)		
吉向蕃斎 (七世松月)	衣川俊仁	木村芳之助	木村玉舟	木村素静	木村展之	木村雅子	
木村充良	木村盛和	木村盛伸	木村盛康	清水六兵衛	吉良博	久野勝生	栗林一夫
黒岩卓實	黒木国昭	黒田正玄	黒田暢	黒田儀男	黒野丈治	桑原みさ雄	桑山圭洋
元田五山	鯉江廣	小出甚吉	厚東建信	厚東孝明	神山直彦	神山易久	小島憲二
小嶋太郎	小谷多美子	小峠葛芳	小西陶蔵	小西朋子	小西博雄	小橋川清次	小林一雄
小林一富美	小林東洋	小林浩	小林文一	小林貢	小林勇超	小林理恵	小南吉彦
小室幸雄	小森邦衛	小谷内和央	小柳種圓	小山貴由	近藤しゅうじ		近藤精宏
今野春雄							

(さ行)

斎木勲	齋藤修	齋藤鷹郎	斉藤則行	斉藤裕子	西念秋生	佐伯健剛	坂井修
阪井舜	酒井田柿右衛門		坂井貂聖	坂井教人	酒井芳樹	榊原啓司	榊原勇一
坂高麗左衛門		坂田甚内	坂手春美	坂本俊人	佐久間藤也	笹岡基三	佐々木厚
佐々木省庵	佐々木二郎	佐々木苑子	佐々木強	佐々木雅浩	佐々木悠紀子		佐藤和彦
佐藤苔助	佐藤喬	佐藤巧	佐藤二子	佐藤泰子	佐藤亮	佐土浩一	佐野寛
寒川栖豊	皿谷実	澤克典	澤清嗣	沢田重雄	沢田豊山	篠崎英明	柴岡信義
柴田好明	芝山吉邦	島岡桂	島田緋陶志	島田文雄	清水潮	清水潤	清水醉月
清水剛	清水千代市	清水俊彦	志村ふくみ	志村洋子	庄村健	白武初芳	白幡明
城間栄順	新庄貞嗣	新谷一郎	神農巖	末次観節	杉江明美	杉江善次	杉本貞光
鈴木藏	鈴木環	鈴木五郎	鈴木三成	鈴木茂至	鈴木爽司	薄田浩司	鈴木富雄
鈴木直喜	鈴木量	砂田正博	諏訪蘇山	曾我阿嬉子	十河慶子		

(た行)

平良敏子	高岡久美子	高権成	高取八山	高橋彰	高橋新六	高橋太久美	高橋政男
高橋楽斎	高橋和三郎	高原卓史	高見勝代	滝口和男	瀧口喜兵衛	武石和春	竹内眞三郎
武腰潤	武腰敏昭	竹田忠生 (尋牛)		武田敏男	竹之内彬裕	炬口佳枝	武村豊徳
竹村繁男	田島明	多田光宏	伊達陽一	田中忍	田中紀子	田中美奈子	田中悠子
棚橋淳	田邊小竹	田邊竹雲齋	谷川仁	谷口玄	谷口幸二	谷口正典	谷清右エ門
谷野明夫	谷本あけみ	谷本洋	田沼春二	田原陶兵衛	玉村松月	玉村登陽	田村敬星

力石俊二	中条照子	塚原三千勝	塚本治彦	塚本満	辻英芳	辻勘之	
辻毅彦 (故人)		辻常陸	津田哲司	土田友湖	土谷道仙	土屋典康	筒井修
筒井辰也	都築青峰	堤圭一	恒岡光興	坪島土平	出口清廣	手塚隆	手塚央
寺井恭	寺田みのる	寺本守	照井一玄	天坊昌彦	徳澤守俊	徳田明美	徳田八十吉
豊住和廣	豊場惺也	豊本信子					
(な行)							
永井素憧	長江哲男	中尾彰秀	中尾英純	中尾恭純	中川進	中里重利	
中里太郎右衛門		中島翁助	中島卓	中島宏	中島保美	中島悠紀夫	中田呂尚
中塚佐一	中根櫻龜	中根秀介	中野一政	長野恵之輔	中野亘	中村眞一	中村雅明
中村實	中村豊	鍋谷聰	鍋谷孝	並木恒延	難波好陽	難波誠治	新美吉昭
西浦武	西岡良弘	西尾茂	西尾瑞舟	西川勝	西川實	西田真也	西村源治
西村松逸 (優)		西村直城	二十歩文雄	根崎隆博	納富晋	野坂和左	野坂康起
野崎賀代子	野嶋峰男	野田東山	延原勝志				
(は行)							
萩井一丘	萩井一司	迫二郎	橋爪靖雄	橋本昇三	蓮善隆	長谷川勇 (故人)	
長谷川文陽	長谷川豊	秦蔵六	波多野善藏	波多野英生	羽田登	波多野正典	麦畑耕生
花輪滋實	羽石修二	馬場九洲夫	馬場弘吉	羽原一晃	浜田英峰	濱中月村	早川収
早川嘉則	林慶六	林健人	林寧彦	林亮次	原清	原田拾六	原田隆峰
ピーター・ハーモン		稗田寿炎	東田茂正	東直人	樋口大桂	樋口雅之	久田邦男
樋上千哲	日野田崇	日比野正明	平澤登	平野豊成	平野祐一	廣澤益次郎	広沢葉子
広田優美子	深川巖	福井由美	福岡琢也	福島寛子	福田喜重	福田参平	藤井敬之
藤田潤	藤塚松星	藤村州二	藤原和	藤原敬介	藤原史暁	藤原楽山	冬柴文廣
古堅幸雄	古瀬堯三	古谷徹	古家喜義	帆足まおり	堀俊郎	堀野証嗣	堀菱子
本郷大田子							
(ま行)							
前田泰昭	前端春斉	前史雄	正宗千春	味舌隆司	眞清水藏六	増田昌弘	松井康陽
松尾潤	松崎健	松嶋弘	松平順彦	松林正人	松村仁団望	松本為佐視	松本勝哉
松本佐一	マツモトタカシ		松本達弥	松本政昭	松本正雄	松本良夫	丸田延親
三浦硯鈴	三木表悦	水野敬子	水野静仙	水野鈺一	水野教雄	水野真澄	溝上藻風
三田村有純	美藤康夫	皆川隆	峯田敏郎	宮川香齋	宮川弘尚	宮田豊	宮田亮平
宮地生成	宮地陶博	宮本直樹	美和隆治	向山文也	夢童由里子	村井一郎	村上東市
村瀬玄之	村田肇一	村山明	室瀬和美	室町勝廣	モーガン・ルイス		本木眞悟
百田暁生	森一蔵	森伊呂久	森一洋	森勝資	森克徳	森里秀夫	森下育郎
森大雅	森田芳伯	森陶山	森本英助	森泰司	森脇文直		
(や行)							
安田龍彦	安田道雄	矢内齊	柳橋修二	藪内佐斗司	矢部篤郎	山内厚可	山内一生
山岸大成	山口堅造	山口重信	山口宏夢	山城建司	山田和	山田和俊	山田耕作

山田孝藏	山田進二	山田正博	山田みどり	山田義明	山近剛	山出勝治	大和潔
大和努	大和保男	大和祐二	大和義昌	山中辰次	山本出	山本象成	山本眞輔
山本唯与志	山本教行	山本秀吉	山本雄一	山本竜一	弓戸好孝	湯村京子	横山直樹
横山尚人	吉賀将夫	吉川修身	吉川千香子	吉川正道	吉川水城	吉田隆	吉田美統
吉田幸央	吉田喜彦	吉富文代	好本宗峯	吉本正	米田萬太郎		

(わ行)

若尾経	若尾利貞	脇田宗孝	脇本定三	和田桐山	渡辺勝竹斎	渡辺松華 (礼而)	
渡辺琢哉	和田一人						

【版画】

(あ行)

齋嘸	秋元幸茂	安東菜々	井川鉞之介	池上壮豊	池間英治	井堂雅夫	井上勝江
植野史煌	浦田周社	大槻玲子	尾崎淳子	尾崎斎晃	小原喜夫	尾山章	園城寺建治

(か行)

片山誓泉	河内成幸	木嶋ちさ加	木田安彦	清田雄司	日下里美	國安珣子	熊谷吾良
黒木良典	古賀章	小崎侃					

(さ行)

サイトウ良	佐久間嘉明	桜井貞夫	塩田みはる	志野和男	白木俊之	鈴木廣	須田敏夫
世古剛							

(た行)

高部多恵子	高柳裕	瀧秀水	田中喜一	田中良平	地井紅雲	茶畑和也	辻憲
鶴岡さゆり	富田文雄	富張広司					

(な行)

なかのよういち	中林忠良	西貝和子	野田哲也	乗兼広人			
---------	------	------	------	------	--	--	--

(は行)

浜本幸男	原三佳恵	藤田慶次	二見彰一	船坂芳助	星野美智子	堀江良一	
------	------	------	------	------	-------	------	--

(ま行)

増田陽一	望月厚介	森岡完介					
------	------	------	--	--	--	--	--

(や行)

山本桂右	山本光生	吉田正樹	代情房子	米倉泰民			
------	------	------	------	------	--	--	--

(わ行)

渡辺達正	渡会純价						
------	------	--	--	--	--	--	--

【書】

(あ行)

浅井機山	綾村捷子	新井光風	飯高和子	池田桂鳳	石本法子	泉雪華	江口大象
榎倉香邨	大石三世子	太田義久	岡美知子	小川東洲	尾崎邑鵬		

(か行)

笠原祥道 榎本桑牛 金澤翔子 杭迫柏樹 黒田賢一 黒野清宇 小島寿 後藤汀鶯
小伏竹村

(さ行)

佐藤煒水 座馬井邨 紫舟 師村妙石 鈴木春朝

(た行)

高木聖鶴 田口尹基子 竹中青琥 田中光徳 田中蘆雪 鼓芳石

(な行)

中川裕皓 中野北溟 中林露風 中村秀峰

(は行)

半田一真 (故人) 東山一郎 秀島踏波 藤岡都逕 藤野北辰 甫田鴉川

(ま行)

増永広春 村上俄山

(わ行)

渡邊笙鶴

【著名人】

(あ行)

藍弥生 秋元きつね 吾妻ひでお 有馬頼底 安西水丸 安野百葉子 石田隆 市田ひろみ
井筒啓之 稲畑汀子 植田豊弼 上野道善 上村貞郎 宇野亜喜良 江上泰山 榎木孝明
蛭原あきら 王貞治 大野玄妙 小澤一雄

(か行)

片山治之 金子兜太 かわぐちかいじ 川津祐介 河村立司 岸徹心 喜田川昌之
きむらゆういち 清原なつの 工藤直子 河野太通 小林太玄 小林隆彰 小堀光詮
小山幸容

(さ行)

さいとう・たかを 酒井駒子 酒井雄哉 坂田藤十郎 狭川宗玄 佐藤邦雄
佐野大義 (故人) 三遊亭圓歌 三遊亭円楽 ジェームス三木 下村瑞晃 宿輪貴子
笑福亭仁鶴 新川和江 杉良太郎 鈴木英人 千玄室 千宗左 千宗室 千宗守

(た行)

高田明浦 高田良信 高橋真琴 多川俊映 武内祐人 竹宮恵子 田島征三 田代卓
立本倫子 田中恭一 谷川浩司 ちばてつや 趙治勲 辻和雲 手塚リサ 東條仁哲
唐仁原教久

(な行)

永井ひろし 中原誠 中村梅之助 鯉江光二 成瀬國晴

(は行)

長谷川大眞 長谷川義史 蜂谷宗玄 羽生善治 はまのゆか 林静一 日野西光尊
藤枝リュウジ 藤子不二雄[Ⓐ] 藤本義一 (故人) 古川薫

- 古川タク 堀江漣子 堀内宗心
 (ま行)
 前田孝道 前田昌道 松久保秀胤
 松長剛山 マツモトヨーコ
 松本零士 美樹本晴彦 水谷八重子
 嶺興嶽 村上康成 森清範
 モンキー・パンチ
 (や行)
 やくみつる 八代亜紀 安井寿磨子
 安彦良和 やなせたかし
 矢吹申彦 山口哲司
 山口マサル ヤマザキマリ
 山藤章二 やよいとしん
 (わ行)
 若尾真一郎



【Next Art展に展示された推薦作品の制作者】

- (あ行)
 石坂祐子 石原七生 伊勢田理沙 稲恒佳奈 岩崎夏子 うじまり 大嶋仁美 巖慧蘭
 (か行)
 柏木菜々子 吉敷麻里亜 こがんち こばやしまな
 (さ行)
 佐々木敬介 佐藤明日香 佐藤紘子 品川亮 白井由美 須貝美和
 (た行)
 竹中薫 谷口朋栄 玉井祥子 田村美智子 千田哲也
 (な行)
 永井優 長坂誠 中村萌
 (は行)
 深田絵理 藤原泰佑
 (ま行)
 松川佳代 松沢真紀
 (や行)
 横山なおみ

ご寄付をいただいた皆様

2012年度に全国の皆様から当事業団に寄せられたご寄付は、総額2億4125万5042円にのぼりました（当事業団の東日本大震災救援事業への寄付を含む）。朝日新聞読者をはじめ、企業、団体、グループ、学校など、多くの皆様が、当事業団を寄託先として選んでくださいました。また、近年は香典返しや遺贈の贈り先に当事業団をご指定いただくことも増えてまいりました。ご寄付いただいた皆様に厚く御礼申し上げます。

お寄せいただいた温かいお志は本事業報告で紹介している、様々な福祉事業に充てさせていたいております。今後ともご支援・ご協力のほど、よろしく願い申し上げます。

なお、ご寄付いただいた皆様は次の通りです（敬称略、順不同）。

※掲載スペースに限りがあるため、東日本大震災救援事業への寄付の方のお名前は、匿名希望の方とともに省かせていただきました。

- ▼北海道：池田幹哉、池田明穂、石原剛文、伊藤美智子、加納昭子、佐藤明男、佐藤巖、滝沢慶彦、田中志津子、谷村一美、根深悟、発寒中央病院
- ▼青森県：葛原徹、佐藤内科小児科医院、田中正彦、中野京子
- ▼岩手県：飯島医院、石川洋子、伊藤智章、佐藤文夫、沢良恭、（有）宮沢新聞店
- ▼宮城県：齋龍馬、佐々木潔、日野洋子
- ▼秋田県：（有）あさ大館中央、佐々木正敏、ASA鷹巣・合川・早口、高橋凌風、中島規道
- ▼山形県：篠田昭男、ASA天童、本間勝喜、松尾美代子
- ▼福島県：阿部勇、荒井俊子、国光正規、鈴木美保子、ASA福島北部、星熊雄、渡部靖子
- ▼茨城県：（株）石本製作所、海老根道雄、大森正興、小澤皓雄、河原正恵、窪田敏廣、小林栄喜、駒井英子、桜井渉、櫻井一郎、佐藤正喜、佐藤忠夫、JX日鉱日石エネルギー労働組合鹿島支部、辻久茂、根本眼科、平山内科クリニック、増田京子、吉田則子
- ▼栃木県：新井正男、石川輝雄、伊藤泰正、鎌田正信、ASA烏山、ASA佐野東部、添谷文子、滝童内のり子、手塚正志、中村研二、中山欣司、西田一巳、林良郎、福田仁、三村美知子
- ▼群馬県：大井戸診療所、金井清、斉藤恵利華、鈴木憲一、蕎麦わたなべ、田中嘉親、長井和子、永島内科医院、西方義一、花岡卓二、柳沢温子、矢作正夫
- ▼埼玉県：新井諒、生井光一、伊藤洋一、伊藤節子・壯、猪俣眼科医院、宇田川潔、江田鈴子、江田鈴子、大澤清、鬼塚磐雄、加藤則子、金子千侍、川内利雄、川越南高校3年4組、鯨井誠、さくらの会、藏元駿三、来馬文雄、鴻生会小室クリニック、ASA小手指・狭山ヶ丘、小松佐敏、小林左千雄、埼玉西部朝日会、埼玉西部朝日会東上第一支部、坂本哲也、佐藤義信、佐藤一利、柴田眞樹、清水由規、下田敏夫・松枝、東海林英二、鈴木富子、鈴木啓之、高石昌弘、高辻保之、寛光夫、武笠弥香、武笠海刀、武笠起代、武笠隆穂、武笠稀風、田中治子、田林クリニック、鉄子写真頒布の会、遠原玲子、徳井尚子、永山保、名越啓史、橋本哲男、浜中隆彦、林年男、原澤茂、春山眼科医院、深谷外科肛門科、（株）フルカワ、古谷信雄、星野宗弘・伸子、松森英明、間鍋碩文、眞庭定雄、三木亮、水谷純男、宮本眼科医院、村岡美佐男、村山明美、村山律子、茂木克己、矢沼実、山内幸夫、山田俊二、吉田操、脇谷精二、渡部二六、渡辺茂樹
- ▼千葉県：秋本満、（株）朝日カルチャーセンター千葉、浅井邦彦、（株）アサヒ、天野高男、天野昌紀、池田守、池田キヨリ、石井従道、宇都宮利善、漆原清、大谷洋平、奥谷賢一郎、音のアトリエ勉強会パレット、海浜整形外科、加藤章吏、加藤昌義、金山達也、鎌田芳夫、唐木田卓司、柄澤侑次、川島正治、河瀬斌、河田留美子、菊池ケイ子、木村スミ、清古高志、桑折勇一、小池菊平、河野君江、今裕之・久子、斉藤まき子、佐々木裕、佐々木信代、

酒卷奉和、佐藤健一、嶋根早苗、白濱雄三、菅原清朔、鈴木恵実子、鈴木喜美子、関根位房、ASA高洲高浜、高橋照美、田口久雄、田口泰子、棚橋智子、小さな親切運動ちばぎん支部、千葉北部朝日会、県立長生高等学校定時制、津田沼病院、中岡進、中野幸子、畠山アイ子、蜂谷佳子、林常蔵、林雅意、廣瀬和市郎、廣瀬忠正、福地美津子、古川医院、平成会、盆子原正啓、増田明、松戸いずみ幼稚園父母の会、松戸いずみ幼稚園、三石昭、武藤弘、森田力、八木澄子、山内幸夫、山崎昇二・真弓・大石心太、山本剛、県立若松高等学校紫苑祭バザー幸せのおすそわけシュシュ、渡瀬嘉朗

- ▼東京都：秋山健一、秋津眼科医院、秋本祐作・満子、ASA大塚仲町、ASA下北沢、ASA府中西部、朝日新聞社販売局、阿佐谷クリニック、浅野紗智子、朝日トップス（株）社員会、（株）朝日広告社雑誌部、東晃、油正男、阿部千奈津、天野重夫、荒井康博、有田孝久、安藤満生、飯塚京子、五十嵐篤男、生田靖子、井口澄子、池田恵子、石井哲次郎、石井明美、石塚ハナ子、石塚早智子、石村孝子・希與子、泉泰祐、磯貝博司、出井庸夫、伊藤初江、伊藤元彦、いの耳鼻咽喉科、井上敦夫、井上光子、猪爪七重、医療法人社団櫻美会、岩城由美子、上田親男、学校法人上野学園、宇佐見清／勝美、宇田川正行、内山鶴雄、宇野勝巳、宇野昭二、榎本クリニック、遠藤耳鼻咽喉科・アレルギークリニック、ASA王子神谷、大澤金政、大島尚子、大谷蘭子、大塚栄一、大鶴錦利、大西俊郎、大野医院、大房順雄、大薮龍子、岡田肇、岡村悦子、岡本文子、押田佐知子、鹿児島成恵、長澤絃一、風間喜和子、柏倉康成、鹿島つね、梶谷医院、勝田朋子、加藤幸雄、ASA金町購読者、金岡留美子、金子千恵子、鎌田昭次、川久保福市郎、川口敦子、川端百代、川端章一、河部寛美、菊地まり、岸田隆秀、北村満子、財団法人杵勝会、木下章、ASA木場、木村文治、工藤美、窪田武雄、蔵方宏昌、栗原一郎、功刀正仁、江東観光（株）、小勝竹雄、国府田七郎、小暮堅三、ASA五反田北品川、小林金太郎、小林一正、小林雄太、小林建次、小船次子、小峰真紀子、米良哲、近藤和恵、金剛寺、近藤麗、彩季会、斎藤武子、斎藤益三、坂井典子、酒井満子、坂井則幸、坂口悟、坂和義、佐々木一夫、雑喉潤、佐藤文雄、佐藤治子、佐藤友子、佐藤静夫、佐藤きぬ江、佐藤壽男、澤田稔子、（株）サンケイスーパー、サン・マルコ、志田仁男・瑛子、実践家政科会福祉部、篠原喜美雄、柴田琇一、志摩京子、清水勝・厚子、清水歯科医院、清水太一、下北沢成徳高校生徒会、松庵小学校卒業生一同、上南哲也、白石みどり、白井京子、ASA白金、神2町会、新生企画（有）、杉浦珠真子、杉浦和子、杉本淳子、鈴木幸志、鈴木英雄、鈴木佳香、鈴木以佐夫、鈴木禮吉、墨田区立文花中学校科学部、聖学院小学校宗教部、青原寺、仙頭邦子、そば処福助有志の会、高野貞男、高岡信男、高木勲、高橋和夫、高橋節子、高橋充郎、寶田肇、武井鑑、竹村敏子、橘ダンススクール、田中喜久子、田中操、田辺眼科、種山恵也、田部美智子、玉蟲裕子、田宮貞和、田村クリニック、小さなかけ橋合唱団、辻久美子、椿弥一、寺坂孝子、東間絃、（株）東陽、東洋ビルメンテナンス（株）三菱東京UFJ銀行大手町ビル事業所、ASA東陽町、都甲雄介、富川和壽、富村憲一、富村富榮、ASA豊玉、内藤齊、中川津喜子、中島博和、中田裕康、中西則子、有久園子、中村斐子、中村脩、中山昇、中山大介、名取こずえ、西尾美重、公益社団法人日本コントラクトブリッジ連盟、沼澤仁、野口律子、羽島公子、長谷川寿々子、長谷川誠、長谷川真、ASA八王子南口、羽立賢二、浜田隆、林馨、伴隆司、宏枝、凌矢、伴亘、半沢信芳、東十条歯科医院、日上操、聖学院幼稚園保護者会、飛田寿美子、平井洋・洋子、平井俊策、平井哲夫、平賀正幸、平川恒久、平沼秀男・里枝子、平山医院、深川スミ子、沼沢医院、福井正行、福井一彦、福代衛、藤川雅彦、藤田親代、古川光雄、古田つる子、古橋美江子、古屋亀鶴、古屋幹子、星野富榮、細井胃腸科クリニック、細田雅夫、本浄寺、本多武、本間公也、真板幸子、ASA町田木曾、松井邦夫、松本内科院、見市元、水野八千代、三角偉友、水上篤、宮内繁、宮内修、宮村正廣、向井昌子、村井丕子、富塚茂雄、目黒進、毛利康夫、ASA百草園、社信明、

安江レディースクリニック、柳原國臣、山崎清、山岸寅治、山口八千代、山中偉光、山村隆雄、山本英美子、山本徳治、山本豊子、山本晴美、山脇学園、夢編み倶楽部、吉沢忠一、吉住昭子、吉田雅一、吉和晴子、鷺嶺邦彦、和田裕久、渡辺伎美、渡部通英

- ▼神奈川県：會田秀介、青北、秋山康吉、朝生重幸、ASA田園田奈社員一同、網代和枝、新井敏文、飯沼寿代、飯沼和夫、家本誠一、五十嵐正司、池川明、石川茂、石垣蓉子、石川積司、彩歩の会、石原春久、磯崎功、磯野喜美子、伊東欣二、今川洋子、慶応義塾高等学校ライブラリークラブ今村瑛祐、内須川洸、内山哲哉、(株)エイワ、夢のマーチ、江原利宏、海老名東柏太鼓・和太鼓菜々、m・m、遠藤ゆき、「遠藤ゆきと歌仲間」長井博信、及川サチ、大野出穂、朝日新聞大分販売(有)、大谷祐貴・穂乃佳、ASA大船西部、大矢妙子、大山行雄、大堀末雄、岡村内科医院、奥村莊哉、小栗正文、落合由貴、小野明子、可児和光、笠本康夫、梶谷恵子、檜山紘子、春日廣之助、金子三好、金田智子、ASA鎌倉深沢、ASA上大岡社員一同、ASA上永谷、川戸弘次、川邊和夫、神取シゲ子、喜久村繁、北村幸雄、北村馨、北村皮膚科、木村成一、楠瀬順子、桑田光子、小出廸枝、高口湧太郎・颯太郎、河野美月・冴月・優月・光貴・星矢、ASA港北NT東部、ASA腰越、小杉弘、小菅興正、後藤襄、小林清吉、小宮末雄、斎藤智恵子、斎藤昇、斎藤好次、齊藤きよら、坂本文男、桜井祐二、佐々木澄子、佐々木治、佐々木光明、佐藤等・裕子、佐藤繁納、里見桂子、猿田逸夫、三文オペラ・最知英機、(有)三和看護婦家政婦紹介所、志賀博子、宍戸信子、柴田文子、清水眼科、代田治彦、菅野喜和、杉山孝博、鈴木香穂里、鈴木健次、鈴木光子、須藤一夫、洗足学園中学高等学校洗足会、高石綾子、高田保治、高野ゆり子、武井忠夫、田中京子、田中光男、田中美恵子、谷信男、障害者歩くスキーの集い、たまなわ新聞、手島温子、十河靖子、ASA戸塚中央、飛松和子、富田佳志、富山重成、内藤良実、中尾英一、中川美榮子、中島善範・謹子、中島静江、中村欽五、南條洋子、新原啓、西富房江、ぬのかわ犬猫病院、根岸美恵子、ASA登戸、野中正浩、野村則子、秦修、服部麗子、ミキプルーン剣持グループ有志一同、花澤武、羽毛田修、原山国秀、菱沼保幸、肥田敦美、平田キヨ、(有)ASA平塚旭販売、深澤大央、福原隆司、藤田整形外科、藤野芳郎、藤本広道、細谷正二・洋子、榎谷寿治、丸山和子、三木里子、ASA三ツ境南部、光野淳子、宮野武、宮本尚武、三好征子、村井幸一、望月節子、八十田医院、山口喜一、山口敏恵、山本久恵、譲原昇、横山淑子、吉川虎汰、渡辺当美、渡辺克己、和田尚道、渡部綾子
- ▼新潟県：荒川修二、黒田喜久二、佐々木賢介、(株)速報社、ダンススポーツクラブ妙高ソシヤーズ、八百板秀男、渡辺初男
- ▼富山県：太田正之
- ▼石川県：田坂登、松本俊彦、松本清美
- ▼福井県：真田一郎
- ▼山梨県：中沢久子、日原良二、藤田みや子
- ▼長野県：上田腎臓クリニック、釜口医院、小坂健介、小林敦、堤よう子、中澤弘行、洞澤茂、宮坂正、宮沢東洋雄、望月正子、師岡恒司、和井田祐三
- ▼岐阜県：ASA多治見中央、石井田鶴子、熊谷八重子、坂田茂樹、篠原厚子・けい子、田ノ井久子、寺崎啓一、根崎浩郎、ヒーリングサロンForest・森雄二、松本美千代、水口和子、麦島順、森雄二、吉田伸子
- ▼静岡県：石田敏、今村重美子、江間茂、片山偉三男、鎌垣龍彦、川合房子、川村整形外科、稀代幸雄、財団法人静岡県高等学校野球連盟、指出泌尿器科、佐野ヒフ科クリニック、菅ヶ谷内科医院、大王リバーサイド店、田内堅二、多々良幸子、(有)多々良新聞店、永井素大、中島康平、中村潔、日野昌徳、野武二郎、服部医院、広瀬京子、前田和彦、(株)三島新聞堂、吉川医院、吉田三毅夫

- ▼愛知県：愛知商業高等学校生徒会、青木茂、青島鍵一、青島正次郎、浅井広子、ASA有松・山田健治、ASA蒲郡・村上匠、ASA日進・早乙女一美、ASA碧南・小久保茂樹、荒川敏夫、アルファクリニック、安藤政男、伊藤健、伊藤隆之、稲垣克己・脩世、今井常喜、臼井ひさこ、臼井昭仁、内海紀章、梅木富美子、H・S、大石文恵、太田俊二、太田宏、大宮孝、尾関博、尾野忠雄、表山クリニック・魚住義明、加古善輝、春日井正、加藤文男、加藤忠、蟹江大作、兼松栄子、上阪堅一郎、神谷一嘉、川崎吉治郎、北脇達也、木村タエ子、木村多化子、久下芳秋、黒田斌嗣、黒谷次郎一、小林昌雄、斎木清治、斎藤洋子、佐々木征四郎、佐藤孝一、渋谷正章、菅原光男、杉本宗孝、高橋昭彦、谷口国雄、(株)中部朝日広告、とよた♡笑いクラブ、永原鑛二、名古屋美術青年会、名古屋モード学園モードリンピック、南原彩稀子、野田一三、野武二郎、服部明、早川常彦、早川七郎、林智心、林弘、原通廣、樋口禮治、平塚久男、福田節子、藤川鈕子、藤丸勝己、ボランティアグループもくれん、前田和彦、松田浩之、松野辰弥、三木眞嗣、宮崎一三、名古屋深雪会会長・瀧上渥子、武藤郁子、森幸栄、山田美智子、山中寛紀、渡辺武夫、鰐淵誠吾
- ▼三重県：ASA津販売、県立いなべ総合学園高校2年6組、鶴飼眞波、大野早苗、岡本雪男、亀井邦明、神戸道、北越敏彦、近藤育夫、阪田幸代、(有)ナオ、野呂純一、盆栽友人趣味の会、前島小夜、水谷鎮至、柳瀬恒範、山本克己、米山芳久
- ▼滋賀県：岩元市三、岩元俊子、植村良雄、落合健二、岸和恵、木之下正彦、小西医院、白木孝尚、辻寅建設(株)、鳥居久仁子、藤野滋、増田強、村井宏行
- ▼京都府：浅田照夫、五十棲治子、石本照子、伊藤良子、井上瑞穂、ASA宇治西、大隈靖彦、岡崎芳弘、奥田成子、折井英子、カトリック西院教会・市民クリスマス集い、京都聖母学院中学校・高等学校生徒会、國重阿夜子、古賀円、小牧貫治、須藤朝代、曾我産婦人科、塚本安子、坪井藤二、西千代子、畑一、服部康雄、林隆之、尾藤敏夫、古玉克平、升山春彦、三角勝敏、山下育子、吉田勇、山田健一
- ▼大阪府：朝日新聞信用組合、朝日ビル警備センター、朝福OB会、芦田勉、荒川房江、飯田夏季、伊藤雄大、稲垣千代子、井波静孝、井上智行、井上正子、入木邦子、上田輝雄、江幡淳子、大阪学芸高校平成23年度3年3組、大阪市信用金庫、大阪質屋協同組合、大阪府レクリエーション協会、大阪深雪会、大澤静江、大橋たづ子、大道研二、岡野福市、岡本純恵、奥田信弘、小倉博人、尾崎善博、恩地ヨシ子、(有)門田新聞舗、金澤文子、狩野貴子、(株)富士サービス、川口裕明、木岡逸子、ASA北野田(有)アネット、北箸一雄、木村好美、切通良昭、近鉄タクシー(株)、近鉄百貨店、日下敦子、楠本トミ子、栗山尚子、グレース幼稚園、桑田洋太郎、月輪寺・檜本桑牛、興源寺、朝日新聞河南販売(株)、五嶋心一、小清水英二、小竹順子、小峰聖子、小山敏子、坂元博行、佐藤文夫、佐藤令子、JX日鉱日石エネルギー労働組合関西支部、信夫松枝、柴谷正子、渋谷禮子、清水勇、下出眼科、社領文子、人生道場、末吉武男、菅野正夫、杉浦幸弘、杉本まり子、杉本房枝、杉本晴彦、鈴木サヨ子、須藤高明、聖愛幼稚園、星翔高校、聰田賢治・剛志、(有)大成不動産、公益財団法人大同生命厚生事業団、高岡千代、高草保視、高橋徹、田口鐵男、武林明、辰巳孝、田中勝美、田中良憲、玉川順一、玉井正光、辻長一、辻外科リハビリテーション病院、角崎久仁代、土井甲子郎、土居利夫、百目鬼主計、中尾サチ子、中川ひで美、中島正幸、中島チエ子、中村正明、西浦貴美子、日曜画家協会、能楽協会大阪支部、野口美智子、野下之男、野出栄一、萩原永美子、畑中二郎、87年同期会、馬場三重子、橋本文夫、林昭男、林威三雄、原田昌彦、日置雄毅、日笠修宏、東大阪大学学園祭実行委員会、平井秀夫、廣畑忠明、福井富美恵、福岡甲子郎、福島1丁目東町会一同、福島起代子、福永正弘、福山章紀、福山章紀、藤井弘子、藤井喜美子、藤井敏子、伏谷魁、細川福義、牧栄美、増田武司、松川栄治、松下勤、松原美佐男、松本忠能、円尾クリニック、三浦茂子、三木春一郎、水野診療所、水谷泰子、宮崎弘、宮前忠夫、宮前篤美、森下ヒサ子、明浄学院高等学校吹

- 奏楽部、木金館木工いろは塾、八重橋良勝、八木黎子、安井一雄、安岡内科医院、山中守、山下昇・富子、山田栄子、山田吉男、山田愛子、山田章博、大和梱包、山本輝子、湯浅康子、吉岡和子、吉川裕子、らくだの会、和田信矢、脇田武利、和田純一、渡辺、渡辺医院
- ▼兵庫県：相川英子、ASA芦屋南、東裕子、安部只敏、阿部正史、ASA尼崎東、石川澄子、伊藤通、伊藤みやび、井上壽子、今井勝、尼崎アコーディオンサークル上田隆也、梅田耳鼻咽喉科医院、大江良一、大江良一、大高敦、大堀泉、勝谷芳文、上木五男、川端治子、日下孝明、ASA雲雀ヶ丘、小西孝彦、斉藤静江、斉藤博、阪本洋子、坂元紀子、櫻井節三、佐藤俊三、佐野信三、佐保田全弘、塩崎勝・幸子、柴田一明、嶋村郁子、白野教一、鈴木敏男、蟬川勝己、高田尚彦、高村英子、瀧谷泰博、田中誠一朗、長井史夫、中村俊恵、ASA名谷、西野和男、新田豊二、野口富生、野村朋子、花井彩、広辻眼科、福西秀信、藤岡賢子、佛立寺婦人会、船綱義夫、増田博正、松尾勲、松本茂、三井田祐子、道又央、村居哲、八木辰己、矢内純吉、山下兼一、吉田和雄、和田産婦人科医院
- ▼奈良県：井上美晶、大西和子、岡嶋俊男、表千家青嵐会、川畑宗一、川畑宗一、下村宏、浄土宗崇徳寺安井良道、谷義郎、奈良三重朝日会、南都華香会、野村淑子、野村進、日根文男、福本佳史、藤井昌代、本田佐智子、松本寛子、松本光正、山下隆史
- ▼和歌山県：池田昌生、植田和宏、医療法人青松会、竹中信夫、東谷好子、古山弘江、前田照子、馬淵義也、宮崎弘志、村上久、吉田小夜
- ▼鳥取県：泉司郎、木下謙、田中幸夫、長島修子、福嶋佑二、矢谷啓、山本建子
- ▼岡山県：小川正嗣、高田潤之介、高橋辰雄、田窪建吾、千田健治、徳山孝義、中村淳一、古山和子、三澤通博
- ▼広島県：石井美智子、うめカフェ、大村至正、柿本正廣、佐藤嘉展、立川公正、築山直弘、角田幸信、中村好江、中村耕也、中村英雄、仁賀和歌子、藤井深、古本和枝、村上博孝、村野靖子、吉田暢夫
- ▼山口県：赤川医院、朝日新聞下関販売、天空静香、伊藤光夫、井上茂樹、岩田チエノ、大島喜代子、岡基子、織田哲至、片岡富美子、河上和洋、河上勲、河村茂延、河本眞龍、護國寺、小林三郎、篠田新聞店、隅田茂生、朝日新聞周防美和販売所、社団法人素心会神徳内科医院、高松恵美子、高山晋洋、武居稔博、徳田修、徳山小学校ボランティア委員会、中井亜紀子、林敏雄、原田巖（初称）、日置農業高等学校生徒会、平井敏正、広重清子、深本良一、福永茂藏、藤本裙子、松崎浩司、光内美恵子、安田英史、山岡邦雄、山根惇、山根喜美、ASA柚野、湯田自動車学校、医療法人洋明会友近内科循環器科医院、吉見ラジオ体操おはよう会、脇医院
- ▼徳島県：朝日上方落語会、上甲哲史、溝部登久美
- ▼香川県：市原定宣、真鍋立夫
- ▼愛媛県：愛媛県朝日会、木田洋、桑村勝久、塩見、曾我幸弘、砥部焼陶芸館館長中村昭光、中川壮、ASA北条、松本みつ江
- ▼高知県：嶋崎薫、田口博國
- ▼福岡県：青山整形外科医院、秋成府左治、秋枝蕭子、朝日メディアテック、油絵屋大哲、阿部志朗、阿彌陀寺、荒木不動産、有馬護宏、有田雅子、栗屋梧、安西義孝、安藤倫子、飯田守人、飯塚聖母幼稚園、池田暁彦・加寿子、池島信二、石田明男、石原タロー、石本耕治、伊豆皮フ科医院、一森軍生、稲永清泰、井上善明、井上祐毅・麻衣子・直哉、井上静子、今林昭、今村寿和、今本久美子、井本武彦、岩田光雄、岩崎健治、岩淵邦夫、上田シズエ、植田朋子、梅津法、裏千家淡交会北九州支部、エバーグリーン、遠藤信重・ひろみ、大塚保人、大野清、大石雅史、大江宜春、大林るり子、扇谷範可、大久保主税、太田久香、大西克己、大西純一、大野クミ子、大村公人、岡田良一、岡本昇三、おぎもと外科医院、奥村博一、小倉弘孝、奥野豊、奥平成男、小野山正、小橋修、小原秀俊、遠賀川そろばん教

室、柿添皮膚科医院、梶谷忠夫、加治屋三郎、梶山千里、梶原美恵子、梶務、加藤隆、金子隆彦、兼田キミ子、加未勉、鴨川隆彦、苅田ロータリークラブ一同、河野直重、川関富美子、川原義守、きとう胃腸科内科クリニック、木下京子、木下景子、木村幸隆、木村医院、ASA木屋瀬、九州北部豪雨復興専門職団体、医療法人橋クリニック、金光教若松教会信徒会ニコニコバザー、朽原幸郎、工藤五六、久保一博、倉富千鶴、藏永知彦、倉本恵美子、蔵本一郎、栗原悟、栗山太、黒田哲玄、桑原俊治、桑原純、桑名純恵、小石純也・優美・真理子、光生会久留米厚生病院、古賀哲二、国際ソロプチミスト北九州一東、小熊坂公千、梅谷敬哲、西生寺護持会、酒井チヨ子、坂田春海智、佐々木清、佐々木愛子、佐藤郁男、佐保肇、塩野谷洋子、重光一成、實藤正利、千原欣子、渋江医院、白石内科医院、白石胃腸科内科医院、白土八郎、城後利夫、其阿彌孝子、園田哲也、園田正信、田尾美智代、高木カツヨ、高嶋康年、高橋晶子、高村広、竹中久、田代勝世、田中時雄、田中瑛眞、田中啓介、田沼美雄、田端一敏、田原整形外科医院、土川勝美、土倉外科胃腸科医院、恒富誠、(株)坪井商店、手嶋秀子、天満紀子、土居麗子、常盤薬品(株)北九州支店、戸田三七生、富岡春子、友井滋、取違芳弘、中村壹郎、長治良知、永田諫也、中島与志行、中牟田恭子、中村寿、中村洋子、成重博美、西明義晃、西尾彪、西日本カラオケ連合、日朝高晴、日鉄住金ハード(株)戸畑地区一同、野口美昭、野口貢、野原勲、橋爪光子、橋本俊男、畠中保實、林俊明、原敬二郎、原田しかの、樋口佐和子、樋口千嘉枝、日高孝枝、日高義之、日野喜美男、日比生隼斗、姫路秀明、平井信廣、平尾山病院、平田淑子、平野敏弘、風師山早朝登山会、吹原正子、福島新生、福田宏行、福岡吹奏楽連盟、福岡国税局一同、福島満子、福田礼子、福吉三代子、藤巻義範、藤崎良人、藤田雅之、藤見胃腸科内科医院、藤好三千代、淵上鯉一、古庄三喜男、宗教法人法泉寺、堀益一、堀芳和、前田稔、前田奉一郎、牧山薫、真島敬一郎、松井和弘、松井昭子、松尾健一、松尾宗慈、松木俊正、松下徹、松原建彦、松股会OZUMIクリニック、丸山隆志、魅モード1、三浦豊、水ノ江正、溝口義晴、溝部忠増、光井医院、光富慎吾、光安内科医院、朝日新聞宗像北部、宮崎冬樹、宮田英、宮本産商(株)、向笠洋三、宗田利明、村上歯科医院、村上啓子、村上葉子・靖子、村田純治、明治学園小学校児童会、目原清嗣、メンバーズ椿、森重和好、森脇巖、安木久子、安木ミネ、安田保實、安村茂男、医療法人八十八会ツジ胃腸科医院、矢野寿啓、山下幸子、山下春子、山田初子、山本哲夫、山家内科医院、吉田なおみ、吉永正人・郁子、米倉医院、冷牟田つる子、和田悠祐、渡邊千鶴子

- ▼佐賀県：赤木輝子、石井外科医院、医療法人再整会口石病院、坂井貞義、執行明、檜本純一、豊田俊明、林田隆雄、森病院、ロコモディカル江口病院
- ▼長崎県：石橋盟士、伊藤檜路美、後田敏子、大川一明、下山耳鼻咽喉科医院、高岡願生、中尾カスミ、永田耕作、久部正大、藤原直子、本多工業、三根真理子、宮崎初子、牟田義人、百田眞瑳彦、横岳一秀
- ▼熊本県：浦本恭子、国吉静夫、佐藤公子、医療法人社団翔洋会姫戸医院、田中忠夫、樽海友希、野崎隆、浜崎医院、前川嘉洋、森本政幸
- ▼大分県：朝日新聞日田販売(株)、石崎晃一郎、朝日新聞大分販売(株)、河野なみ子、熊谷治海、椋園ミヨ子、栗本康江、神戸信之、佐々木伸子、定村章二、佐藤トシ子、篠田明二郎、中山政巳、丹羽瑛、野坂浩代、本田和子、美登公希、柳瀬陽之助、矢野智子、山崎福男、吉松忠徳
- ▼宮崎県：赤池義昭、十善会県南病院、高嶋章、田中栄次、富高クミコ
- ▼鹿児島県：有馬俊典、木村龍一郎・理、高城節守、田原睦郎、出水郡医師会立阿久根市民病院、徳世津夫、吉井恵子
- ▼沖縄県：大城和、鍛司

朝日福祉ガイド DVD・ビデオ・本のご案内

◆朝日福祉ガイドDVD◆

- | | |
|--|--|
| 『自閉症の人が見ている世界 全3巻』
セット価格 10,500円
各巻 4,300円 | 自閉症の人の考え方や感じ方の「違い」について、自閉症の人自身が語る言葉と映像は、自閉症を正しく理解する原点。第1巻「自閉症の人の学習スタイル」(63分)・第2巻「自閉症の人が好むこと」(39分+全3巻のダイジェスト21分)・第3巻「13人のエピソード」(85分)。 |
| 『自閉症の子どもの評価 全4巻』
セット価格 18,000円
各巻 4,800円 | 自閉症の人たちを正しく支援する上で、すべての基礎となる評価を詳しく、具体的に、分かりやすく映像化。第1巻「評価のしかた」(65分)・第2巻「評価のポイント」(48分)・第3巻「評価と課題設定」(86分)・第4巻「自立のための評価」(71分)。 |
| 『自閉症の子どもの自立課題 全3巻』
セット価格 13,500円
各巻 4,800円 | 「自分是可以る」という感覚を養い、いろいろなことに取り組む意欲を育て、将来の自立した活動につながる「自立課題」を詳しく紹介。第1巻「自立課題の選び方」(64分)・第2巻「自立課題の作り方」(59分)・第3巻「自立課題のできあがり」(49分)。 |
| 自閉症児の治療教育シリーズ
(米国ノースカロライナ州 TEACCH プログラム) | |
| 各巻 3,000円 | |
| 『自閉症児の明日のためにーTEACCHのねらいと考え方ー』 | プログラムの全体像をセラピストの立場から紹介、自閉症の人たちを援助する上で何が必要かを示唆(49分)。 |
| 『親のための TEACCH プログラム』 | 親が実践できるように、家庭での援助の実際を具体的に分かりやすく紹介(67分)。 |
| 『教師のための TEACCH プログラム』 | 教室やスケジュールの設定、親との連携など、教師や指導員の参考に(69分)。 |
| 『青年期・成人期の TEACCH プログラム』 | 学校卒業後の就職・居住・余暇など青年期・成人期向けの援助法を紹介(55分)。 |

◆朝日福祉ガイドビデオ◆

- | | |
|----------------------|--|
| 『自閉症の治療教育』
3,000円 | 全米自閉症児親の会の様子や米国ノースカロライナ州の自閉症の療育への取り組みを紹介。(60分) |
| 『TEACCH』
3,000円 | TEACCH部で行われている1週間にわたる教師のための訓練セミナーの様子を詳しく紹介。(90分) |

◆朝日福祉ガイドブック◆

- | | |
|-----------------------------|---|
| 『なるほど高次脳機能障害』
1200 円 | 高次脳機能障害を、その障害の理解に始まり、発症から診断、リハビリ、社会参加まで、豊富な事例で解説しています。 |
| 『みんなのうつ』
1000 円 | うつ病の「分かりにくさ」を整理し、正しく理解するための入門書。治療法や対処法も解説。監修は精神科医の大野裕さん。 |
| 『認知症とともに』
1000 円 | 認知症の人や、その家族のために、診断から治療・ケア・介護サービス、施設への入所や看取りまでイラスト入りで解説。 |
| 『自閉症の人を支援するということ』
800 円 | TEACCHプログラムの最高責任者、ゲアリー・メジボフ教授が自閉症の障害とプログラムの内容を分かりやすく解説。 |
| 『自閉症のひとたちへの援助システム』
500 円 | TEACCHプログラムの実践事例を豊富な写真とイラストで紹介しながら、プログラムを日本でいかに生かすかを提案。 |
| 『100%あらたくん』
600 円 | 自閉症のあらたくんの大活躍を、母親が描いた4コママンガ。自閉症の子どもと、その家族の日常が理解できます。 |
| 『精神障害者のホームヘルプサービス』
800 円 | 精神障害を正しく理解し、当事者の立場で支援できるよう、関係者の体験談や豊富な事例で分かりやすく解説しています。 |
| 『きみといっしょに』
500 円 | 全国のLD児を持つ親たちが、LD児への理解や付き合い方をまとめた手引。Q&Aと、推薦する相談・診断機関なども掲載。 |
| 『くるまいす-第3改訂版』
300 円 | 車いすの種類や構造、介助の基礎的な方法やポイントを分かりやすく解説、公共交通機関の利用についても触れています。 |
| 『新・川崎病がわかる本改訂増補版』
500 円 | 乳幼児を中心に発病する原因不明の“川崎病”について症状や特色、療養上の注意、相談窓口などの情報を加えて解説。 |
| 『小児ぜんそくは治る』
500 円 | 小児ぜんそくを正しく理解し、どのように予防し、治していくか。原因への知見を織り込み、分かりやすく解説しています。 |

◆お申し込み・お問い合わせ◆

ご希望の方は電話かFAX、電子メールで下記までお申し込みください。

(タイトル名、数量、送り先、電話番号を明記)

HP (<http://www.asahi-welfare.or.jp/>) からもお申し込みができます。

朝日新聞厚生文化事業団 朝日福祉ガイドブック・DVD・ビデオ係

〒104-8011 東京都中央区築地 5-3-2

tel : 03-5540-7446 fax : 03-5565-1643

朝日新聞厚生文化事業団のあゆみ

人間尊重の原点に立って

朝日新聞厚生文化事業団の設立のきっかけは1923（大正12）年9月1日の関東大震災の被災者救援活動です。朝日新聞社は全国から寄せられた義援金や食料、生活用品を被災者に配り、震災の翌年末には「歳末同情週間」（現在の「歳末助け合い」）を主催し、紙面キャンペーンや街頭募金を始め、美術家や作家などの協力を得た「色紙・短冊即売会」（現在の「朝日チャリティー美術展」）を催しました。これらの寄金を食料や衣料品にかえて生活に困る人々に贈りました。

その後、世界的な経済恐慌で生活困窮者が増え、社会問題が続発したため、28年1月に「社団法人朝日新聞社会事業団」を大阪朝日新聞社に創設しました。「歳末同情週間」の寄金で生活困窮者に慰問袋や無料診療券、常備白米券を配り、困窮者への「出世資金」の貸し出しや農繁期託児所の開設、水上生活者のための無料診療船巡航などを実施しました。学校に弁当を持参できない子どもたちの「欠食児童給食運動」キャンペーンは、現在の学校給食のきっかけとなりました。大阪に公衆衛生訪問婦協会を設立し、保健・育児など多岐にわたる活動は日本の保健師制度の基礎を築きました。

第2次大戦後は、戦災者や引き揚げ者への家庭常備薬や衣料品の配布、傷病兵慰問などの援護事業から始まりました。廃虚の中での明るい話題は、49年9月にインドのネール首相から贈られた象「インディラ」の「移動動物園」でした。半年間で東日本18都市を回り、子どもたちの笑顔を取り戻しました。

52年に社会福祉事業法が制定され、朝日新聞社の東京・大阪・西部各本社にそれぞれ独立の社会福祉法人を設け、「朝日新聞厚生文化事業団」と改称しました。63年には大阪事業団の名古屋支部が独立し、全国展開事業とともに地域福祉事業の推進に着手しました。

戦後の復興とともに本格的な福祉事業への取り組みが始まり、児童福祉法施行5周年を記念して大阪に「アサヒ生駒山キャンプセンター」を開設、児童養護施設の中学生修学旅行や福祉施設で暮らす高齢者の温泉旅行も始まりました。54年8月に第1回の「朝日夏季保育大学」が開かれ、56年2月から始まった「この子たちの親を探そう」運動は、戦争で生き別れた親子146組の対面を実現しました。ハンセン病の正しい理解と患者支援のために「大阪ハンセン病協力会」を設立し、「アサヒベビー相談室」を大阪・名古屋のデパートで開設したほか、大学医学部による全国の無医地区診療など、医療と公衆衛生事業にも力を注ぎました。59年9月の伊勢湾台風、64年6月の新潟地震では被災地に朝日診療車が出動して被災者救護にあたり、全国からの救援物資を配布しました。

高度経済成長とともに事業を拡大しました。三重県多徳島の「アサヒ志摩キャンプセンター」、愛知県梶島の「アサヒキャンプセンター」、千葉県保田海岸の「朝日臨海福祉センター」、大分県九重町の「朝日高原福祉センター」を開設し、福祉施設の子どもや障害のある子どもが参加するキャンプ事業が始まりました。また、激増する交通遺児家庭への支援活動を始め、視覚障害の学生のための奨学金制度も創設しました。

障害のある人や難病患者への支援も本格化し、電動タイプライター・電動車いすの贈呈や普及

キャンペーンを展開。福祉のまちづくりを進める「車いす市民交流集会」や、福祉先進国を訪ねる「車いすヨーロッパの旅」も始まりました。「ヨーロッパの旅」は障害のある人の海外旅行の先駆けとして注目され、これらの集会や旅の参加者の多くが、障害のある人の自立生活運動の中心となりました。また、「朝日ボランティア奨励金」「朝日福祉設備助成金」（86年に「朝日福祉助成金」に統合）を相次いで創設、各地でボランティア講座を開くなど、草の根福祉活動の支援を進め、認知症など介護の必要な高齢者の問題に対応する「アサヒ老人家族相談室」も開設しました。

81年の国際障害者年には「障害者の自立を考えるシンポジウム」を全国で開催し、ノーマライゼーションの理念を基に、コミュニケーション・プリンターや手書き電話、福祉電話装置「ふれあい」などの贈呈運動を展開しました。精神障害者の医療や福祉の先進国である欧米5カ国に視察団を派遣し、日中平和友好条約締結10周年を記念した「日本・中国車いす市民友好相互交流」も実施しました。

また、自閉症の支援システム「TEACCH（ティーチ）プログラム」に着目、米国ノースカロライナ大学から講師を招いて研修会を開き、ガイドブックやビデオを制作・頒布するなど、本格的な普及活動を開始。2002年からはその実践者千人余りが集う「自閉症カンファレンスNIIPPON」を開催しています。同時に学習障害児（LD）の理解を進める公開相談会や、深刻な社会問題となった青少年の「ひきこもり」問題を考えるシンポジウムも各地で開きました。手話の普及とボランティア活動・福祉教育の推進をはかる「全国高校生（大学生）の手話のスピーチコンテスト」は84年にスタート、「手話の甲子園大会」として定着しています。91年からの「アジア障害者の10年」にあたり、全国の障害者施設・団体と協力して、タイ・ベトナム・カンボジア・フィリピンなどに車いすを贈る運動を展開、障害のある現地の人が車いすを製作・修理する工場を開設しました。

一方、83年のアフリカ飢餓救援キャンペーンをはじめ、国内外で起こった災害に対応して、救援募金を呼びかけてきました。91年には「チェルノブイリに光を」キャンペーンを開始、広島・長崎の赤十字病院で被災地の子どもを診療し、現地の医師が被曝（ひばく）治療の研修を受けました。95年1月の阪神淡路大震災では、救援拠点として「朝日ボランティア基地」を開設し、高齢者・障害のある人への緊急援助や仮設住宅世帯、アジアからの留学生、被災児への支援など、多岐にわたって活動。2004年の新潟県中越地震では、被災者の心のケアをはかる事業を展開しました。この実績は11年3月の東日本大震災でも生かされ、両親を失った子どもに一時金を贈る「こども応援金」など、独自の救援事業に取り組んでいます。

東京・大阪・西部・名古屋で独立して活動してきた各事業団は01年4月1日に合併して、「社会福祉法人朝日新聞厚生文化事業団」となり、全国的な活動に力を注いでいます。

08年には創設80年を迎え、記念事業として「子どもへの暴力防止プロジェクト助成」を実施。「児童養護施設・里親家庭の高校生進学応援金」も継続しています。09年度からは「子ども」「障害のある人」「高齢者」を事業の3本柱とする基本方針のもと、活動を続けています。今後とも、これまでの実績を生かし、人間尊重の原点に立って、「共に生きる豊かな福祉社会」の実現をめざし、先駆的な事業に取り組んでまいります。

2012年度 収支計算書

(2012年4月1日～2013年3月31日)

単位：円

事業活動収入	448,693,908	事業活動支出	599,411,265
事業収入	174,574,938	事業支出	314,638,520
児童福祉事業	4,328,974	児童福祉事業	110,865,749
障害者福祉事業	18,421,830	障害者福祉事業	33,467,003
高齢者福祉事業	2,022,560	高齢者福祉事業	81,321,399
チャリティー事業	119,205,477	チャリティー事業	74,155,061
医療と公衆衛生	4,183,985	医療と公衆衛生	398,062
福祉啓発推進	0	福祉啓発推進	1,089,325
朝日福祉ガイド(DVD 他)	26,412,112	朝日福祉ガイド(DVD 他)	13,341,921
寄付金収入	241,255,042		
引当金戻入	31,755,740	引当金繰入	25,361,040
雑収入	1,108,188	人件費	196,404,019
		事務費	61,748,340
		減価償却費	1,094,625
		その他	164,721
事業活動外・特別収入	25,736,461	事業活動外・特別支出	1,197
財産運用収入	25,736,461	貯蔵品廃棄損	1,197
		当期活動収支差額	▲124,982,093
合計	474,430,369	合計	474,430,369

理事・監事・評議員名簿

2013年3月31日現在

社会福祉法人 朝日新聞厚生文化事業団／理事・監事・評議員

(理事6人、監事2人、評議員13人) 敬称略・順不同

理事長	池内 文雄	朝日新聞社常勤顧問、公益財団法人森林文化協会理事長
常務理事	高畑 芳秋	朝日新聞厚生文化事業団常務理事
理 事	佐々木正美	川崎医療福祉大学特任教授
同	炭谷 茂	社会福祉法人恩賜財団済生会理事長、元環境事務次官
同	早瀬 昇	社会福祉法人大阪ボランティア協会常務理事
同	越村佳代子	元社会福祉法人こどもの国協会常勤理事・副園長
監 事	南 靖武	社会福祉法人恩賜財団済生会支部東京都済生会業務担当理事
同	亀岡 保夫	大光監査法人理事長、日本公認会計士協会常務理事
評議員	山田 昭義	社会福祉法人A J U自立の家専務理事
同	野村 寛	元社会福祉法人東京都社会福祉協議会事務局長
同	影山 秀人	弁護士、NPO法人子どもセンターてんぼ理事長
同	阿部 幸雄	社会福祉法人テレビ朝日福祉文化事業団事務局長
同	石川 到覚	大正大学人間学部人間福祉学科教授
同	大塚 晃	上智大学総合人間科学部社会福祉学科教授
同	佐野 信三	元社会福祉法人博愛社理事長
同	長浜 力雄	NPO法人トリトン・アーツ・ネットワーク理事長
同	吉原 健二	財団法人厚生年金事業振興団顧問、元厚生事務次官
同	関戸 衛	元朝日新聞厚生文化事業団常務理事
同	鈴木 健	朝日新聞社広報担当補佐
同	田畑 良治	朝日新聞社財務本部長
同	池内 文雄	朝日新聞社常勤顧問、公益財団法人森林文化協会理事長

お問い合わせ・寄付の受け付け・職員名簿

■本部

〒104-8011 東京都中央区築地5-3-2

TEL03(5540)7446 FAX03(5565)1643

□郵便振替…口座番号「00130-1-9166」

□銀行振り込み…三井住友銀行新橋支店 普通「303668」

■大阪事務所

〒530-8211 大阪府大阪市北区中之島2-3-18

TEL06(6201)8008 FAX06(6231)3004

■西部事務所

〒803-8586 福岡県北九州市小倉北区室町1-1-1

TEL093(563)1284 FAX093(563)1287

■名古屋事務所

〒460-8488 愛知県名古屋市中区栄1-3-3

TEL052(221)0307 FAX052(221)5453

※ご寄付に際して朝日新聞厚生文化事業団が振込料金を負担する「郵便振替用紙」をご希望の方はご請求下さい。銀行振り込みの場合は事前にご連絡下さい。

※各地の朝日新聞本社・支社・総局でもお受けします。

※当事業団への寄付金は所得税法・法人税法による寄付金控除が認められています。

朝日新聞厚生文化事業団職員名簿（2013年3月31日現在）

■本部（東京）

事務局長 安達 周
 事務局次長兼広報担当部長
 谷 啓 之
 管理部長 池谷 澄子
 事業部長 福田 年之
 野崎 貴士
 中村 宣人
 落合 すが子
 勝見 文子
 松岡 百合
 中村 智佐子

■大阪事務所

事務所長 橋本文雄
 事業担当部長 中村 茂高
 岩切 修次
 柳沢 佐和子
 小倉 玲子
 古屋 厚子

■西部事務所

事務所長 重光 雄二
 佐々木 菜摘

■名古屋事務所

事務所長 加藤 正和
 山田 たまみ

THE ASAHI SHIMBUN SOCIAL WELFARE ORGANIZATION

朝日の社会福祉

2012

平成24年度

事業
報告

ホームページで福祉情報を発信しています

<http://www.asahi-welfare.or.jp/>

「2012年度 事業報告」

2012年4月 1日から

2013年3月31日まで

社会福祉法人 朝日新聞厚生文化事業団